

令和2年度

授 業 要 綱

(第2学年)

福岡歯科大学

目 次

【前期】

時 間 割	【区分】	科目番号	
ド イ ツ 語 II	【講義】	OD022001	1
中 国 語 II	【講義】	OD022002	3
ラ イ フ コ ー ス の 社 会 学	【講義】	OD072008	5
比 較 文 化 論	【講義】	OD072011	7
福 博 の 歴 史 と 文 化 探 訪	【講義】	OD072012	9
基 礎 統 計 学	【講義】	OD021007	12
細胞分子生物学実習Ⅰ（分子生物学実習）	【実習】	OD021010	14
医 療 倫 理 学	【講義】	OD021001	16
P r a c t i c a l E n g l i s h II	【講義】	OD021011	18
系 統 解 剖 学 II	【講義】	OD021112	20
発 生 学・組 織 学 演 習 I	【演習】	OD021109	22
菌 の 解 剖 学	【演習】	OD021115	25
生 理 学 II	【講義】	OD021114	29
薬 理 学	【講義】	OD021104	31
生 化 学 I	【講義】	OD021102	36
細 菌 学	【講義】	OD021105	39
菌 科 理 工 学 II	【講義】	OD021113	41
菌 科 医 療 工 学 実 習	【実習】	OD021111	43
衛 生 学	【講義】	OD021107	49
外 科 学	【講義】	OD021304	51

【後期】

時 間 割			
美 学	【講義】	OD022003	55
assertiveness training	【演習】	OD021013	59
S c i e n t i f i c E n g l i s h II	【講義】	OD021012	62
系 統 解 剖 学 III	【講義】	OD021120	64
系 統 解 剖 学 実 習	【実習】	OD021116	66
発 生 学・組 織 学 演 習 II	【演習】	OD021121	68
生 理 学 III	【講義】	OD021122	70

	【区分】	科目番号		
口 腔 薬 理 学	【講義】	OD021117		72
生 化 学 II	【講義】	OD021123		75
機能生物化学実習 I (化学・生化系)	【実習】	OD021110		78
口 腔 細 菌 学	【講義】	OD021118		80
基 礎 免 疫 学	【講義】	OD021119		83
病 理 学	【講義】	OD021106		86
歯 科 理 工 学 III	【講義】	OD021124		89
口 腔 保 健 学 I	【講義】	OD021201		91
生 命 倫 理 学	【講義】	OD021302		93
医 療 ・ 臨 床 心 理 学	【講義】	OD021305		95

前期

令和2年度 授業時間割表 【第2学年】

(前期)

2年生		5	25	25	23	20	10	25	25	25	25	25
月曜日	時間		4月6日	4月13日	4月20日	4月27日	5月4日	5月11日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日
1限目	(9:00-10:20)		生理学Ⅱ-1 601	生理学Ⅱ-2 601	生理学Ⅱ-3 601	生理学Ⅱ-5 601	みどりの日	生理学Ⅱ-7 601	生理学Ⅱ-8 601	生理学Ⅱ-9 601	生理学Ⅱ-10 601	生理学Ⅱ-11 601
2限目	(10:35-11:55)		基礎統計学-1 601	基礎統計学-4 601	基礎統計学-6 601	基礎統計学-8 601		衛生学-9 601	基礎統計学-14 601	基礎統計学-15 601	生化学Ⅰ-8 601	生化学Ⅰ-10 601
3限目	(13:00-14:20)		生化学Ⅰ-1 601	生化学Ⅰ-2 601	生化学Ⅰ-3 601	生化学Ⅰ-4 601		生化学Ⅰ-5 601	生化学Ⅰ-6 601	生化学Ⅰ-7 601	生化学Ⅰ-9 601	生化学Ⅰ-11 601
4限目	(14:35-15:55)		ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-1 601・701・803	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-2 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-3 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-4 601・701・703		ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-5 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-6 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-7 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-8 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ-9 601・701・703
5限目	(16:10-17:30)		衛生学-1 601	衛生学-3 601	衛生学-5 601	衛生学-7 601		衛生学-10 601	衛生学-12 601	衛生学-14 601	衛生学-15 601	【選択】 福博の歴史と文化探訪-6501

2年生												
火曜日	時間		4月7日	4月14日	4月21日	4月28日	5月5日	5月12日	5月19日	5月26日	6月2日	6月9日
1限目	(9:00-10:20)		医療倫理学-1 601	医療倫理学-2 601	医療倫理学-3 601	医療倫理学-5 601	こどもの日	医療倫理学-6 601	医療倫理学-8 601	医療倫理学-9 601	医療倫理学-10 601	医療倫理学-11 601
2限目	(10:35-11:55)		歯科理工学Ⅱ-1 601	歯科理工学Ⅱ-2 601	歯科理工学Ⅱ-3 601	歯科理工学Ⅱ-4 601		歯科理工学Ⅱ-5 601	歯科理工学Ⅱ-6 601	歯科理工学Ⅱ-7 601	歯科理工学Ⅱ-8 601	歯科理工学Ⅱ-9 601
3限目	(13:00-14:20)		歯科医療工学実習Ⅰ-1 402	歯科医療工学実習Ⅰ-4 402	歯科医療工学実習Ⅰ-2 402	歯科医療工学実習Ⅰ-3 402		歯科医療工学実習Ⅰ-12 402	歯科医療工学実習Ⅰ-16 402	歯科医療工学実習Ⅰ-19 402	歯科医療工学実習Ⅰ-22 402	歯科医療工学実習Ⅰ-25 402
4限目	(14:35-15:55)		歯科医療工学実習Ⅱ-2 402	歯科医療工学実習Ⅱ-5 402	歯科医療工学実習Ⅱ-8 402	歯科医療工学実習Ⅱ-11 402		歯科医療工学実習Ⅱ-14 402	歯科医療工学実習Ⅱ-17 402	歯科医療工学実習Ⅱ-20 402	歯科医療工学実習Ⅱ-23 402	歯科医療工学実習Ⅱ-26 402
5限目	(16:10-17:30)		歯科医療工学実習Ⅲ-3 402	歯科医療工学実習Ⅲ-6 402	歯科医療工学実習Ⅲ-9 402	歯科医療工学実習Ⅲ-12 402		歯科医療工学実習Ⅲ-15 402	歯科医療工学実習Ⅲ-18 402	歯科医療工学実習Ⅲ-21 402	歯科医療工学実習Ⅲ-24 402	歯科医療工学実習Ⅲ-27 402

2年生												
水曜日	時間	4月1日	4月8日	4月15日	4月22日	4月29日	5月6日	5月13日	5月20日	5月27日	6月3日	6月10日
1限目	(9:00-10:20)	オリエンテーション	発生理学・組織学演習Ⅰ-1 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-2 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-3 情報処理実習室	昭和の日	振替休日	発生理学・組織学演習Ⅰ-4 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-6 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-8 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-10 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-12 802
2限目	(10:35-11:55)		衛生学-2 601	衛生学-4 601	衛生学-6 601			発生理学・組織学演習Ⅰ-5 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-7 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-9 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-11 情報処理実習室	発生理学・組織学演習Ⅰ-13 802
3限目	(13:00-14:20)		系統解剖学Ⅱ-1 601	系統解剖学Ⅱ-2 601	系統解剖学Ⅱ-3 601			系統解剖学Ⅱ-4 601	系統解剖学Ⅱ-5 601	系統解剖学Ⅱ-6 601	系統解剖学Ⅱ-8 601	系統解剖学Ⅱ-10 601
4限目	(14:35-15:55)		PracticalEnglishⅡ-1 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-3 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-5 503/601/703/803			PracticalEnglishⅡ-4 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-7 503/601/703/803	系統解剖学Ⅱ-7 601	系統解剖学Ⅱ-9 601	系統解剖学Ⅱ-11 601
5限目	(16:10-17:30)		PracticalEnglishⅡ-2 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-4 503/601/703/803	医療倫理学-4 601			衛生学-11 601	衛生学-13 601	PracticalEnglishⅡ-8 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-9 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-10 503/601/703/803

2年生												
木曜日	時間	4月2日	4月9日	4月16日	4月23日	4月30日	5月7日	5月14日	5月21日	5月28日	6月4日	6月11日
1限目	(9:00-10:20)	外科学Ⅰ-1 601	外科学Ⅰ-2 601	外科学Ⅰ-3 601	外科学Ⅰ-4 601	外科学Ⅰ-5 601	外科学Ⅰ-6 601	外科学Ⅰ-7 601	外科学Ⅰ-8 601	外科学Ⅰ-9 601	外科学Ⅰ-10 601	外科学Ⅰ-11 601
2限目	(10:35-11:55)	歯の解剖学-1 601	歯の解剖学-2 601	歯の解剖学-4 601	歯の解剖学-6 601	歯の解剖学-7 601	歯の解剖学-8 601	歯の解剖学-9 601	歯の解剖学-10 601	歯の解剖学-11 601	歯の解剖学-12 601	歯の解剖学-13 601
3限目	(13:00-14:20)	細菌学-1 601	細菌学-3 601	細菌学-5 601	細菌学-7 601	細菌学-9 601	細菌学-11 601	細菌学-13 601	細菌学-15 601	細菌学-17 601	細菌学-19 601	細菌学-21 601
4限目	(14:35-15:55)	細菌学-2 601	細菌学-4 601	細菌学-6 601	細菌学-8 601	細菌学-10 601	細菌学-12 601	細菌学-14 601	細菌学-16 601	細菌学-18 601	細菌学-20 601	細菌学-22 601
5限目	(16:10-17:30)		【選択】 比較文化論-1/ラフラス の社会学-1 501/601	【選択】 比較文化論-2/ラフラス の社会学-2 501/601	【選択】 比較文化論-3/ラフラス の社会学-3 501/601	【選択】 比較文化論-4/ラフラス の社会学-4 501/601	【選択】 比較文化論-5/ラフラス の社会学-5 501/601	【選択】 比較文化論-6/ラフラス の社会学-6 501/601	【選択】 比較文化論-7/ラフラス の社会学-7 501/601	【選択】 比較文化論-8/ラフラス の社会学-8 501/601	【選択】 比較文化論-9/ラフラス の社会学-9 501/601	【選択】 比較文化論-10/ラフラス の社会学-10 501/601

2年生												
金曜日	時間	4月3日	4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	6月5日	6月12日
1限目	(9:00-10:20)		薬理学-1 601	薬理学-3 601	健康診断	薬理学-6 601	薬理学-8 601	薬理学-10 601	薬理学-12 601	薬理学-14 601		
2限目	(10:35-11:55)		薬理学-2 601	薬理学-4 601		薬理学-7 601	薬理学-9 601	薬理学-11 601	薬理学-13 601	薬理学-15 601	薬理学-16 601	薬理学-17 601
3限目	(13:00-14:20)	第1学年 入学式 オリエンテーション	歯の解剖学-3 601	歯の解剖学-5 601		薬理学-5 601	基礎統計学-9 601	衛生学-8 601	基礎統計学-12 601	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-1 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-4 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-7 401
4限目	(14:35-15:55)		基礎統計学-2 601	基礎統計学-5 601		基礎統計学-7 601	基礎統計学-10 601	基礎統計学-11 601	基礎統計学-13 601	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-2 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-5 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-8 401
5限目	(16:10-17:30)		基礎統計学-3 601	【選択】 福博の歴史と文化探訪-1501		生理学Ⅱ-4 601	生理学Ⅱ-6 601	【選択】 福博の歴史と文化探訪-6501	医療倫理学-7 601	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-3 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-6 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-9 401

4月18日
博多学現地見学

5月9日	5月16日	5月30日
博多学現地見学	博多学現地見学	博多学現地見学

25	25	25	5							
6月15日	6月22日	6月29日	7月6日	7月13日	7月20日	7月27日	8月3日	8月10日	8月17日	8月24日
生理学Ⅱ-12 601	生理学Ⅱ-13 601	生理学Ⅱ-14 601	生理学Ⅱ-15 601	定期試験(予定)	定期試験(予定)	学園記念日		山の日		
生化学Ⅰ-12 601	生化学Ⅰ-14 601	生化学Ⅰ-16 601	生化学Ⅰ-18 601							
生化学Ⅰ-13 601	生化学Ⅰ-15 601	生化学Ⅰ-17 601	生化学Ⅰ-19 601							
ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 10 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 11 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 12 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 14 601・701・703							
歯科理工学Ⅱ-10 601	歯科理工学Ⅱ-12 601	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 13 601・701・703	ドイツ語Ⅱ/中国語Ⅱ- 15 601・701・703							

6月16日	6月23日	6月30日	7月7日	7月14日	7月21日	7月28日	8月4日	8月11日	8月18日	8月25日
医療倫理学-12 601	医療倫理学-13 601	医療倫理学-14 601	定期試験(予定)	定期試験(予定)	定期試験(予定)					
歯科理工学Ⅱ-11 601	歯科理工学Ⅱ-13 601	医療倫理学-15 601								
歯科医療工学実習 -28 802	歯科医療工学実習 -31 402	歯科理工学Ⅱ-14 601								
歯科医療工学実習 -29 802	歯科医療工学実習 -32 402	歯科理工学Ⅱ-15 601								
歯科医療工学実習 -30 802	歯科医療工学実習 -33 402	外科学Ⅰ-14 601								

6月17日	6月24日	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日	7月29日	8月5日	8月12日	8月19日	8月26日
発生学・ 組織学演習Ⅰ-14 802	発生学・ 組織学演習Ⅰ-16 802	発生学・ 組織学演習Ⅰ-18 802	定期試験(予定)	定期試験(予定)	定期試験(予定)					
発生学・ 組織学演習Ⅰ-15 802	発生学・ 組織学演習Ⅰ-17 802	発生学・ 組織学演習Ⅰ-19 802								
系統解剖学Ⅱ-12 601	系統解剖学Ⅱ-14 601	系統解剖学Ⅱ-15 601								
系統解剖学Ⅱ-13 601	PracticalEnglishⅡ-12 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-14 503/601/703/803								
PracticalEnglishⅡ-11 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-13 503/601/703/803	PracticalEnglishⅡ-15 503/601/703/803								

6月18日	6月25日	7月2日	7月9日	7月16日	7月23日	7月30日	8月6日	8月13日	8月20日	8月27日
外科学Ⅰ-12 601	外科学Ⅰ-13 601	外科学Ⅰ-15 601	定期試験(予定)	定期試験(予定)	海の日					
歯の解剖学-14 601	歯の解剖学-15 601	歯の解剖学-16 601								
細菌学-23 601	細菌学-24 601	細菌学-25 601								
【選択】 比較文化論-10/ライフワ- ズの社会学-10 501/601	【選択】 比較文化論-12/ライフワ- ズの社会学-12 501/601	【選択】 比較文化論-14/ライフワ- ズの社会学-14 501/601								
【選択】 比較文化論-11/ライフワ- ズの社会学-11 501/601	【選択】 比較文化論-13/ライフワ- ズの社会学-13 501/601	【選択】 比較文化論-15/ライフワ- ズの社会学-15 501/601								

6月19日	6月26日	7月3日	7月10日	7月17日	7月24日	7月31日	8月7日	8月14日	8月21日	8月28日
			定期試験(予定)	定期試験(予定)	スポーツの日					
薬理学-18 601	薬理学-19 601	薬理学-20 601								
細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-13 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-16 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-19 401								
細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-14 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-17 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-20 401								
細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-15 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-18 401	細胞分子生物学実習Ⅰ (分子生物学実習)-21 401								

ドイツ語Ⅱ 【講義】

科目番号 OD022001

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、壬生正博

担当教員：中島邦雄、長尾亮太郎

（一般目標）

本授業では1年次に習った文法事項の定着をはかりつつ、ドイツの国土・社会・文化・人々の暮らしについて学んでゆく。1年次で習った文法事項を復習しながら、未習の文法事項は新たに習得する。

（教育方法）

一年次に習った文法を応用し、生きたドイツ語に触れる。練習問題を用いて文法の復習をする。
（プレゼンテーション）

（学習方法）

1. 授業で扱う範囲の文章をあらかじめ読んで訳し、練習問題にも挑戦してくる。その際、教科書付属のCDを活用すること。
2. ドイツ語は必ず大きな声を出して読むこと。 3. 理解できないところは即座に教員に尋ねること。 4. 関連する本・テレビ番組・インターネット等を通じて、授業で扱うテーマについての情報を収集し、知識を高めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

1. 平常点50点と定期試験50点で評価する。2. 平常点は宿題、小テストと授業中の発表などによる。3. 小テストは7～11課の内容について10回程度行う。4. 積極的に取り組む姿勢に欠ける場合は、平常点から減点される。：定期試験後に成績揭示

（教科書）

1年次に使った教科書を使用する。失くした人は再度購入すること。＜必ず購入＞平川要他著『改訂版・やさしいドイツ語―総合教材―』（同学社） ＜必ず購入＞根本道也編『やさしい！ドイツ語の学習辞典』（同学社）

（参考書）

＜希望者に推薦＞高田・湯浅他『独検5級 合格テクニック』（同学社） 下記の参考書は授業で取り上げることはないが、内容に関する質問は随時受けつける。 大羽 武 編著『医学・歯学・薬学生のための 独英和 総合ドイツ語』（同学社） 高田・湯浅他『独検4級合格テクニック』（同学社）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	中島、長尾	オリエンテーション Lektion 4: 不規則動詞、練習問題5, 6	授業内容と今後の展開の説明。a→ä型とe→i(e)型の不規則動詞を理解する。	1年次の復習。規則動詞の人称変化をしっかりと把握した上で、その変形（口調上の例外、不規則動詞）を理解する	VI-1	認知（想起）	1年次の復習 教科書23-24頁	1.0
2	4/13	中島、長尾	Lektion 4: 練習問題7、反対語、聞き取り練習	不規則動詞を用いた会話作成の練習問題を通じて、日常会話での不規則動詞の使用に慣れる	練習問題で作成した会話は暗記するとともに、しっかりと声を出して上演する。	VI-1	認知（想起）	教科書24頁	1.0
3	4/20	中島、長尾	Lektion 5: 定冠詞と不定冠詞の格変化、練習問題1	定冠詞と不定冠詞の格変化を理解し、それらを用いた構文を理解する。	格変化とは何か？ 慣れることによって次第に理解できるようにになるので、とにかく練習問題を解こう。	VI-1	認知（想起）	教科書25-26頁	1.0
4	4/27	中島、長尾	Lektion 5: 男性弱変化名詞、練習問題1, 2	男性弱変化名詞の格変化の特徴を理解し、それらを用いた構文を理解する。	格変化とは何か？ 慣れることによって次第に理解できるようにになるので、とにかく練習問題を解こう。	VI-1	認知（想起）	教科書26頁	1.0
5	5/11	中島、長尾	Lektion 5: 定冠詞のついた名詞に対する人称代名詞、疑問詞wer	名詞の性にに応じて3人称代名詞が決まり、名詞同様格変化することを理解する。	3人称代名詞の格変化表を暗記する。	VI-1	認知（想起）	教科書27頁	1.0
6	5/18	中島、長尾	Lektion 5: 3格を伴う動詞、練習問題3	gehören+人の3格、 gefallen+人の3格の使い方を学ぶ	日本語の訳とは異なる格変化をする熟語を暗記し、実際に使ってみる。	VI-1	認知（想起）	教科書35-36頁	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	5/25	中島、長尾	Lektion 4 : Dialog 1	駅の窓口での駅員と客の会話をパートナーと役割分担し、教員の前で上演する。	切符の買い方、列車の発着時間についての会話を練習する。	VI-1	認知（想起）	教科書21頁	1.0
8	6/1	中島、長尾	Lektion 5 : 3格と4格の語順、練習問題4、聞き取り練習	一般に名詞の語順は3格-4格だが、代名詞4格は3格の前に置くことを、練習する。	ドイツ語で、日本語同様の順が自由の場合と、英語に似て語順が決まっている場合の違いをはっきりと理解する。	VI-1	認知（想起）	教科書28頁	1.0
9	6/8	中島、長尾	Lektion 5 : Dialog 1	鍵を探す会話をパートナーと役割分担し、教員の前で上演する。	3人称人称代名詞を用いた会話を暗記することによって、日常会話での代名詞の使い方になれる。	VI-1	認知（想起）	教科書25頁	1.0
10	6/15	中島、長尾	Lektion 6 : 定冠詞類と不定冠詞類の格変化	定冠詞類と不定冠詞類の格変化の練習をし、また例文によって格変化した形を理解する。	定冠詞を基にして、その変形として定冠詞類と不定冠詞類があることを理解し、活用できるようにする。	VI-1	認知（想起）	教科書29-31頁	1.0
11	6/22	中島、長尾	Lektion 6 : 練習問題1,2	引き続き定冠詞類と不定冠詞類の格変化を練習する。	たくさんの練習を通じて様々な冠詞のついた名詞の格変化に慣れる。	VI-1	認知（想起）	教科書31頁	1.0
12	6/29	中島、長尾	Lektion 9 : 数詞 (2)	11以上の数字の暗記。ユーロ、西暦の数え方の練習。	1～10の数字を基にして、それ以上大きな数字が作られていることと、1の位と10の位を逆に読むことを理解。	VI-1	認知（想起）	教科書43頁	1.0
13	6/29	中島、長尾	Lektion 6 : 練習問題2,3、聞き取り練習、文の抑揚、bitteの用法	独作文することによって、定冠詞類と不定冠詞類の格変化だけでなくこれまでの文法事項全てのおさらいをする。	ドイツ語文法の3本柱 : ①冠詞類と名詞の格変化、②動詞の人称変化、③語順を確認して、新たな文法ステップへの準備をする	VI-1	認知（想起）	教科書31-32頁	1.0
14	7/6	中島、長尾	Lektion 7 : 人称代名詞の格変化、練習問題1	人称代名詞の文法的説明とその練習。	5回目の授業で説明した名詞の言い換えとしての3人称代名詞の他に、1・2人称代名詞およびその格変化があることを理解し、暗記する。	VI-1	認知（想起）	教科書33-34頁	1.0
15	7/6	中島、長尾	Lektion 9 : 時刻の言い方	日常生活での時刻表現と公共の場での時刻表現を理解する。	公式の時刻の言い方と日常生活でのそれが異なることを理解し、どちらも言えるようにする。	VI-1	認知（想起）	教科書44頁	1.0

中国語Ⅱ 【講義】

科目番号 OD022002

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、壬生正博

担当教員：種村由季子

（一般目標）

①中国語の初歩的な文法を、指定の教科書を用いて学んでいきます。また教科書だけでなく視聴覚教材（中国語のドラマや音楽）を多く取り入れて、中国語を話したり聞き取る力を楽しくかつ実践的に身に付けます。②近年、訪日外国人の増加により、私たちは日常生活の中で外国の人々と知り合う機会に恵まれています。中国もその一つです。街中で中国人観光客に道を尋ねられたり、アルバイト先で中国人留学生と一緒に働いたりすることは今や決して珍しい事ではありません。本授業をきっかけに、中国の歴史や文化に興味・関心を持ち、中国の人々と積極的に交流し理解を深めたいと思う学生が増えれば幸いです。

（教育方法）

指定の教科書を中心に授業を進めます。また視聴覚教材を用いて、聞く・読む・話す・書く、4技能の力を定着させます。定期試験のほか、適宜単語テストや発音チェック等の小テストを行います。

（プレゼンテーション）

（学習方法）

授業前後に、教科書の該当箇所を読み、わからない単語などを前もって辞書等で調べてくることが望ましい。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

小テスト30%、定期試験50%、課題等への取り組み20%で評価します。授業に対する積極的な姿勢を求めます。定期試験終了後に総合評価を掲示する。

（教科書）

丸尾誠等『初級中国語 この一冊 —4技能の修得を目指して—』（金星堂）

（参考書）

授業の中で適宜紹介します。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	種村	第7課「北京のベストシーゾーンは？」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 経験を表す助詞の用法を理解する。 3) 比較の前置詞の用法を理解する	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 経験を表す助詞を用いた例文を学び、練習問題を解く。 3) 比較の前置詞を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	54～59頁	1.0
2	4/13	種村	第7課「北京のベストシーゾーンは？」	1) 第7課の会話文の内容を理解する。 2) 第7課で学んだ文法を復習する。	1) 第7課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第7課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	54～59頁	1.0
3	4/20	種村	第8課「中国語の勉強」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 可能を表す助動詞の用法を理解する。 3) 動作の進行態を表す副詞の用法を理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 可能を表す助動詞を用いた例文を学び、練習問題を解く。 3) 動作の進行態を表す副詞を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	60～65頁	1.0
4	4/27	種村	第8課「中国語の勉強」	1) 第8課の会話文の内容を理解する。 2) 第8課で学んだ文法を復習する。	1) 第8課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第8課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	60～65頁	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	5/11	種村	第9課「リスニングは難しい…」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 結果補語と程度補語について理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 結果補語と程度補語を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	66～71頁	1.0
6	5/18	種村	第9課「リスニングは難しい…」	1) 第9課の会話文の内容を理解する。 2) 第9課で学んだ文法を復習する。	1) 第9課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第9課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	66～71頁	1.0
7	5/25	種村	第10課「サークル活動」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 様態補語について理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 様態補語を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	72～77頁	1.0
8	6/1	種村	第10課「サークル活動」	1) 第10課の会話文の内容を理解する。 2) 第10課で学んだ文法を復習する。	1) 第10課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第10課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	72～77頁	1.0
9	6/8	種村	第11課「携帯電話」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 兼語文の用法を理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 兼語文を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	78～83頁	1.0
10	6/15	種村	第11課「携帯電話」	1) 第11課の会話文の内容を理解する。 2) 第11課で学んだ文法を復習する。	1) 第11課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第11課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	78～83頁	1.0
11	6/22	種村	第12課「財布の紛失」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 方向補語について理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 兼語文を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	84～89頁	1.0
12	6/29	種村	第12課「財布の紛失」	1) 第12課の会話文の内容を理解する。 2) 第12課で学んだ文法を復習する。	1) 第12課の会話文を訳し、ペアやグループで話し合い練習する。 2) 第12課の練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	84～89頁	1.0
13	6/29	種村	第13課「春節に故郷を思う」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 可能補語の用法について理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 可能補語を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	90～95頁	1.0
14	7/6	種村	第13課「春節に故郷を思う」	1) 新出語句の発音や簡体字、意味を覚える。本文の発音を覚える。 2) 可能補語の用法について理解する。	1) ペアやグループで語句や本文の発音を練習する。語句の発音や簡体字、意味を理解する。 2) 可能補語を用いた例文を学び、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	90～95頁	1.0
15	7/6	種村	第7～13課の復習	1) 第7～13課で学んだ単語を復習する。 2) 第7～13課で学んだ文法の要点を復習する。	1) ペアやグループで発音し合ったり、単語を使って文章を作り会話の練習をする。 2) 本文を復習し、練習問題を解く。	VI-1	認知（想起）	56～95頁	1.0

ライフコースの社会学 【講義】

科目番号 OD072008

前期：15コマ

評価責任者：学生部長、埴岡 隆

担当教員：土井 文博

（一般目標）

人間は社会的な存在だと言われる。人間が社会を作り、その社会によって人間が作られる。医療従事者として人と接する上で、医療的な技術だけでなく、人とのコミュニケーション能力が求められるが、この授業では、コミュニケーションと自我、社会生活と価値の特性に焦点を当てながら、人間の特性を学び、コミュニケーションに必要な知識と思考を身につける。

（教育方法）

講義（講義ノート・VTR・PC）

（学習方法）

事前学習としては、講義ノートを予習し、事前に内容を把握しておくこと。授業ではコメントの提出が求められるため、授業時間内にコメントを書けるようにしておくこと。また、事後学習としては、授業で理解できなかった点を文献などを使って復習しておくこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

基本的にはレポートのみ（100%）。ただし、授業内で提出されるコメントは、次の授業で紹介された頻度に応じて、レポート評価に加算される可能性がある。総合評価を掲示する。

（教科書）

なし

（参考書）

作田啓一・井上俊 編『命題コレクション社会学』1986年、筑摩書房 / 井上俊・大村英昭 編著『改訂版 社会学入門』1993年、日本放送出版協会

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/16	土井	導入&自我の社会性	社会と人間の関わりと、人間がいかに環境の影響を受けるかを学び、自我の形成のあり方を理解する。	G. H. クーリーとG. H. ミードの理論による、鏡の作用と自我の社会性について説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
2	4/23	土井	ラベリング論	ラベリングがもたらす怖さと社会生活のしくみを理解する。	H. ベッカーのラベリング論を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
3	4/30	土井	ダブル・バインド	人間のコミュニケーションの複雑さを理解する。	G. ベイトソンのダブル・バインド理論から、コミュニケーションの病理と非言語的要素を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
4	5/7	土井	受け手としての人間の特性	人間がメッセージを受け取る際の特性と難しさを理解する。	現象学的社会学の知見をもとに、社会的知覚というフィルターの存在を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
5	5/14	土井	送り手としての人間の特性	人間がメッセージを送る際の特性と難しさを理解する。	E. ゴッフマンの演劇論と相互行為儀礼論より、人がメッセージを送る工夫や役割について説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	5/21	土井	フロイト	人間の心の中で起こる葛藤から、心のバランス、人と社会のバランスの大切さを理解する。	S.フロイトの精神構造の理論を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
7	5/28	土井	ピアジェ	人間関係のあり方が道徳にどのように影響するかを理解する。	J.ピアジェの理論から、道徳の発達の方を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
8	6/4	土井	自由からの逃走	人間が陥る集団の危険性を理解する。	E.フロムの理論から、権威主義的パーソナリティなどを説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
9	6/11	土井	犯罪の定義	社会における犯罪の定義や役割について理解する。	E.デュルケムの集合意識論から、犯罪の定義について説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
10	6/18	土井	価値の定義	社会における価値の定義や、人々が価値を追い求める姿について理解する。	E.デュルケムの集合意識論から、社会における価値のあり方について説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
11	6/18	土井	宗教生活の原初形態&自殺論	社会生活における宗教性と自殺の潮流について理解する。	E.デュルケムの宗教生活の原初形態と自殺論について説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
12	6/25	土井	大衆文化という名の宗教	大衆文化の中にある宗教性について学び、他人指向型や誇示的消費に走る人々の姿を理解する。	リースマンとヴェブレンの研究を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
13	6/25	土井	メディアによって作られる幻想	メディアの特性を学び、メディアが作る幻想の危険性を理解する。	リップマンとブーアスティンの研究を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
14	7/2	土井	メディア・リテラシー	メディアの技法と影響を学び、メディアに踊らされる危険性を理解する。	メディアにおける、映像、音声、編集の特性について紹介し、メディア・リテラシー教育の重要性を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0
15	7/2	土井	まとめ	社会的動物としての特性を総合的に再確認する。	これまでの授業内容を総括し、あらためて、社会生活における人間の特性を説明する。	Ⅲ-16	認知（解釈）	講義ノートを事前に読み、分からない言葉などを調べておく。	1.0

比較文化論 【講義】

科目番号 OD072011

前期：15コマ

評価責任者：壬生正博

担当教員：壬生正博

矢羽田朋子

（一般目標）

今日の医療従事者には、医療技術を支え、医療コミュニケーションを円滑にし、医療従事者自身のQOLを高めるための広範な知識や考え方が求められている。それらを遂行するためのひとつの切り口として、比較論的な視点を持つことがあげられる。この視点は、医療環境の国際化、医療の国際協力など、国際的な視点を養い、他国の文化についての見識を高めることにも繋がるが、さらに、異領域相互の比較を行うことで、諸問題の本質的理解力が増すことにもなる。この授業ではそのような視点から、現代文化の比較にとどまらず、歴史的な文化背景（神話や伝説なども含めて）の比較や異領域比較をも講義の対象として、多くの実例を参照しながら、視野を広げ、自ら文化間の諸問題を探し出し、自己学習によってそれを考察し解決する力を身につけることを目標とする。

（教育方法）

講義のほか、比較文化の理解を深める目的でDVD、CD、文芸作品等を適宜使用する。
既習事項の理解度を確認する小テストやレポートを課す。

（グループワーク）

（学習方法）

授業前後に、自国文化と他国文化の類似点・相違点を考え、疑問点があれば各自で調べること。 【単位修得に必要な授業外学習

（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

レポート提出、出席、授業態度等により総合的に評価する：掲示により成績通知

（教科書）

プリントを配布する。

（参考書）

青木保『多文化理解』岩波新書、2003年。
久保田信之『ここが違う東西比較文化論』学分社、2006。
三苫民雄『人びとのかたちー比較文化論』ふくろう出版、2011。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/16	矢羽田	ユニット1 旅する文化 （1）	比較文化の意義を理解する。外国の文化や習慣について理解する。	自国や他国の文化事象を調べ、比較することによって比較文化の意義を評価する。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
2	4/23	矢羽田	ユニット2 旅する文化 （2）	外国の文化・習慣やコミュニケーションの方法等について理解する。	教員が提示した文化上の問題点についてグループ討議する。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
3	4/30	矢羽田	ユニット3 日中（韓）の靈魂観について	日・中・韓の文化の根底にある歴史的な背景を理解する。	海外の映画の背後にある文化の特徴を推論する	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
4	5/7	矢羽田	ユニット4 日中（韓）の死生観について	日・中・韓の文化を中心に生命観や自然界のとらえ方の根底にある歴史的な背景を理解する。	映像や講義を通して外国文化と自国文化との生活習慣やコミュニケーションの方法について相違点や類似点を類別し、それを基にグループ討議することで諸文化の普遍性や個性を判断する。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
5	5/14	矢羽田	ユニット5 中国の「怖い」ハナシ	自国文化と異文化を比べて類似点や相違点を調べる	他国の文化の特徴を比較する	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
6	5/21	矢羽田	ユニット6 中国の若者の日本文化受容について （1）	中国の若者における日本文化の受け入れかたについて理解する。（1）	他国の文化のコミュニケーションについて述べる	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	5/28	矢羽田	ユニット7 中国の若者の日本文化受容について（2）	中国の若者における日本文化の受け入れかたについて理解する。（2）	コミュニケーションについて理解を深め、自国と他国との医療上の考え方や取り組みの違いを具体的に述べる。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
8	6/4	壬生	ユニット8 日本人および日本文化のルーツについて考える	日本人と日本文化のルーツについて理解する。	日本文化とヨーロッパ文化における神話や伝説について比較して類似点や相違点を列挙し、グループ討議等を通じて、諸文化の歴史的な精神構造について調べる。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
9	6/11	壬生	ユニット9 現代の日本に生きる縄文の意識	日本文化の基層となっている縄文の文化を理解する。	医療に役立つコミュニケーションを推論する	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
10	6/18	壬生	ユニット10 ギリシア思想の背景と基礎知識	西欧文化の基層となっているギリシア思想について理解する。	日本文化とヨーロッパ文化における生命観や自然界の捉え方について調べ、グループ討議等を通じて、外国文化と自国文化の背景にある相違点や類似点を考察し理解を深める。	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
11	6/18	壬生	ユニット11 ギリシア神話における世界と人間の捉え方	ギリシア神話における人間や世界の成り立ちについて理解する。	ヨーロッパ文化の民族的特徴を調べる	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
12	6/25	壬生	ユニット12 旧約聖書における世界と人間の捉え方	キリスト今日の旧約聖書における世界創世の特徴を理解する。	日本とヨーロッパの人々の行動原理について推論する	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
13	6/25	壬生	ユニット13 北欧（アイスランド）神話の基礎知識	北欧神話における人間と世界の捉え方を理解する。	文化間の神話について比較する	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
14	7/2	壬生	ユニット14 日本神話における世界と人間の捉え方	古事記における日本の誕生から日本文化の基本思想を理解する。	自国文化について調べる	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0
15	7/2	壬生	ユニット15 現代社会に生きる歴史的な思想	現代社会において歴史的な思想がどのように生きているかを理解する。	自国文化と異文化の過去と現在の関連性について調べる	VI-1	認知（想起）	諸文化についてシラバスに挙げた参考書等を読んで理解と知識を深め問題点等を探しておく	1.0

福博の歴史と文化探訪【講義】

科目番号 0D072012

前期：15コマ

評価責任者：永井 淳

永井 淳、川口 稔（歯科医療工学講座・材料工学分野）
志村宗恭（裏千家茶道教室教授）、
梅田泰隆（東林寺住職）、
十五代亀井味楽（高取焼味楽窯）、
高山英朗（福岡市博物館学芸課）、
担当教員：田村邦明（筥崎宮宮司）、
中村啓太郎（福岡市経済観光文化局文化財部鴻臚館跡整備係長）、
原田昌行（原田織物社長）、
平山晶生（紅葉山八幡宮宮司）、
宮川由衣（西南学院大学博物館学芸研究員）

（一般目標）

福岡・博多の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から学び、地域について考えることを目的とした地域志向科目である。福博の地域の成り立ちに関わる歴史的背景や社会環境の特性を理解し、革新をもたらし、伝統を守ってきた先人の地域貢献への努力を学び、われわれが社会人としてどのような社会貢献をしていくかを考える姿勢を身につける。

（教育方法）

受講定員は20名程度で、講義および現地の見学（講話・説明）。現地見学の初回は必須。現地見学（2）～（4）のうち、2回以上の参加を単位修得の必須条件とする。

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（フィールドワーク）（実習・演習）

（学習方法）

予習・復習方法：各回の予習の項目について、インターネットや刊行物、図書などで調べておく。講義および現地見学後にレポートを作成する。作成したレポートにもとづいて、最終回の授業では、福博の文化と歴史についての理解をさらに深めるためにグループ単位のプレゼンテーションを行う。

レポートは最終回の授業終了時に一括してメールで提出する。成果物の作成等に要する授業外学習に必要な時間数の合計は15時間（900分）である。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

出席点（全出席した場合受講態度による加点制で30%を限度とする）、最終回の授業での所属グループの発表内容（20%）、発表スキル（20%）および提出されたレポート（30%）。出席点については現地見学中に、最終回授業での発表の内容とスキルに関するフィードバックは授業の最後にまとめてフィードバックを行なう。なお、出席しなかった講義および現地見学に対する成果物は評価の対象としない。

（教科書）

特に指定しない。図書館やインターネット等を活用し、事前の調査や予習が必要。

（参考書）

特に指定しない。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/17	永井・志村	ユニット1 福博の歴史と文化に触れてみよう	福博の歴史と文化探訪の概要もしくは福岡・博多の歴史と文化を、遺跡・記念館・博物館などの資料にもとづいて理解する。	福博の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から考える。	V-2	認知（解釈）	博多・福岡の歴史や文化のキーワードを5つ選ぶとしたら何か、書き出しておく。	0.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
2	4/18	[2回] 中村・永井	ユニット1 福博の歴史と文化に触れてみよう	福博の歴史と文化探訪の概要もしくは福岡・博多の歴史と文化を、遺跡・記念館・博物館などの資料にもとづいて理解する。	歴史・文化の研究法（材料と方法）について説明できる。	I-7	精神運動（自律部分・支援全体）	[2回] 鴻臚館跡遺跡展示館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	[2] 0.5
3	4/18	[3回] 中村・永井							[3] 0.5
4	4/18	[4回] 高山・永井							[4] 1.0
5	4/18	[5回] 高山・永井						[3回] 福岡市政だより令和2年2月1日号「遺跡は語る」を読んで、遺跡から発見される遺物をもとにして人々の生活を復元するための研究方法について調べる。	[5] 0.5
								[4回] 福岡市博物館のホームページから気になる地域（出生地・居住地・大学所在地など）の特集の広報誌を選んでダウンロードし、読んでみる。 [5回] 福岡市博物館のSNSを登録してみる。	
6	5/8	志村・川口・永井	ユニット2 福博の歴史と茶の文化	「茶」の文化を通じて福博の歴史を理解する。	茶の歴史・文化を学び、茶道のお点前を体験する。	VI-1	情意（自己対応）	お茶の木や抹茶の製法はいつ頃どのようにして日本に伝えられたか調べる。古代中国では皇帝しか飲めなかったお茶は、どんな病気に対する薬として珍重されていたか調べる。	1.5
					現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な聴講・学習態度をとる。	II-4	情意（自己対応）		
7	5/9	[7回] 田村・永井	ユニット3 福博の歴史と文化を探究する	福博の文化を、様々な歴史的背景にもとづいて理解する。	留学僧や先端技術帰化人による外来文化の移入と受容を学ぶ。	I-8	認知（解釈）	[7回] 筥崎宮への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。	[7] 0.75
8	5/9	[8回] 田村・永井							[8] 0.25
9	5/9	[9回] 永井						[8回] 神社参拝の作法、筥崎宮と豊臣秀吉、千利休との関わりを調べる。SNSに登録してみる。	[9] 1.0
10	5/9	[10回] 永井						[9回] 博多の食と文化の博物館（ハクハク）への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。 [10回] 食品製造における衛生安全管理について調べてみる。なぜ博多祇園山笠は700年以上続いているのかについて考えてみる。ブログを購読する。	[10] 0.5
					現地見学先で節度ある行動をとり、真摯な聴講・学習態度をとる。	II-4	情意（自己対応）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
11	5/16	[11回] 原田・永井	ユニット3 福博の歴史と文化を探访する	福博の文化を、様々な歴史的背景にもとづいて理解する。	伝統工芸文化の伝来と洗練の歴史、近世都市計画に従った町家での生活や福岡博多におけるキリスト教史を学習する。	I-9	認知（解釈）	[11回] 福岡商工会議所への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。 [12回] 福岡市政だより平成30年3月1日号「現在に息づく博多の伝統工芸～博多織七七七周年～」、博多織協同組合のホームページにアクセスし、博多織の特徴や人気のある製品について調べてみる。 [13回] 西南学院大学博物館への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。 [14回] 同大建学史を調べる。元寇防塁の築造史を調べる。SNSに登録してみる。	11] 0.75 12] 0.5 13] 1.0 14] 0.5
12	5/16	[12回] 原田・永井							
13	5/16	[13回] 宮川・永井							
14	5/16	[14回] 宮川・永井							
15	5/23	[15回] 梅田・永井	ユニット3 福博の歴史と文化を探访する	福博の文化を、様々な歴史的背景にもとづいて理解する。	黒田藩の歴史と茶の文化の伝統、高取焼の洗練の歴史を学ぶ。	II-3	認知（解釈）	[15回] 東林寺への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。東林寺と立花実山と茶道との関わりを調べる。 [16回] 紅葉八幡宮への交通（道順、利用交通機関、所要時間）を福岡市街地図、地理アプリなどを用いて調べる。同宮の拡張現実（AR）アプリをダウンロードしておく。 [17回] 高取焼味楽窯の歴史を調べる。 [18回] 茶道やおもてなしの心についての参考書になる出版物を調べておく。	15] 0.75 16] 0.75 17] 0.5 18] 1.0
16	5/23	[16回] 平山・永井							
17	5/23	[17回] 亀井・志村・永井							
18	5/23	[18回] 志村・永井							
19	6/8	川口・永井・志村	ユニット4 福博の歴史と文化をたどる	現地見学で得た知識や印象について話し合い、地域の課題解決の面から先人の業績や成果物について理解を深め、福博の歴史と文化を支えてきた人やものにフォーカスした構成でグループ発表を行なう。	福博の歴史と文化についてグループ単位で討論する。 先人による福博地域での課題解決について話し合う。 地域の課題解決について、グループ単位で発表する。 他グループの発表を真剣に聞き、討論に参加する。	I-8 II-3 II-4 II-2	認知（解釈） 精神運動（支援部分） 精神運動（自律全体） 精神運動（自律全体）	博多・福岡の歴史や文化のキーワードを5つ書き出し、最初に書いたのと比較する。印象が変わったとしたら、何を見学して何を知ったためか、考えておく。	2.25

基礎統計学 【講義】

科目番号 OD021007

前期：15コマ

評価責任者：河本陽介

担当教員：河本陽介

（一般目標）

口腔医学・生物学でよく遭遇する標本に統計手法を適用するときの基本的な扱い方を習得するために、確率論的なものの見方を理解し、確率変数とその分布、統計的推測（推定と検定）の原理と方法を理解する。

（教育方法）

教科書、プリント（資料）を利用した板書、スライド形式の講義の組合せ、及び演習（実習・演習）

（学習方法）

予習は特に必要ないがその分復習を重視し、講義後に教科書の該当箇所や配布したプリントをよく読んで、実際に問題を解くこと。特に次の講義日まで、講義で出てきた定義を自分で説明できるようにしておくことと、講義中に出した問題やプリントの問題を解けるようにしておくことが最低限必要である。

分からなくなった場合は、何度でも前の内容に戻り復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

定期試験で評価する。

また成績には入れないが、理解度を把握するため定期的に小テスト・演習を行い、理解度に応じて復習や解説をする。

（教科書）

種村秀紀、澁谷幹夫著『統計学Ⅰ』 数学書房

（参考書）

小寺平治著『明解演習 数理統計』 共立出版

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	河本	統計学概要	統計学の概要を理解する。	統計学の概要を説明する。	I-8	認知（想起）	特になし	1.0
2	4/10	河本	記述統計学	記述統計学について学び、統計量を理解する。	平均値・中央値・最頻値について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					標本分散・標準偏差について説明する。	I-8	認知（想起）		
3	4/10	河本	記述統計学	記述統計学について学び、統計量を理解する。	相関関係について学び、相関係数を説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
			確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	確率の定義を説明し、公式を導く。	I-8	認知（想起）		
4	4/13	河本	確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	条件付き確率を説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					独立性を説明する。	I-8	認知（想起）		
					ベイズの定理を使い、条件付き確率を計算する。	I-8	認知（想起）		
5	4/17	河本	確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	確率分布と確率変数について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					確率変数の期待値と分散を説明する。	I-8	認知（想起）		
					ポアソン分布について説明する。	I-8	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	4/20	河本	確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	連続型確率分布について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規分布表を用い、正規分布に従う確率変数を計算する。	I-8	認知（想起）		
					カイニ乗分布について説明する。	I-8	認知（想起）		
7	4/24	河本	確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	母集団と標本分布について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規母集団の標本平均と標本分散の分布を説明する。	I-8	認知（想起）		
8	4/27	河本	確率	確率および確率分布を理解し、代表的な確率分布について学ぶ。	t分布について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					大数の法則と中心極限定理を説明する。	I-8	認知（想起）		
9	5/1	河本	演習及び解説	—	—	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
10	5/1	河本	推定	推定について学ぶ。	点推定と区間推定について説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規母集団の母平均を推定する。	I-8	認知（想起）		
11	5/8	河本	推定	推定について学ぶ。	正規母集団の母分散を推定する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規母集団の母分散の比を推定する。	I-8	認知（想起）		
12	5/15	河本	検定	検定について学ぶ。	仮説検定の考え方を説明する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規母集団の母平均を検定する。	I-8	認知（想起）		
13	5/15	河本	検定	検定について学ぶ。	正規母集団の母分散を検定する。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					正規母集団の2群の差を検定する。	I-8	認知（想起）		
14	5/18	河本	検定	検定について学ぶ。	独立性の検定をする。	I-8	認知（想起）	学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0
					適合度の検定をする。	I-8	認知（想起）		
15	5/25	河本	演習及び解説					学習方法に記載したように前回の復習をする	1.0

細胞分子生物学実習 I (分子生物学実習) 【実習】

科目番号 OD021010

前期：21コマ
評価責任者：日高真純
日高真純
担当教員：藤兼亮輔
高木康光

(一般目標)

DNAを取り扱う実験を通して

1. 細胞生物学の講義の理解を深める。
2. 実験計画のつくり方、実験の進め方、得られた結果の解析の仕方、論理的な考察の仕方を習得する。

(教育方法)

1. 前もって実験計画を作成させ、実験内容を理解したうえで実験を行わせる。
2. 実験結果解析とレポートの提出を義務付ける。

(実習・演習)

(学習方法)

レポートは、実験に先立ってテキストをよく読んで実験内容、実験手順を理解したうえで、前もって実験計画書として書いておくこと。実際に実験を行った際に変更があった部分は、色の違う鉛筆やボールペン等で加筆訂正を行う。実験終了後、結果と考察を書き込んでそのまま提出する。清書し直す必要はない。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 6.3 時間】

(評価)

1. 実習態度 20%
2. レポート 80%

レポート提出時に実習内容について口頭試問を行い、理解度の不足している部分を指摘し再考させる。

(教科書)

実習テキストを配布する。

(参考書)

B. Alberts他著、中村桂子他監訳「Essential 細胞生物学」、第4版、南江堂、2016

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	5/22	日高 藤兼 高木	ユニット1 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	大腸菌の感受性・耐性を検定する。	マイクロピペットの使い方、培地への菌液の接種の方法を説明する。	I-7	精神運動 (支援部分)	[1回] 実習テキストの8～11頁 Essential細胞生物学174～176頁	1] 0.3
2	5/22								2] 0.3
3	5/22				抗生物質に感受性と耐性の 大腸菌を培養する。	I-7	精神運動 (支援部分)	[2回-3回] 実習テキストの8～11頁 実験計画書の作成	3] 0.3
4	5/29	日高 藤兼 高木	ユニット2 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	プラスミドDNAの抽出法を習得する。	プラスミドDNAの抽出の原理を説明する。	I-8	精神運動 (支援部分)	[4回] 実習テキストの12～15頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学332～333頁	4] 0.3
5	5/29								5] 0.3
6	5/29				大腸菌よりプラスミドDNAの抽出を実験する。	I-8	精神運動 (支援部分)	[5回-6回] 実習テキストの12～15頁 実験計画書の作成	6] 0.3

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	6/5	日高 藤兼 高木	ユニット3 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	アガロースゲル電気泳動の原理と方法を習得する。	電気泳動の原理を説明する。	I-7	精神運動（支援部分）	[7回] 実習テキストの16～21頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学328頁	7] 0.3
8	6/5				抽出したプラスミドDNAを電気泳動により分析する。	I-8	精神運動（支援部分）	[8回-9回] 実習テキストの16～21頁 実験計画書の作成	8] 0.3
9	6/5				大腸菌の生菌数を測定する。	I-7	精神運動（支援部分）		9] 0.3
10	6/12	日高 藤兼 高木	ユニット4 大腸菌の抗生物質感受性・耐性を支配する因子	遺伝子工学の手法を理解する。	ユニット1～3の結果を考察する。	I-8	精神運動（支援部分）	[10回] 実習テキストの22～23頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学327頁	10] 0.3
11	6/12				種々の酵素の基質特異性を理解する。	I-8	精神運動（支援部分）		11] 0.3
12	6/12				種々の酵素の基質特異性を理解する。	I-8	精神運動（支援部分）		12] 0.3
			ユニット5 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的本体		制限酵素の働きを説明する。	I-8	精神運動（支援部分）	[11回-12回] 実習テキストの22～23頁 実験計画書の作成	12] 0.3
					プラスミドDNAを制限酵素や各種酵素で処理する。	I-8	精神運動（支援部分）		
13	6/19	日高 藤兼 高木	ユニット6 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的本体	酵素処理した各プラスミドDNAの電気泳動による分析法を理解する。	酵素処理済みのDNAと未処理のDNAを電気泳動により分析する。	I-8	精神運動（支援部分）	[13回] 実習テキストの24～26頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学328頁	13] 0.3
14	6/19								14] 0.3
15	6/19								15] 0.3
					コンピテント細胞を調製する。	III-1	精神運動（支援部分）	[14回-15回] 実習テキストの24～26頁 実験計画書の作成	15] 0.3
16	6/26	日高 藤兼 高木	ユニット7 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的本体	形質転換法の原理と手法を習得する。	形質転換について説明する。	III-1	精神運動（支援部分）	[16回] 実習テキストの27～29頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学332～333頁	16] 0.3
17	6/26								17] 0.3
18	6/26								18] 0.3
					大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的本体を調べる実験を行う。	III-1	精神運動（支援部分）	[17回-18回] 実習テキストの27～29頁 実験計画書の作成	18] 0.3
19	7/3	日高 藤兼 高木	ユニット8 大腸菌に抗生物質耐性を与える因子の化学的本体	DNAが遺伝物質であることを理解する。	ユニット4～7の結果を考察する。	III-2	精神運動（支援部分）	[19回] 実習テキストの29頁 実験計画書の作成 Essential細胞生物学174～176頁	19] 0.3
20	7/3								20] 0.3
21	7/3								21] 0.3

医療倫理学 【講義】

科目番号 OD021001

前期：15コマ

評価責任者：永嶋哲也

担当教員：永嶋哲也

（一般目標）

教養ある歯科医師となるために、医療倫理学において問われているさまざまな倫理問題を学ぶことによって、医療者としての責任を自覚し、医療が抱える倫理的問題について洞察を深める。

（教育方法）

板書中心の講義形式。

（学習方法）

授業を集中して聴く。

教科書は指定しないので、予習は指定のキーワードについて内容をネット等で調べ参照しておく。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

定期試験（80％）

平常評価（20％）授業出席状況、受講態度、および確認テストによる。

確認テストは、各ユニットごとに1～2回（学期中に合計4～5回）授業時間内にミニテストとして行う予定。次の回の講義時に答案を返却し模範解答を示す。

（教 科 書）

使用せず。講義の中で、適宜プリントが詳細資料として配布される。

（参 考 書）

大井賢一、木阪昌知共著『歯科医療倫理 Q&A』太陽出版、2000

（Q & A形式でわかりやすい）

加藤尚武著『応用倫理学のすすめ』丸善ライブラリー、1994

（倫理学の応用を分かりやすい仕方ですべてのやさしい入門書）

清水哲郎、伊坂青司『生命と人生の倫理』放送大学教育振興会、2005

（医療倫理とその周辺的問題が論理的に論じられている）

そのほか講義の中で適宜紹介される。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/7	永嶋哲也	1 イントロダクション	倫理学とはどういう学問か理解する	正しく生きるべき理由について説明する	II-1	認知（解釈）	キーワード「キリスト教倫理、医療倫理学、生命倫理学」	1.0
2	4/14	永嶋哲也	2-1 医療倫理規範	医療における倫理規範の意味を理解する	医師に高い倫理性が求められていることを説明する	II-1	認知（想起）	キーワード「ヒポクラテス、ニュルンベルク裁判」	1.0
3	4/21	永嶋哲也	2-2 伝統的な医療倫理規範	伝統的医療倫理規範について理解する	伝統的医療倫理規範を説明する *ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言	I-4	認知（想起）	キーワード「人体実験、臨床研究」	1.0
4	4/22	永嶋哲也	2-2 伝統的な医療倫理規範	伝統的医療倫理規範について理解する	伝統的医療倫理規範を説明する *ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言	I-6	認知（解釈）	キーワード「第二次世界大戦、世界医師会」	1.0
5	4/28	永嶋哲也	2-3 新しい医療倫理規範	新しい医療倫理規範について理解する	新しい医療倫理規範を説明する *ヘルシンキ宣言改定、リスボン宣言	I-2	認知（解釈）	キーワード「タスキーギ事件、公民権運動」	1.0
6	5/12	永嶋哲也	2-4 医療倫理規範の現状	医療における倫理規範の現状について理解する	日本の医療界における倫理規範を説明する *医師の倫理、医の倫理綱領	I-3	認知（想起）	キーワード「医の倫理綱領、歯科医師の倫理綱領」	1.0
7	5/15	永嶋哲也	3 尊厳と人権	尊厳と人権について理解する	尊厳と人権について人格との関わりで説明する	I-5	認知（解釈）	キーワード「世界人権宣言、尊厳」	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	5/19	永嶋哲也	3 尊厳と人権	尊厳と人権について理解する	尊厳と人権の根拠について隣人愛の考え方から説明する	I-6	認知（想起）	キーワード「アガペー、隣人愛」	1.0
9	5/26	永嶋哲也	4-1 尊厳と高齢者	高齢者の尊厳について理解する	棄老伝説について内実と背景を説明する	V-1	認知（想起）	キーワード「棄老、うば捨て山」	1.0
10	6/2	永嶋哲也	4-1 尊厳と高齢者	高齢者の尊厳について理解する	『檜山節考』で描かれる問題点について説明する	V-1	認知（解釈）	キーワード「檜山節考、PPK」	1.0
11	6/9	永嶋哲也	4-1 尊厳と高齢者	高齢者の尊厳について理解する	棄老伝説をふまえ高齢者の尊厳について議論する	V-1	認知（解釈）	キーワード「胃ろう、延命治療」	1.0
12	6/16	永嶋哲也	4-1 尊厳と高齢者	高齢者の尊厳について理解する	高齢者医療と終末期医療との類似点、相違点を述べる	II-1	認知（解釈）	キーワード「自然死、治療停止」	1.0
13	6/23	永嶋哲也	5 尊厳死と自己決定	生命の終わりに関わる倫理問題について理解する	尊厳死、安楽死、自然死について説明する * 自己決定、不治かつ末期	I-3	認知（想起）	キーワード「自殺幇助、囑託殺人」	1.0
14	6/30	永嶋哲也	5 尊厳死と自己決定	生命の終わりに関わる倫理問題について理解する	尊厳死について説明する * 自殺幇助、囑託殺人（積極的安楽死）	II-2	認知（想起）	キーワード「尊厳死、安楽死」	1.0
15	6/30	永嶋哲也	5 尊厳死と自己決定	生命の終わりに関わる倫理問題について理解する	終末期の治療差し控え、治療停止について説明する * 事前指示	I-4	認知（解釈）	キーワード「平穏死、終末期医療」	1.0

Practical English II 【講義】

科目番号 0D021011

前期：15コマ

評価責任者：壬生正博

David Haynes

担当教員：Robert Hulse

Vincent Goto

（一般目標）

In face-to-face communication, students should be able to:

- use appropriate expressions in each situation
- understand "who, what, when, where" type questions and answer them correctly
- understand simple questions and statements related to daily life and correspond to them
- understand minimum courtesy on interpersonal communication

（教育方法）

The method of instruction is a student-centered one with different speaking activities such as games, role plays, information gaps, dialogues, interview, etc. Occasionally quizzes and review exercises will be given.

（グループワーク）

（学習方法）

Read out the sentences from the textbook many times, and memorize them before and after every class. 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

Graded comprehensively from class performance, regular exam, etc.: post the grades after the regular exam

（教科書）

New Connection Book 2

This course book helps students to communicate confidently and fluently.

（参考書）

Japanese-English dictionary

English-Japanese dictionary

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	Haynes, Hulse, Goto	Unit 1 Roommates	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit1)	Asking basic questions, etc.	VI-4	認知（想起）	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
2	4/8	Haynes, Hulse, Goto	Unit 2 Checking Out	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit2)	Reading skills: Scanning a case history, etc.	VI-4	認知（想起）	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
3	4/15	Haynes, Hulse, Goto	Unit 3 Get in Shape	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit3)	Asking about system, etc.	VI-4	認知（想起）	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
4	4/15	Haynes, Hulse, Goto	Unit 4 Money Management	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit4)	Reading skills: Noting information from a textbook, etc.	VI-4	認知（想起）	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
5	4/22	Haynes, Hulse, Goto	Unit 5 Close Ties	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit5)	Giving instructions, etc.	VI-4	認知（想起）	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	5/13	Haynes, Hulse, Goto	Unit 6 Time to Celebrate	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit6)	Understanding forms, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
7	5/20	Haynes, Hulse, Goto	Unit 7 Animals in Danger	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit7)	Instructing, explaining and reassuring, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
8	5/27	Haynes, Hulse, Goto	Unit 8 A Fine Art	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit8)	Rephrasing, encouraging and prompting, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
9	6/3	Haynes, Hulse, Goto	Unit 9 Tune In	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit9)	Explaining and discussing investigations, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
10	6/10	Haynes, Hulse, Goto	Unit 10 Music Our Ears	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit10)	Using medical documents, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
11	6/17	Haynes, Hulse, Goto	Unit 11 Study Abroad	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit11)	Discussing a diagnosis, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
12	6/24	Haynes, Hulse, Goto	Unit 12 Technology and You	Learning, using and applying basic medical English phrases (Unit12)	Explaining a diagnosis, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
13	6/24	Haynes, Hulse, Goto	Unit 13 Right and Wrong	Learning, using and applying basic medical English phrases, and reviews	Medical treatment, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
14	7/1	Haynes, Hulse, Goto	Unit 14 Your Career Starts Now	Learning, using and applying basic medical English phrases, review and oral test	Reading skills: Using an online database, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0
15	7/1	Haynes, Hulse, Goto	Review, oral test	Review, oral test	Review, using and applying learned English phrases, etc.	VI-4	認知 (想起)	テキストの音読、語句や文章の意味確認と暗唱、会話練習	1.0

系統解剖学Ⅱ 【講義】

科目番号 0D021112

前期：15コマ

評価責任者： 畠山 雄次

担当教員： 畠山 雄次、児玉 淳、林 慶和

（一般目標）

人体の構造と機能を理解し、臨床歯学を学習するための解剖学の基本的知識を身につける。

（教育方法）

板書、スライド、および配布されたプリントを中心に講義をおこなう。

（学習方法）

教科書と配布パワーポイントファイルにより、まとめのプリントを理解し、課題を解く。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 30.0 時間】

（評価）

定期試験および平常点により成績評価をおこなう。平常点は講義中に随時行われる小テストおよびレポートなどにより評価する。行われた小テストの模範解答は小テスト後に提示する。定期試験後、模範解答および講評を掲示する。理解不足が認められた場合には補講を行うことがある。

（教科書）

グレイ解剖学 原著第4版（電子書籍付） 塩田浩平、他、訳 エルゼビアジャパン
口腔解剖学 第2版 医歯薬出版： 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめたため。

（参考書）

- 1：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版
- 2：森 於菟 他著「分担解剖学 1・2・3 第11版」金原出版 1992
- 3：人体解剖学 改訂42版 藤田恒太郎 南江堂
- 4：解剖学講義 改訂3版 伊藤隆、高野廣子、南山堂
- 5：イラスト解剖学 松村譲児 中外医学社

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	畠山	1. 骨	骨格を理解する。	体幹の骨格（軸骨格）および体肢の骨格（付属肢骨格）の構成を説明する（それぞれの骨名を列挙する）。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第2章「骨学総論」5-17ページ 第10章「頭頸部の骨」94-120ページ	2.0
2	4/15	畠山	2-1. 筋（体幹）	体幹の筋を理解する。	頭頸部、胸部、腹部、背部の代表的な筋の起始停止、および作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第3章「筋学総論」18-30ページ 第11章「頭頸部の筋」121-132ページ	2.0
3	4/22	畠山	2-2. 筋（体肢）	体肢の筋を理解する。	上肢、下肢の筋の代表的な起始停止、および作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第3章「筋学総論」18-30ページ 第11章「頭頸部の筋」121-132ページ	2.0
4	5/13	畠山	3-1. 脈管（心臓）	心臓を理解する。	心膜（心内膜、心外膜、心膜腔など）、心筋、心臓の内部構造（房室弁、動脈弁など）を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「脈管学総論」37-56ページ	2.0
5	5/20	畠山	3-2. 脈管（大循環、小循環）	大循環、小循環を知る。	側副路、機能血管と栄養血管、大循環と小循環を構成する動脈と静脈を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「脈管学総論」37-56ページ	2.0
6	5/27	畠山	3-3. 脈管（リンパ管）	リンパ管を知る。	リンパ管（リンパ本幹、乳び槽、胸管など）とリンパ節を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第13章「頭頸部の血管・リンパ系」133-144ページ	2.0
			3-4. 脈管（胎生循環）	胎生循環を知る。	胎生循環（臍静脈、臍動脈）の短絡路（静脈管、卵円孔、動脈管）とその意義を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）		
7	5/27	畠山	4-1. 神経（脳）	神経系の区分と脳を知る。	神経と脳の基本構造（灰白質、白質、神経核、終脳、間脳、中脳、橋、延髄など）を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	6/3	畠山	4-2. 神経（脊髄）	脊髄を知る。	脊髄の基本構造（前根、後根、前角、後角、前正中裂、後正中溝、脊髄中心管など）とベル・マジャンディの法則を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
9	6/3	畠山	4-3. 神経（伝導路）	伝導路を知る。	伝導路（上行性伝導路、下行性伝導路）と高次機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
10	6/10	畠山	4-4. 神経（末梢神経）	末梢神経系を知る。	脳神経（第Iから第XII脳神経）および脊髄神経の枝（頭神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）と走行を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
11	6/10	畠山	5. 消化器系	消化器系を知る。	腺（実質性器官）と消化管（中空性器官）の肉眼構造と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ	2.0
12	6/17	畠山	6. 呼吸器系	呼吸器系を知る。	鼻腔・副鼻腔・気管・肺の肉眼構造と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ	2.0
13	6/17	畠山	7. 泌尿器系	泌尿器系を知る。	泌尿器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）の肉眼構造と機能を知る。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ	2.0
			8. 生殖器系	生殖器系を知る。	生殖器（精巣、精管、前立腺、陰茎、卵巣、子宮、膣など）の肉眼構造と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）		
14	6/24	林	8. 内分泌系	内分泌系を知る。	内分泌器（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎など）の肉眼構造と分泌するホルモンを説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ 教科書第7章「感覚器総論」70-78ページ	2.0
			9. 感覚器系	感覚器を知る。	感覚器（視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、外皮）の肉眼構造と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）		
15	7/1	児玉	10. 局所解剖	体の各部位における局所解剖を理解する。	体幹、体肢における三次元構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布された講義プリント	2.0

発生学・組織学演習Ⅰ【演習】

科目番号 0D021109

前期：19コマ

評価責任者：稲井哲一朗

担当教員：稲井哲一朗、児玉 淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子、林 慶和

（一般目標）

人体の発生過程を学び、人体の構造、機能、発生異常との関連を理解する。また、人体を構成する4大組織の構造と機能ならびに組織間の相互作用を学ぶ。さらに、全身の器官・器官系について、器官特有の組織構造と機能発現との関連を理解する。

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム(Moodle)などを用いて行い、適宜Moodleでの小テストをPC受験させ正答率が低い問題について解説を行う。実習はPC、iPadまたはスマートフォンを使用して行う。実習が始まるまでに「各自のIDとパスワード」を確認してe-learningにアクセスできるように設定し、「実習のPDFファイル」をダウンロードしておくこと。専用のスケッチブック、色鉛筆、白衣を用意すること。「実習のPDFファイル」に従って各自実習を進めること。光学顕微鏡で組織切片を観察して、器官特有の細胞・組織構築を理解してスケッチするとともに、実習課題について解答する。スケッチブックは、前期実習終了後に実習室で提出すること。
（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実習については、スケッチ、レポート課題を含めて実習テーブルごとのグループで理解を深めるためお互いに討論してもよい（グループ学習）。ただし、自分の席を離れたり、実習と関係のない私語は態度点から減点する。実習時間を有効に活用し、教員への質問やグループ討論を通して組織構築を理解すること。講義ノート、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書、参考書などを参考にして、試験に活用できるレベルにスケッチを完成すること。実習に欠かさず出席し、予習と特に復習に力を入れて学習すること。*実習中にe-learningの画像問題に必ずアクセスして、問題を解くこと。実習問題はこの問題を改変して出題する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評価）

定期試験および実習評価（実習試験、実習態度、スケッチ）を合わせて100%で判定し、総合判定を掲示する。16回以上の出席が受験資格として必要である。

（教科書）

- ①安田峯生訳、「ラングマン 人体発生学 第10版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ②牛木辰男、「入門組織学」、南江堂（3年生でも使用する）

（参考書）

山田英智ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/8	稲井	細胞学・組織学入門、上皮組織①（分類）	細胞の微細構造を知る。組織学研究法を知る。上皮組織の概念、分類、組織構造を知る。	細胞の微細構造、オルガネラを説明する。 組織学の研究法を説明する（顕微鏡、染色法）。 上皮組織の特徴を説明する。 上皮組織の分類を説明する。	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第1章 細胞学と組織学」（1～2ページ）、「第2章 細胞」（3～28ページ）、「第3章 上皮組織」（29～44ページ）教科書③「第1編・第1章 細胞」（9～34ページ）、「第1編・第2章 上皮組織」（35～50ページ）	0.5
2	4/15	稲井	上皮組織②、腺	上皮細胞の特殊構造を知る。腺の概念、分類、組織構造を知る。	上皮細胞の特殊構造を説明する。 外分泌腺と内分泌腺の概念を説明する。 外分泌腺の組織構造を説明する。 外分泌腺の分類を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第2章 上皮組織」（21～33ページ）教科書③「第1編・第2章 上皮組織」（35～50ページ）「第1編・第3章 腺」（51～58ページ）	0.5
3	4/22	稲井	結合組織①（固有結合組織）	結合組織の概念、分類、組織構造を知る。特に、固有結合組織の組織構造を知る。*骨、軟骨は後期講義で扱う。	結合組織の特徴を説明する。 結合組織の線維要素と細胞要素を説明する。 結合組織の分類を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第4章 支持組織」（35～52ページ）教科書③「第1編・第4章 結合組織」（59～72ページ）	0.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	5/13	稲井	結合組織②（血球、骨髄）	血液、骨髄の組織構造を知る。	血球を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第8章 血液と骨髄」（91～100ページ）教科書③「第1編・第5章 血液」（73～82ページ）	0.5
					骨髄の組織構造と造血を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
5	5/13	稲井	筋組織	筋組織の概念、分類、組織構造を知る。	筋組織の概念を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第5章 筋組織」（53～63ページ）教科書③「第1編・第8章 筋組織」（111～124ページ）	0.5
					筋組織の分類を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					筋節と筋収縮を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
6	5/20	稲井	神経組織	神経組織の概念、分類、組織構造を知る。	神経組織の概念を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第6章 神経組織」（65～77ページ）教科書③「第1編・第9章 神経組織」（125～136ページ）	0.5
					ニューロンの分類を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					神経膠細胞の分類を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
7	5/20	稲井	循環系	循環系の組織構造を知る。	血管の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第7章 脈管系」（79～88ページ）教科書③「第2編・第2章 神経組織」（149～156ページ）	0.5
					リンパ管の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
8	5/27	稲井	胎齢、染色体、細胞分裂	細胞分裂を知る。	胎齢を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）	教科書①「第2章 生殖形成」（13～25ページ）	0.5
					染色体を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					細胞周期を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					有糸分裂、減数分裂を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
9	5/27	稲井	生殖形成	精子形成を知る。 卵子形成を知る。	男性生殖器を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）	教科書①「第2章 生殖形成」（25～33ページ）教科書②「第13章 男の生殖器」（177～190ページ）「第14章 女の生殖器」（193～209ページ）教科書③「第2編・第5章 泌尿・生殖器系」（185～196ページ）	0.5
					精子形成・精子完成を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					女性生殖器を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					卵子形成と卵胞の発育を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					黄体、白体を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
10	6/3	稲井	排卵から三胚葉形成まで	卵巣周期を知る。 排卵、受精、分割、着床を知る。 二層性胚盤、三層性胚盤を知る。 三杯葉形成を知る。	卵巣周期を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）	教科書①「第3章 発生第1週」（35～48ページ）、「第4章 発生第2週」（49～57ページ）、「第5章 発生第3週」（59～67ページ）、「第6章 発生第3週から第8週まで」（73～96ページ）	0.5
					排卵、受精、分割、着床を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					二層性胚盤を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					原腸形成による三胚葉形成と三層性胚盤を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		
					三胚葉と、それに由来する構造を説明する。	Ⅲ-3	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
11	6/3	稲井	神経管、神経堤、中胚葉、胎盤	神経管、神経堤について知る。中胚葉について知る。体腔の形成について知る。絨毛、胎盤について知る。	脊索形成と神経管の形成を説明する。 神経堤と、それに由来する構造を説明する。 体腔、中胚葉について説明する。 脈管形成と血管新生について説明する。 絨毛、胎盤について説明する。	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書①「第5章 発生第3週」（68～71ページ）、「第6章 発生第3週から第8週まで」（73～96ページ）、「第7章 発生第3か月から出産まで」（107～135ページ）、「第11章 体腔」（165～174ページ）	0.5
12	6/10	[12回] 稲井 児玉	組織学総論実習（実習の説明）（上皮組織）	顕微鏡の使用法について知る。上皮組織の概念、分類、組織構造を知る。	標本、顕微鏡を確認する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[12回] 教科書②「第2章 上皮組織」（21～33ページ）教科書③「第1編・第2章 上皮組織」（35～50ページ）	12] 0.5
13	6/10	[13回] 同上			顕微鏡の使い方を理解する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[13回] 同上	13] 0.5
					組織標本の観察法、スケッチの方法を理解する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					実習の進め方を理解する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					単層上皮（扁平、立方、円柱上皮）を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					多列上皮、移行上皮を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					重層扁平上皮を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
14	6/17	[14回] 稲井 児玉	組織学総論実習（腺、結合組織、血液、循環系）	腺の概念、分類、組織構造を知る。結合組織の概念、分類、組織構造を知る。骨髄、血液、循環系の組織構造を知る。	顎下腺を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[14回] 教科書②「第2章 上皮組織」（21～33ページ）教科書③「第1編・第3章 腺」（51～58ページ）	14] 0.5
15	6/17	[15回] 同上			結合組織を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[15回] 同上	15] 0.5
					血球を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					血管を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
16	6/24	[16回] 稲井 児玉	組織学総論実習（筋、神経）	筋組織の概念、分類、組織構造を知る。神経組織の概念、分類、組織構造を知る。	骨格筋、心筋、特殊心筋、平滑筋を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[16回] 教科書②「第5章 筋組織」（53～63ページ）教科書③「第1編・第8章 筋組織」（111～124ページ）	16] 0.5
17	6/24	[17回] 同上			末梢神経を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[17回] 同上	17] 0.5
					中枢神経（脊髄）を描き説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
18	7/1	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	【実習実験①】2～7回の授業	学習の理解度の評価	実習で学習した内容（スケッチ、レポート課題）について実習試験を行う。	Ⅲ-2	認知（想起）		
19	7/1	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	【点検・清掃①】	器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	顕微鏡、標本を点検する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					実習のスケッチ、レポート課題を完成する。	Ⅲ-2	認知（想起）		

歯の解剖学 【演習】

科目番号 OD021115

前期：16コマ

評価責任者：稲井哲一朗

担当教員：稲井哲一朗、児玉 淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子

（一般目標）

歯学を習得するために必要な歯の形態および歯の解剖用語を理解し、臨床歯学を学習するための基礎学力をつけることを目標とする。

（教育方法）

教科書を中心にプリント、歯の模型、スライド等を用いて講義する。

（実習・演習）

（学習方法）

講義に欠かさず出席（4/5以上）し、予習と特に復習に力を入れて整理していくこと。

予習復習は教科書の「簡明 歯の解剖学」、参考書の「歯の解剖学 第22版」や「口腔・顎顔面解剖学」を熟読すること。また購入した歯の模型を持参し、授業中に参照すること。

2回目以降の講義から、前回の講義内容の小テストを行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0 時間】

（評 価）

中間試験：永久歯の鑑別試験（10%）、定期試験（90%）の合計点で評価する。鑑別試験期日などの詳細は講義中に連絡する。小テストの試験終了後、直ちに内容について解説を行い、結果は次回の講義回までに講義教室へ掲示する。定期試験の解説・結果については試験終了後、公表可能な範囲で総評と合わせて行う。理解が不十分な項目は、オフィスアワー等を利用して各学生からの質問として補う。

（教 科 書）

三好作一郎編 影山幾男他著「簡明 歯の解剖学」医歯薬出版2009

（参 考 書）

藤田恒太郎 原著 桐野忠大、山下靖雄 改訂「歯の解剖学 第22版」 金原出版

全国歯科技工士教育協議会 編集 「口腔・顎顔面解剖学」 医歯薬出版 2016

（歯の特徴が詳しく記述されている。図・写真も豊富である。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	北河	【ユニット1】 歯の解剖学・総論	歯の定義、形態、構造および解剖学用語を理解する。	歯の定義を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書3-23ページ	1.0
					歯の形態、歯種および機能を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					生歯について説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					歯の記号を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					歯式（乳歯、永久歯）を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
2	4/9	北河	【ユニット1】 歯の解剖学・総論	歯の定義、形態、構造および解剖学用語を理解する。	歯の解剖用語、方向用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書3-23ページ	1.0
					歯の部位用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					Mühlreiter の三徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
3	4/10	北河	【ユニット2】永久歯 前歯（上顎切歯）	上顎切歯を理解する。	上顎切歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書27-36ページ	1.0
					上顎切歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎切歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎切歯の異常形態を説明できる。（舌側面小窩、盲孔、斜切痕、円錐歯、栓状歯、楔状歯、矮小歯）	Ⅲ-6	認知（想起）		
4	4/16	北河	【ユニット2】永久歯 前歯（下顎切歯）	下顎切歯を理解する。	下顎切歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書27-36ページ	1.0
					下顎切歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎切歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎切歯の異常形態を説明できる。（癒合歯など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
5	4/17	北河	【ユニット3】永久歯 前歯（上顎犬歯）	上顎犬歯を理解する。	上顎犬歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書37-42ページ	1.0
					上顎犬歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎犬歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎犬歯の異常形態を説明できる。（犬歯結節など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
6	4/23	北河	【ユニット3】永久歯 前歯（下顎犬歯）	下顎犬歯を理解する。	下顎犬歯の形態および特徴を理解する。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書43-46ページ	1.0
					下顎犬歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎犬歯の形態用語を説明できる。（近心切縁、遠心切縁、中央唇側面隆線、中央舌側面隆線、中央舌側面副隆線、唇側面溝、唇側面隆線、切歯結節、基底結節、辺縁隆線、棘突起、舌側面窩）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎犬歯の異常形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	4/30	児玉	【ユニット4】 永久歯 上顎小臼歯	上顎第一・二小臼歯を理解する。	上顎第一・二小臼歯の形態および特徴を説明できる。（咬合面の出現）	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書46-53ページ	1.0
					上顎小臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎小臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎小臼歯の異常形態について説明できる。（介在結節、中心結節、横隆線など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
8	5/7	児玉	【ユニット5】 永久歯 下顎小臼歯	下顎第一・二小臼歯を理解する。	下顎第一・二小臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書54-62ページ	1.0
					下顎小臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎小臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎小臼歯の異常形態について説明できる。（介在結節、中心結節、横隆線など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
9	5/14	児玉	【ユニット6】 永久歯 上顎大臼歯	上顎第一・二・三大臼歯を理解する。	上顎第一・二大臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書63-76ページ	1.0
					上顎第一・二大臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎大臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎第一大臼歯の異常について説明できる。（対角隆線：斜走隆線、カラベリー結節、臼旁結節、臼後結節など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
10	5/21	児玉	【ユニット6】 永久歯 上顎大臼歯	上顎第一・二・三大臼歯を理解する。	上顎第一・二大臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書54-76ページ	1.0
					上顎第一・二大臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎大臼歯の形態用語を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上顎第一大臼歯の異常について説明できる。（対角隆線：斜走隆線、カラベリー結節、臼旁結節、臼後結節など）	Ⅲ-6	認知（想起）		
11	5/28	児玉	【ユニット7】 永久歯 下顎大臼歯	下顎第一・二・三大臼歯を理解する。	下顎第一・二大臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書54-76ページ	1.0
					下顎第一・二大臼歯の歯根、根管、歯髓腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎大臼歯の形態用語を説明できる。（ドリオビテクスパターンなど）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎大臼歯の異常について説明できる。（第6咬頭、第7咬頭、屈曲隆線、頬側面小窩、プロトスタイリッド：原錐茎状突起、槌状根など）を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上・下顎第三大臼歯の特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	6/4	児玉	【ユニット7】 永久歯 下顎大臼歯	下顎第一・二・三大臼歯を理解する。	下顎第一・二大臼歯の形態および特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書113-120ページ	1.0
					下顎第一・二大臼歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎大臼歯の形態用語を説明できる。（ドリオピテクスパターンなど）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					下顎大臼歯の異常について説明できる。（第6咬頭、第7咬頭、屈曲隆線、頬側面小窩、プロトスタイリッド：原錐茎状突起、槌状根など）を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上・下顎第三大臼歯の特徴を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
13	6/11	児玉	【ユニット8】 乳歯 乳前歯	乳前歯を理解する。	上・下顎乳前歯の形態および特徴について説明できる。（歯帯など）	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書99-111ページ	1.0
					上・下顎乳前歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
					乳前歯と前歯の違いについて説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
			【ユニット8】 乳歯 乳臼歯	乳臼歯を理解する。	上・下顎乳臼歯の形態および特徴について説明できる。（臼歯結節、トリゴニード切痕、遠心トリゴニード隆線）	Ⅲ-6	認知（想起）		
					上・下顎乳臼歯の歯根、根管、歯髄腔の形態を説明できる。	Ⅲ-6	認知（想起）		
14	6/18	児玉	【ユニット9】 歯の配列、歯列弓、咬合、歯の異常	歯列と咬合および歯の異常について理解する。	歯列弓について説明できる。（形、Speeの彎曲、Wilsonの彎曲、Bonwill三角など）	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書77-98ページ	1.0
					咬合について説明できる。（1歯対2歯の関係、オーバーバイト、オーバージェット、鉗状・切端・過蓋・屋根・離開・反対・後退咬合）	Ⅲ-6	認知（想起）		
15	6/25	児玉	【ユニット9】 歯の配列、歯列弓、咬合、歯の異常	歯列と咬合および歯の異常について理解する。	上・下顎歯の位置関係について説明できる。（鼓形空隙、中心咬合時の対向関係）	Ⅲ-6	認知（想起）	教科書77-98ページ	1.0
					歯の異常について説明できる。（歯数・形態・歯根・萌出・歯列・咬合異常）	Ⅲ-6	認知（想起）		
16	7/2	児玉	【ユニット10】 乳歯・永久歯の鑑別試験	乳歯・永久歯の顎性、側性、歯種、順位を鑑別できる。	乳歯の歯種、順位を鑑別できる。	Ⅲ-6	情意（実践状況対応）	教科書27-98ページ	1.0
					永久歯の歯種、順位を鑑別できる。	Ⅲ-6	情意（実践状況対応）		

生理学Ⅱ 【講義】

科目番号 0D021114

前期：15コマ

評価責任者：岡部幸司

担当教員：岡部幸司、岡本富士雄、鍛冶屋 浩、進 正史

（一般目標）

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系、個体レベルで構造的に統合されている。生理学では、細胞から個体レベルにおける正常な機能や行動及びその機構を対象とし、それらの基本的事項について学習する。また、講義は、3年生で履修する口腔領域の機能を対象とした口腔生理学に関連づけて行い、医学・口腔医学の基礎を理解する。

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通し、初めて見る専門用語や語句にマーカーや付箋で印を付ける。授業後は配布資料、作成した講義ノート、教科書をもとに講義の概要を要約し、グループ学習等を通じて重要事項を共有する。中間試験及び定期試験により理解が不十分と判明した項目は教科書や参考書で自習すると共にチューデントアシスタント及び教員への質疑を通じて補う。総合学力試験に向けての対策としては、Moodleに掲載したe-learning教材の活用を推奨する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0 時間】

（評価）

中間試験（記述及び選択式）20～30%、定期試験（記述及び選択式）70～80%、ノート作成及び課題レポート等の提出物についても成績評価の対象にする。詳細は講義の初日に説明する。中間試験は試験終了後、問題解説を行い、成績は概ね2週間後に通知する。定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に総評と共に通知する。理解が不十分な項目は、補講受講及び課題レポート提出により補う。

（教科書）

森本俊文、二ノ宮裕三、山田好秋、岩田幸一 編 「基礎歯科生理学 第6版」 医歯薬出版 2014
（全身から口腔領域にわたって生理学の基本的事項が簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。3学年で履修する口腔生理学も本書を教科書として使用するため、2学年から3学年で学んだ知識の統合に有用である。）

（参考書）

岡田泰伸 監修 「ギャノン生理学 原書25版」 丸善出版 2017
（最新の臨床医学の視点にも関連付けた人体生理学の基本的事項が簡潔に解説されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。教科書の副読本に適する。）

大地陸男 著 「生理学テキスト 第8版」 文光堂 2017
（生理学の基本的事項が豊富な図表によって簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。）

小澤静司、福田康一郎 総集編 「標準生理学 第8版」 医学書院 2014
（生理学全般を広く網羅し、生命現象のメカニズムが詳しく解説されている。実習や演習の参考書に適している。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	進	ユニット1 体液の区分、組成と機能	体液の構成と機能を理解する。	体液を区分し、量と組成を述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp51～p53、p57	1.0
					細胞内液と外液の構成成分の違いを述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					浮腫の成因について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
2	4/13	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	血液の成分を分類し、各々の機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp53～p55	1.0
					造血器と造血因子について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
3	4/20	進	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	ヘモグロビンの構造と機能及び代謝について述べる。	Ⅲ-1	認知（解釈）	教科書のp53～p55	1.0
					血液に関する正常値を列挙する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
4	4/24	岡本	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	止血に関わる因子と機序を述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp55～p57	1.0
					凝固系及び線溶系の機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					凝固促進因子と抑制因子的作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					出血時間と凝固時間の異常と原因を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	4/27	岡本	ユニット2 血液の組成と機能	血球の種類と機能及び血漿の成分と機能について理解する。	ABO式とRh式血液型の判定方法を述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp55～p57	1.0
					交差適合試験による輸血の可否を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					血液型不適合妊娠について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
6	5/1	岡部	ユニット3 循環系を構成する器官と循環調節	心臓の機能と循環系の構成及び調節機序について理解する。	心臓の構造と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp74～p76	1.0
					心筋の電気的性質及び力学的性質について述べる。	Ⅲ-1	認知（想起）		
					心臓機能の神経性・液性・自己調節について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
7	5/11	岡部	ユニット3 循環系を構成する器官と循環調節	心臓の機能と循環系の構成及び調節機序について理解する。	心電図の誘導原理を理解し、心臓の興奮と心電図を関係づける。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp76～p79	1.0
					心周期と心電図、動脈圧変化、心音、左心室容積の関係を説明できる。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
8	5/18	岡部、進、岡本、鍛冶屋	中間試験及び解説					1回～7回までの講義で配付した資料とノート及び教科書	2.0
9	5/25	岡本	ユニット3 循環系を構成する器官と循環調節	心臓の機能と循環系の構成及び調節機序について理解する。	体循環と肺循環の経路を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp80～p86	1.0
					冠循環、脳循環、肝一門脈循環及びリンパ循環を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
10	6/1	岡本	ユニット3 循環系を構成する器官と循環調節	心臓の機能と循環系の構成及び調節機序について理解する。	循環調節における血管の機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp82～p87	1.0
					血圧の変動要因を挙げ、変動機序について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
11	6/8	岡本	ユニット3 循環系を構成する器官と循環調節	心臓の機能と循環系の構成及び調節機序について理解する。	血圧の神経性・液性調節機序について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp86～p92	1.0
12	6/15	岡本	ユニット4 呼吸系の構成と機能及び呼吸調節	呼吸器の構造、呼吸運動、ガス交換及び呼吸調節について理解する。	呼吸器の構造と呼吸運動の様式について述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp93～p102	1.0
					肺気量の区分とそれらの病的変動について述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）		
13	6/22	岡本	ユニット4 呼吸系の構成と機能及び呼吸調節	呼吸器の構造、呼吸運動、ガス交換及び呼吸調節について理解する。	内呼吸と外呼吸及び血液ガスの運搬機序について説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp102～p107	1.0
					ヘモグロビンの酸素解離曲線とボーア効果について説明する。	Ⅲ-1	認知（解釈）		
					呼吸調節における動脈化学受容器及び中枢性化学受容器の役割を述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					呼吸に影響する諸因子を挙げ、呼吸変化を起こす機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
14	6/29	鍛冶屋	ユニット5 消化管の構造と機能	消化管の構成と消化吸収機能について理解する。	消化管の構成を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp391～p399	1.0
					消化液の組成と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					消化液の分泌調節について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
15	7/6	鍛冶屋	ユニット5 消化管の構造と機能	消化管の構成と消化吸収機能について理解する。	消化管運動の種類と自律神経による運動調節について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp400～p410	1.0
					三大栄養素・電解質・水の吸収機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					肝臓の構造、機能及び胆汁の分泌経路を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		

薬理学 【講義】

科目番号 OD021104

前期：20コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、大久保つや子

（一般目標）

薬物療法を理解するための基盤として、薬理学的な思考法（すなわち薬物と生体間の相互作用としての考え方）を身につける。薬力学・薬物動態学の基礎、自律神経系・中枢神経系に作用する薬物に関する知識を修得する。

（教育方法）

教科書を中心に、配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。

【復習方法】授業後に教科書、配布資料、板書ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 22.0 時間】

（評価）

【評価方法】

中間試験（50%）：ユニット1-4を範囲とする。

定期試験（50%）：ユニット5, 6を範囲とする。

各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

各試験後に成績を掲示し、模範解答・答案を開示する。必要に応じて個別に指導する。

（教科書）

大谷 啓一監修 「現代歯科薬理学」第6版 医歯薬出版 2018年

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第2版」 永末書店 2019年

（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）

田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年

（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

安達 一典ら編 「解る！歯科薬理学 第3版」 学建書院 2019年

（必要なことがわかりやすく書かれた本、理解度を図るためのセルフチェックが設けられている。）

大浦 清、戸苅 彰史編 「歯科衛生士テキスト 最新薬理学」学建書院 2017年

（講義や教科書で理解できない項目について概略を把握したいときに参考にすると役に立つ。）

浦部 晶夫ら編 「今日の治療薬2020」 南江堂 2020年

（薬物の性状、副作用などが表にまとめて書かれており、臨床医のマニュアルとなっている。）

「日本薬局方」ホームページ（厚生労働省のWebサイト）「第十七改正日本薬局方」のPDFファイルをダウンロードできる。

（「日本薬局方」とは通則、生薬総則、製剤総則、一般試験法、医薬品各条からなり、国が定めた医薬品の規格基準書である。）

「医療用医薬品情報検索」ホームページ（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のWebサイト）

添付文書のPDFファイルをダウンロードできる。<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

（医師及び歯科医師が処方する医薬品に添付されている情報である。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/10	八田	ユニット1 薬理作用	薬物と生体間の相互作用として薬理作用を理解する。	今後の薬理学講義の進行について説明する。	Ⅲ-20	情意（自己対応）	教科書 p. 2-7 を読む	1.0
					薬物療法の種類（原因療法、対症療法など）を述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					薬理作用の基本形式および分類（主作用・副作用、全身作用・局所作用など）を述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					薬物の併用（協力作用、拮抗作用）について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
2	4/10	八田	ユニット2 用量と薬理作用	薬物の用量と薬理作用との関係（用量-反応関係）を理解する。	用量と薬理作用、用量-反応曲線を説明する。 用量を表す用語（有効量、中毒量、致死量など）を述べる。 治療係数（安全域）、TDM（治療薬物モニタリング）について説明する。 薬物と受容体の結合についての概念（薬物受容体理論）を説明する。 用量-反応曲線上での作動薬（完全作動薬、部分作動薬）、拮抗薬（競合的拮抗、非競合的拮抗）の特徴を述べる。 模擬薬理実験データを用いて、用量（対数）-反応曲線を作成する（演習形式）。	III-20 III-20 III-20 III-20 III-20 III-20	認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 精神運動（支援部分）	教科書 p. 8-11, 31-33 を読む	1.0
3	4/17	[3回] 八田	ユニット3 薬理作用の機序	薬物の作用点と薬理作用が発現する機序について理解する。	薬物が標的とする作用点について述べる。	III-20	認知（想起）	[3回] 教科書 p. 33-35 を読む	3] 1.0
4	4/17	[4回] 八田			受容体を介する薬理作用について説明する。	III-20	認知（想起）	[4回] 教科書 p. 36-43 を読む	4] 1.0
					Gタンパク質共役型受容体、イオンチャネル内蔵型受容体について説明する。	III-20	認知（解釈）		
					酵素共役型受容体、細胞質および核内受容体について説明する。	III-20	認知（解釈）		
					受容体を介さない薬理作用について説明する。	III-20	認知（想起）		
					膜輸送タンパク（イオンチャネル、トランスポーターなど）について説明する。	III-20	認知（解釈）		
					酵素やその他の作用点について説明する。	III-20	認知（解釈）		
					薬物の作用点と薬理作用の機序について演習課題を達成する。	III-20	精神運動（自律部分・支援全体）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	4/24	[5回] 八田	ユニット4 薬物の適用方法と体内動態	薬物の適用方法と体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）について理解する。	生体膜通過様式（受動拡散、濾過、促進拡散、能動輸送）を述べる。	Ⅲ-1	認知（想起）	[5回] 教科書 p.44-47 を読む	5] 1.0
6	5/1	[6回] 八田			薬物の物理化学的性質と生体膜通過について説明する。	Ⅲ-1	認知（解釈）	[6回] 教科書 p.47-49 を読む	6] 1.0
7	5/1	[7回] 八田			薬物の適用方法（経口投与、注射投与など）とその特徴について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）	[7回] 教科書 p.49-53 を読む	7] 1.0
8	5/8	[8回] 八田			初回通過効果、AUC、バイオアベイラビリティ（生体利用率）について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[8回] 教科書 p.44, 53-55, 83, 84 を読む	8] 1.0
					吸収過程について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					薬物の吸収に影響を与える因子について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					分布過程について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					血中での存在様式（遊離型・結合型）、分布容積、血液脳関門について説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					薬物の分布に影響を与える因子について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					代謝過程について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					肝臓における薬物代謝反応およびシトクロムP-450について述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					薬物代謝酵素の発現誘導・活性阻害、薬物代謝に影響を与える因子について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					排泄過程について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					腎臓からの尿中排泄（糸球体濾過、尿細管分泌・再吸収）を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					肝臓からの胆汁排泄と腸肝循環、その他の排泄経路を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					薬物の排泄に影響する因子を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					生物学的半減期、加齢による薬物動態の変化について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					模擬実験データを用いて、時間-血中薬物濃度曲線を書く。（演習形式）	Ⅲ-20	精神運動（支援部分）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	5/8	[9回] 八田	ユニット5 自律神経系に作用する薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	自律神経系の機能と分類（交感神経・副交感神経）について述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）	[9回] 教科書 p.106-116 を読む	9] 1.0
10	5/15	[10回] 八田			自律神経系における神経伝達物質と受容体について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	[10回] 教科書 p.120-123 を読む	10] 1.0
11	5/15	[11回] 八田			アセチルコリン受容体の分類（ムスカリン受容体・ニコチン受容体）と分布、働きを述べる。	Ⅲ-1	認知（想起）	[11回] 教科書 p.121, 123 を読む	11] 1.0
					ムスカリン受容体作動薬とその薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					ムスカリン受容体拮抗薬とその薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					自律神経節のニコチン受容体に作用する薬物について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					コリンエステラーゼ阻害薬とその薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					ムスカリン受容体作動薬・拮抗薬、コリンエステラーゼ阻害薬の臨床応用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
12	5/22	八田	中間試験	—	ユニット1-4の中間試験を実施する。	Ⅲ-20		中間試験のための学習をする	3.0
					後日公開する各人の採点済み答案をもとに達成度を評価し、今後の学習にフィードバックする。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		
13	5/22	[13回] 八田	ユニット5 自律神経系に作用する薬物	自律神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	アドレナリン受容体の分類と分布、働きを述べる。	Ⅲ-1	認知（想起）	[13回] 教科書 p.116-118 を読む	13] 1.0
14	5/29	[14回] 八田			非選択的アドレナリン受容体作動薬とその薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[14回] 教科書 p.118-120 を読む	14] 1.0
15	5/29	[15回] 八田			選択的アドレナリン受容体作動薬とその特徴を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[15回] 教科書 p.106-123 を読む	15] 1.0
					アドレナリン受容体拮抗薬とその薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					アドレナリン作動性神経終末に作用する薬物について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					アドレナリン受容体作動薬・拮抗薬、アドレナリン作動性神経終末に作用する薬物の臨床応用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					自律神経系に作用する薬物の薬理作用、作用機序、臨床応用を正しく結びつけて、演習課題を達成する。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
16	6/5	[16回] 八田	ユニット6 中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する薬物の分類、作用機序、薬理作用、副作用および臨床応用について理解する。	中枢神経における主な神経伝達物質（GABA、グルタミン酸、ドパミン、セロトニンなど）の役割を述べる。	Ⅲ-1	認知（想起）	[16回] 教科書 p.12-19, 143-150 を読む	[16] 1.0
17	6/12	[17回] 大久保			神経伝達物質の合成・貯蔵・遊離・不活性化の過程と薬物の作用機序を関連づける。	Ⅲ-1	認知（解釈）	[17回] 教科書 p.135-143 を読む	[17] 1.0
18	6/19	[18回] 大久保			睡眠障害（不眠症）とGABA作動性神経による中枢抑制について説明する。	Ⅲ-17	認知（想起）	[18回] 教科書 p.159-161, 62-66 を読む	[18] 1.0
19	6/26	[19回] 八田			催眠薬・鎮静薬、抗不安薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[19回] 教科書 p.150-152, 161, 162 を読む	[19] 1.0
20	7/3	[20回] 八田			痛覚の伝達経路（上行性痛覚伝導路と下行性抑制系）について述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）	[20回] 教科書 p.152-159 を読む	[20] 1.0
					内因性モルヒネ様物質とオピオイド受容体について説明する。	Ⅲ-1	認知（想起）		
					麻薬性鎮痛薬の作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					非麻薬性鎮痛薬、麻薬拮抗薬について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					麻薬性鎮痛薬の取り扱い（麻薬及び向精神薬取締法）、臨床応用（癌疼痛治療）について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					中枢神経興奮薬分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					薬物の連用による薬物耐性、薬物依存（精神依存・身体依存）について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					てんかんについて述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					抗てんかん薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					パーキンソン病について述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					パーキンソン病治療薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					気分障害（うつ病）とアミン仮説について述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					抗うつ薬の分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					統合失調症とドパミン仮説について述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					統合失調症治療薬（抗精神病薬）の分類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					中枢神経系に作用する薬物の作用機序、薬理作用・副作用、臨床応用を正しく結びつけて、演習課題を達成する。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		

生化学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD021102

前期：19コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

生体を構成する代表的な成分の構造や機能とともに、その代謝の仕組みや調節について理解する。細胞や器官の生化学的成り立ちを理解し、その異常と疾患の関係について認識する。

各ユニットで扱う生体構成分子の構造については、第1学年「細胞化学」の講義内容についても参照すること。

（教育方法）

教科書の内容にそって講義を行う。講義方法はユニットによって若干異なるが、板書・プリント・スライドを中心に用いて進める。講義には必ず教科書を持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評価）

中間試験（試験範囲：ユニット1-3）および定期試験（試験範囲：ユニット4-7）を実施し、それぞれの評価については実施後すみやかに掲示する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。

（教科書）

ユニット1-7：林典夫・廣野治子 監修 『シンプル生化学』改訂第7版 南江堂

ユニット1、2：中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第4版 南江堂

（参考書）

入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳 『ストライヤー生化学』 第8版 東京化学同人

川崎敏祐 監修 『レーニンジャーの新生化学』第6版 廣川書店

我孫子宜光、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』 第3版 学建書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	梅津	ユニット1・序論	歯科医学の中での生化学の位置付けや意義を理解する。	医療と生化学の関連を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	『シンプル生化学』1「序論」p1-3 / 『Essential細胞生物学』9章「遺伝子とゲノムの進化」：ヒトゲノムの解説	0.3
					生化学講義で理解すべき内容の全体像を把握する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					臨床医学・臨床歯学と生化学の関連について具体的に列挙できる	Ⅲ-1	認知（想起）		
2	4/13	梅津	ユニット2・生体の構成分子	生体の構成分子や生化学的反応の基本を理解する	生体の構成分子を列挙する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』1「序論」p1-3 / 18「水と無機質の代謝」/ 『Essential細胞生物学』2章「細胞の化学成分」	0.3
					生体高分子と単量体サブユニットを関連づけ、異化と同化を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
3	4/20	橋口	ユニット3・酵素（1）	[酵素の性質] 酵素の一般的性質と酵素反応の熱力学を理解する	酵素の特異性を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』6「酵素」p68-73	0.4
					酵素の構造の観点から活性中心と補酵素について説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					酵素反応の進行を熱力学的に説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	4/27	橋口	ユニット3・酵素（2）	〔酵素の反応速度論1〕 酵素の基質と反応速度の関係を理解する	酵素活性に対する影響因子を挙げ、反応速度との関係を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』6「酵素」p73-75	0.4
					ミカエリス・メンテンの式を説明し、ラインウィーバー・パークの式との関係を図示できる	Ⅲ-1	認知（想起）		
					ミカエリス定数と最大速度の生物学的意義を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）		
5	5/11	橋口	ユニット3・酵素（3）	〔酵素の反応速度論2〕 酵素反応の阻害について反応速度論を理解する	酵素の阻害様式を挙げる	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』6「酵素」p75-79	0.4
					可逆阻害の様式を区別する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					競合阻害、不競合阻害、混合型阻害について反応速度論を説明し、図示できる	Ⅲ-1	認知（想起）		
6	5/18	橋口	ユニット3・酵素（4）	〔酵素の活性調節1〕 酵素反応の調節機構を理解する	アロステリック制御を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』6「酵素」p79-82	0.4
					アロステリック制御とフィードバック阻害やS字曲線との関係を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）		
7	5/25	橋口	ユニット3・酵素（5）	〔酵素の活性調節2〕 細胞内における酵素の調節機構を理解する	酵素タンパク質の共有結合性修飾による活性調節を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』6「酵素」p82-84	0.4
					酵素前駆体のタンパク質分解酵素の切断による活性調節を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					酵素の臨床診断への利用を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
8	6/1	梅津 林 橋口	中間試験						
9	6/1	橋口	ユニット4・糖質代謝Ⅰ（1）	〔解糖とエネルギー代謝〕 生体エネルギー獲得の全体像を理解し、その端緒となる解糖系を位置付ける	生体エネルギー獲得の全体像を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）	『シンプル生化学』1「序論」p6-7 / 2「糖質」p18-30 / 9「消化と吸収」p118-124 / 10「糖質の代謝」p129-134 / 25「栄養の生化学」p410-412	0.4
					基礎代謝と食事摂取基準を関係づける	Ⅲ-2	認知（想起）		
					糖の消化・吸収について具体的に述べる	Ⅲ-1	認知（想起）		
					解糖系の重要性を説明し、各段階を列挙する	Ⅲ-1	認知（想起）		
10	6/8	橋口	ユニット4・糖質代謝Ⅰ（2）	〔グリコーゲン代謝〕 エネルギー代謝の観点から糖新生系と解糖系を対比し、グリコーゲン代謝を位置付ける	糖新生系を解糖系と対比して理解し、その意義を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p134-136, p141-143 / 19「情報伝達とホルモン」p278	0.4
					エネルギー代謝における位置づけからグリコーゲン代謝を詳述する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					アドレナリン、グルカゴン、インスリンによる血糖値の調節機構を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）		
11	6/8	橋口	ユニット4・糖質代謝Ⅰ（3）	〔TCA回路〕 エネルギー代謝の中でTCA回路を位置づけ、解糖系、電子伝達系との関連を理解する	解糖系とTCA回路の関連を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p137-141	0.4
					TCA回路の各段階の意義を詳述する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					エネルギー代謝の中でTCA回路がもつ意味を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					糖質代謝に関与する補酵素を類別し、その性質を詳述する	Ⅲ-1	認知（想起）		
12	6/15	橋口	ユニット4・糖質代謝Ⅰ（4）	〔エネルギー代謝と生体酸化還元〕 生体エネルギー論におけるATPの役割と酸化還元電位を理解する	生体エネルギー論を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）	『シンプル生化学』15「生体と酸素」p220-228 / 16「エネルギー代謝」p233-242	0.4
					高エネルギー化合物を比較し、ATPと高エネルギーリン酸結合を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					生体における酸化還元電位を理解し、反応を類別する	Ⅲ-1	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
13	6/15	橋口	ユニット5・糖質代謝Ⅱ（1）	〔電子伝達系〕ミトコンドリア内膜における酸化のリン酸化反応を理解し、その反応にたずさわるシトクローム系および酵素複合体を知る	酵素とシトクローム系からなる複合体による電子伝達系を詳述する シトクロームおよびFe-Sタンパク質による電子伝達の仕組みを説明する ATPシンターゼによるATP合成機構を詳述する 解糖系から始まり、電子伝達系に終るエネルギー代謝の全体を要約し、収支を勘定する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』15「エネルギー代謝」p242-244	0.4
14	6/22	橋口	ユニット5・糖質代謝Ⅱ（2）	〔ペントースリン酸回路〕糖質代謝の中でペントースリン酸回路が果たす役割を理解する	ペントースリン酸回路における単糖の相互変換の持つ意味を説明する 近接した糖代謝系との相互関係を述べる 脂質代謝、ヌクレオチド代謝との連携と代謝調節について説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p143-146	0.4
15	6/22	橋口	ユニット5・糖質代謝Ⅱ（3）	〔グルクロン酸経路〕糖質代謝の中でグルクロン酸経路が果たす役割を理解する	グルクロン酸経路と近接する糖代謝系との関わりを説明する グルクロン酸抱合による解毒機構の過程と意味を述べる 動物によって異なるアスコルビン酸合成経路の生物学的意義を解釈する	Ⅲ-1 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』10「糖質の代謝」p147-153	0.4
16	6/29	林	ユニット6・アミノ酸代謝（1）	〔アミノ基の代謝〕アミノ酸のアミノ基部分の代謝を理解し、アンモニア代謝の意義を考察する	アミノ基転移反応と脱アミノ反応について述べる 脱アミノ反応で生じたアンモニアの処理を説明する グルコース・アラニン回路の意義を述べる 尿素の生成（尿素回路）とその意義を説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』4「タンパク質」p46-50 / 9「消化と吸収」p121-123 / 12「アミノ酸の代謝」p183-187, p204	0.4
17	6/29	林	ユニット6・アミノ酸代謝（2）	〔炭素骨格の代謝〕アミノ酸の炭素骨格部分の代謝を理解し、糖質代謝および脂質代謝との関わりを知る	炭素骨格の代謝の概要を説明する 糖原性アミノ酸と糖質代謝の関係を述べる ケト原性アミノ酸と脂質代謝の関係を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』12「アミノ酸の代謝」p187-196, p203	0.4
18	7/6	林	ユニット6・アミノ酸代謝（3）	〔アミノ酸と生体アミンの生合成〕アミノ酸の合成、および、アミノ酸から合成されるタンパク質以外の生体成分について理解する	アミノ酸の生合成と糖質代謝の関係を述べる 必須アミノ酸と非必須アミノ酸について述べる アミノ酸から合成される代表的な生体成分を列挙する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』12「アミノ酸の代謝」p196-201 / 14「ポリフィリンとその代謝産物」p213-214	0.4
19	7/6	林	ユニット7・ヌクレオチド代謝	〔ヌクレオチドの代謝〕ヌクレオチドの合成、分解およびその調節を理解する	ヌクレオチドの合成と分解過程を説明する 糖質代謝やアミノ酸代謝とヌクレオチド代謝との関係を説明する 痛風やADA欠損症について説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンプル生化学』5「核酸」p61-64 / 13「モノヌクレオチドの代謝」p205-212	0.4

細菌学 【講義】

科目番号 0D021105

前期：25コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、永尾潤一、有田健一

（一般目標）

感染症における感染の成立は、原因となる病原体の病原因子と宿主の生体防御能のバランスによることを理解しなければならない。そのために、病原微生物の一般性状および病原性、さらに宿主の防御能の基礎を理解し、感染成立の機序や感染予防に関する知識を修得する。

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、スライド、動画、などを用いて行う。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 40.0 時間】

（評価）

中間試験および定期試験 90%、授業態度（出席、質疑応答を含む）10%。中間試験：得点揭示。定期試験：総合判定提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学 ―感染と免疫―』第6版 学建書院、2018.

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第4版 医歯薬出版、2011.

選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に用いやすい。

吉田真一ほか 編集 『戸田新細菌学』改訂34版 南山堂、2013.

選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	田中	ユニット1 感染論概論	生体防御における微生物、免疫学、感染症の位置付けを身につける。	生物界における微生物の位置付けを解釈する。 宿主の防御機構の位置付けを解釈する。 感染の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 1-10. p. 216.	1.6
2	4/2	田中	ユニット2 微生物の概念	生物界における微生物の位置付けを身につける。	生物進化の中での微生物の位置付けを解釈する。 微生物の種類を説明する。 *細菌、真菌、ウイルス、原虫	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 11-17.	1.6
3	4/9	有田	ユニット3 細菌の形態と構造	細菌の細胞形態と構造を知る。	細菌細胞の形態の名称を説明する。 細菌細胞の構造名と感染における役割を説明する。 グラム染色法の原理を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 20-32.	3] 1.6 4] 1.6
5	4/16	有田	ユニット4 細菌の生理と生化学	細菌の増殖と代謝を知る。	細菌の増殖と培養を説明する。 細菌の代謝を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 33-45.	1.6
6	4/16	永尾	ユニット5 感染と発症	感染と発症の定義を知る。	感染と発症の定義を説明する。 感染症対策における感染症の分類を説明する。 正常細菌叢を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 54-55. p. 63-65. p. 73-74.	1.6
7	4/23	永尾	ユニット6 感染経路	感染経路の定義および感染症の定義を知る。	内因感染、外因感染、直接感染、間接感染、日和見感染を説明する。 菌血症、敗血症、院内感染、菌交代症、病巣感染を説明する。 輸入感染症、新興・再興感染症を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 54-57. p. 65-68. p. 74-75.	7] 1.6 8] 1.6

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	4/30	有田	ユニット7 細菌の病原因子	細菌の病原因子を知る。	菌体の付着因子を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p. 57-63	9] 1. 6
10	4/30				細菌性毒素の種類、構造、作用を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		10] 1. 6
					食細胞抵抗因子を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					酵素産生性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
11	5/7	田中	中間試験	1-10回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。 中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7 I-7	認知（問題解決） 情意（自己対応）	1回から10回までの講義内容	1. 6
12	5/7	有田	ユニット8 マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫の特徴を理解する。	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫の特徴を理解する。	リケッチア、クラミジアの特徴を説明する。 マイコプラズマの特徴を説明する。 原虫の特徴を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 16. p. 155-162. p. 208-214.	1. 6
13	5/14	永尾	ユニット9 真菌概論	真菌の一般性状を理解する。	真菌の形態と構造を説明する。 真菌による主な感染症を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 15-16. p. 200-207.	1. 6
14	5/14	永尾	ユニット10 滅菌と消毒	滅菌と消毒を理解する。	滅菌の定義と方法を説明する。 消毒の定義と方法を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 378-386.	14] 1. 6
15	5/21								15] 1. 6
16	5/21	永尾	ユニット11 化学療法	化学療法の特性を理解する。	化学療法の目的と原理を説明する。 代表的な抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬を列挙する。 代表的な抗菌薬の作用機序を説明する。 代表的な化学療法薬の副作用を説明する。 薬剤耐性菌について説明する。 薬剤耐性機構について説明する。 薬剤耐性遺伝子の伝達について説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p. 387-410.	16] 1. 6
17	5/28								17] 1. 6
18	5/28								18] 1. 6
19	6/4	田中	ユニット12 ウイルス概論	ウイルスの一般性状を理解する。	ウイルスの特徴を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	[19回] 教科書p. 163-168. [20回] 教科書p. 168-172. [21回] 教科書p. 172-175. p. 410.	19] 1. 6
20	6/4				ウイルスの培養・増殖を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		20] 1. 6
21	6/11				ウイルスの病原性、感染様式と宿主の免疫応答を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		21] 1. 6
					ウイルス感染症の治療と予防を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
22	6/11	田中	ユニット13 宿主防御機構	微生物に対する宿主の防御機構を理解する。	微生物に対する宿主の防御機構を解釈する。 感染防御機構の全体像を述べる。 自然免疫を述べる。 獲得免疫を述べる。 感染と炎症反応を説明する。 抗原提示機能を説明する。 免疫寛容を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	[22回] 教科書p. 75-76. p. 216. [23回] 教科書p. 76-78. p. 216-227. p. 228-232. [24回] 教科書p. 78-79. p. 216-227. p. 233-263. [25回] 教科書p. 78-79. p. 216-227. p. 233-263.	22] 1. 6
23	6/18								23] 1. 6
24	6/25								24] 1. 6
25	7/2								25] 1. 6

歯科理工学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD021113

前期：15コマ

評価責任者：都留寛治

担当教員：都留寛治、丸田道人、梶本 昇、佐藤 平

（一般目標）

歯科治療で使用される材料や器械の正しい選択と取扱いができるために、歯科材料の基本性質（物理的性質、化学的性質、生物学的性質）とその使用法に基づいて分類し、その組成、硬化反応、基本的な性質を理解し必要な特性を発現させるための基盤的知識を身につける。

（教育方法）

指定教科書の解説を中心に、補助学習のプリントの配布とe-Learningを行う。

【資源】

講義には教科書「スタンダード歯科理工学」を持参すること。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】

授業前にスタンダード歯科理工学の該当箇所を通読し、理解できない語句を調べてノートにまとめておくこと。

【復習方法】

授業実施時に配布するプリントを用いて、スタンダード歯科理工学の該当箇所を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

【評価の割合】

定期試験による評価（100%）

【フィードバックの時期と方法】

フィードバックの時期：試験終了後

フィードバックの方法：試験結果に基づき、追加学習すべき項目を掲示する。

*試験に関する案内は、8F歯科医療工学講座生体工学分野の掲示板を用いて行うので試験前には必ず確認すること。

*授業を欠席した場合は配布プリントを各自で受け取りに来ること。

（教 科 書）

中嶋 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第6版』：学建書院：2016

（参 考 書）

歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018。

（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）

宮崎隆他編：臨床歯科理工学、医歯薬出版、2006。

（歯科における疾患別に利用される歯科材料が豊富なカラー写真や図とともに解説されており、臨床治療と歯科材料とも関わりが理解しやすい。）

日比野靖著：「歯科理工学サイドリーダー第6版、学建書院2008。

（歯科材料の特徴および物性を簡潔にまとめているので歯科材料全体の把握に便利である。後半部には演習形式の設問や歯科医師国家試験の過去問の解説があり知識の整理に役立つ。）

小倉英夫他編：コア歯科理工学、医歯薬出版、2008。

（臨床実習に必要な歯科理工学関連の知識について初学者を対象として多くの図表を用い平易に解説している。）

中村正明他編：目で見える歯科理工学、医歯薬出版、1992

（イラストを豊富に使用し、歯科臨床的視点からの記述が多いため、歯科臨床との関係を理解する一助となる。）

矢谷博文他編「クラウンブリッジ補綴学第5版」、医歯薬出版、2014。

（本学の冠橋義歯学の講義で使用されている。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間	
1	4/7	[1回] 都留	歯科用金属材料	歯科用合金を主たる成分で分類し、それぞれの状態図・組成・接合法を理解することで適切な鑄造操作と熱処理により必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	歯科用合金の状態図を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	1] 1.0	
2	4/14	[2回] 都留			歯科用合金の加工を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		2] 1.0	
3	4/21				歯科用合金の熱処理を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		3] 1.0	
4	4/28	[3回] 丸田			歯科用合金に求められる所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		4] 1.0	
		[4回] 丸田			歯科用合金の分類を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）			
					貴金属合金の組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）			
					貴金属合金の性質を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）			
					非貴金属合金の組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）			
					非貴金属合金の性質を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）			
					歯科用合金の接合法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
5	5/12	[5回] 丸田	歯冠用セラミックス	歯冠修復物に求められる所要性質を説明できる。	歯冠修復物に求められる所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	5] 1.0	
6	5/19	[6回] 丸田			歯冠用セラミックスの分類を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		6] 1.0	
7	5/26				[7回] 丸田	歯冠用セラミックスの成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21		認知（想起）	7] 1.0
						歯冠用セラミックスの製作法を説明できる。	Ⅲ-21		認知（解釈）	
						歯冠用セラミックスの特性を説明できる。	Ⅲ-21		認知（解釈）	
8	6/2	[8回] 武本	歯冠補綴用レジン	歯冠補綴用レジン进行分类し、それぞれの用途、成分・組成、特性、製作法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	歯冠補綴用レジンの分類を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	8] 1.0	
9	6/9	[9回] 都留			歯冠補綴用レジンの成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		9] 1.0	
					歯冠補綴用レジンの製作法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
					歯冠補綴用レジンの特性を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
10	6/15	[10回] 都留	接着・合着用材料	合着や接着に使用される材料を主たる成分で分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法、接着前処理を理解することで必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	合着材・接着材を主たる組成により分類できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	10] 1.0	
11	6/16	[11回] 都留			合着材・接着材の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		11] 1.0	
12	6/22				合着材・接着材の特性および操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		12] 1.0	
13	6/23				[13回] 都留	各種歯科材料に合った接着前処理を説明できる。	Ⅲ-21		認知（解釈）	13] 1.0
14	6/30	[14回] 梶本	歯内療法関連材料	歯内療法で使用する材料を分類し、それぞれの組成・特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	仮封材、裏層材、覆随材、根管充填材の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくこと。	14] 1.0	
15	6/30	[15回] 梶本			仮封材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		15] 1.0	
					裏層材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
					覆随材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
					根管充填材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			
					歯台築造用材料の種類と用途が説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）			

歯科医療工学実習 【実習】

科目番号 OD021111

前期：33コマ

評価責任者：都留寛治

担当教員：都留寛治、丸田道人、梶本 昇、佐藤 平

（一般目標）

歯科治療で使用する材料や器械の取り扱いができるために、基礎的な化学系および物理系実験を実施し、歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能を理解し、それらの取り扱い方を修得する。

（教育方法）

グループに分かれて各実習を行う。

（実習・演習）

（学習方法）

実習において使用する器材、歯科材料についての知識を下記にあげている参考書の該当箇所をよく読み修得する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：26.4時間】

（評価）

レポート (80%)

実習試験 (10%)

出席 (10%)

各ユニット終了時にフィードバックを掲示する。

（教科書）

福岡歯科大学歯科医療工学講座編集「歯科医療工学実習書」

（実習内容・方法をまとめた実習書である。各実習内容の最初の頁に予習のための参考書の該当箇所を明記しており、予習に取り組みやすくしているため。）

（参考書）

中畠 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第7版』、学建書院、2019.

（1年次の医療工学、歯科理工学I、2年次の歯科理工学IIおよびIIIで使用している教科書であり、反復学習になるため。）

歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018.

（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）

矢谷博文他編「クラウンブリッジ補綴学第5版」、医歯薬出版、2014.

（本学の冠橋義歯学の講義で使用されている。）

細井紀雄他編「コンプリートデンチャーテクニック第6版」、医歯薬出版、2011.

（本学の有床義歯補綴学の講義で使用されている。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/7	全員	ガイダンス	実習内容とそれらに関連する歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能に関する知識を関連づける。	実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（自己対応）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1] 2.4
2	4/14								2] 2.4
3	4/21				実習に必要な基礎的な知識を確認する。	Ⅲ-21	認知（想起）		3] 2.4
			ユニット1 歯科材料の弾性係数	歯科用合金の弾性率を測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用合金の弾性率データを評価することで歯科用合金の機械的性質について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（模擬対人対応）		
					歯科用合金の弾性率を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					平均弾性率を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					誤差を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/7	全員	ユニット1 歯科材料の弾性係数	歯科用合金の弾性率を測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用合金の弾性率データを評価することで歯科用合金の機械的性質について考察する。	応力 - ひずみ曲線における比例限を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1] 2.4
2	4/14				応力 - ひずみ曲線における弾性限を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		2] 2.4
3	4/21				応力 - ひずみ曲線におけるレジリエンスを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		3] 2.4
					応力 - ひずみ曲線における耐力を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
			ユニット2 石膏の硬化時間	歯科用石膏の練和法、硬化時間の測定原理・方法について理解し、硬化時間測定の実習を通じて、歯科用石膏の組成、硬化反応、基礎的性質（混水比・硬化促進（遅延）剤）について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（模擬対人対応）		
					歯科用石膏の硬化時間を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					発熱曲線を描き、曲線から硬化時間を求めることができる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					歯科用石膏の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実験結果を解釈し、混水比と硬化時間の関係を説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		
					実験結果を解釈し、硬化時間に影響する因子を説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		
			ユニット3 印象材のひずみと硬化時間	印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ、硬化時間を測定するための実験原理・方法について理解し、印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ、硬化時間を測定しデータを評価することで印象材の硬化特性、粘弾性挙動について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（模擬対人対応）		
					印象材の弾性ひずみを測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					印象材の永久ひずみを測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					レオメータを用いて印象材の硬化時間を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					弾性印象材を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					非弾性印象材を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					アルジネート印象材の組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					アルジネート印象材の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					シリコーンゴム印象材の組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					シリコーンゴム印象材の硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					弾性ひずみを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					永久ひずみを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	4/28	全員	ユニット4 歯牙の切削と充填・修復物の研磨	エアーターピンを用いた歯牙の切削、コンポジットレジン ⁵ の充填、マイクロモーターを用いた研磨のための実験原理・方法について理解し、歯牙の切削・充填・修復物の研磨を体験することで、エアーターピン、マイクロモーターの操作方法、切削・研磨工具の取り扱い方を習得する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 エアーターピンの構造を説明できる。 マイクロモーターの構造を説明できる。 切削の定義を説明できる。 研削の定義を説明できる。 研磨の定義を説明できる。 ポイントとバーの違いを説明できる。 切削効率を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	2. 4
5	5/12	全員	ユニット5 埋没材の硬化膨張	埋没材の練和法、硬化膨張の測定原理・方法について理解し、硬化膨張測定の実習を通じて、埋没材の組成、硬化反応、基礎的性質（混水比・硬化促進（遅延）剤・硬化膨張・吸水膨張）について考察する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 埋没材の硬化膨張を測定できる。 実験で得られたデータを整理できる。 膨張率曲線を描き、曲線から硬化膨張率を求めることができる。 石膏系埋没材を説明できる。 リン酸塩系埋没材を説明できる。 硬化膨張を説明できる。 吸水膨張を説明できる。 実験結果を解釈し、埋没材の種類と硬化膨張率の関係を説明できる。 実験結果を解釈し、混水比と硬化膨張率の関係を説明できる。 実験結果を解釈し、硬化促進剤と硬化膨張率の関係を説明できる。 実験結果を解釈し、硬化遅延剤と硬化膨張率の関係を説明できる。 実験結果を解釈し、専用液濃度と硬化膨張率の関係を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 精神運動（支援部分） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（問題解決） 認知（問題解決） 認知（問題解決） 認知（問題解決） 認知（問題解決）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	5] 2. 4 6] 2. 4 7] 2. 4

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	5/12	全員	ユニット6 歯科用セメント	歯科用セメントの硬化時間、引張強度、液のpHを測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用セメントの硬化時間、引張強度、液のpHを測定しデータを評価することで歯科用セメントの組成、硬化反応、基礎的性質(強度、液のpH)について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	5] 2.4 6] 2.4 7] 2.4
6	5/19				実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
7	5/26				班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（模擬対人対応）		
					歯科用セメントの硬化時間を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					歯科用セメント液のpHを測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					歯科用セメントの引張強度を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					平均引張強度を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					誤差を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実験結果を解釈し、硬化時間の違いを説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		
					実験結果を解釈し、引張強度の違いを説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		
					リン酸亜鉛セメントの組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					リン酸亜鉛セメントの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					ポリカルボキシレートセメントの組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					ポリカルボキシレートセメントの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					グラスアイオノマーセメントの組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					従来型グラスアイオノマーセメントの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					レジン添加型グラスアイオノマーセメントの硬化反応を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	5/12	全員	ユニット7 歯科用合金の機械的性質	歯科用合金の引張強さを測定するための実験原理・方法について理解し、歯科用合金の引張強さを測定しデータを評価することで歯科用合金の機械的性質について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	5] 2. 4
6	5/19				実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		6] 2. 4
7	5/26				班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（自己対応）		7] 2. 4
					歯科用合金の引張強度を測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					平均引張強さを計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					誤差を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実験結果を解釈し、歯科用合金間の引張強度の違いを説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		
					応力－ひずみ曲線における降伏点を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					応力－ひずみ曲線における引張強さを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					応力－ひずみ曲線における靱性を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					塑性ひずみを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
8	6/2	全員	ユニット8 接着	接着の前処理として用いられるメタルプライマー（金属接着面）、セラミックプライマー（セラミックス接着面）処理を施した試料の接着強さを測定するための実験原理・方法について理解し、接着強さを測定しデータを評価することで、接着処理法、接着処理が接着強さに及ぼす影響について考察する。	実習の目的を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	8] 2. 4
9	6/9				実習の方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		9] 2. 4
10	6/16				班員と協調して実習に参加できる。	Ⅲ-21	情意（模擬対人対応）		10] 2. 4
					接着強さを測定できる。	Ⅲ-21	精神運動（支援部分）		
					実験で得られたデータを整理できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					平均接着強さを計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					誤差を計算できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					接着性モノマーを列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		
					メタルプライマーを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					セラミックプライマーを説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
					実験結果を解釈し、接着強さに影響する因子を説明できる。	Ⅲ-21	認知（問題解決）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8 9 10	6/2 6/9 6/16	全員	ユニット9 コンポジットレジン	コンポジットレジンの重合収縮率を測定するための実験原理・方法について理解し、フィラー含有量を変えた重合収縮率を測定しデータを評価することでコンポジットレジンの組成、重合反応、フィラーの役割について考察する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 重合収縮率を測定できる。 実験で得られたデータを整理できる。 平均重合収縮率を計算できる。 誤差を計算できる。 ベースモノマーを列挙できる。 フィラーの種類・粒径と配合量を説明できる。 フィラーの表面処理法を説明できる。 化学重合型コンポジットレジンの硬化反応を説明できる。 光重合型コンポジットレジンの硬化反応を説明できる。 実験結果を解釈し、フィラー含有率と重合収縮率の関係を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 精神運動（支援部分） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（問題解決）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	8] 2.4 9] 2.4 10] 2.4
			ユニット10 アクリルレジンの重合	加熱重合、常温重合アクリルレジンの重合時温度測定のための実験原理・方法について理解し、重合時温度変化を測定しデータを評価することで加熱重合、常温重合アクリルレジンの組成、重合反応について考察し、重合操作を修得する。	実習の目的を説明できる。 実習の方法を説明できる。 班員と協調して実習に参加できる。 常温重合アクリルレジンの重合時温度を測定できる。 加熱重合アクリルレジンの重合時温度を測定できる。 実験で得られたデータを整理できる。 実験結果を解釈し、重合槽の温度の違いによる加熱重合アクリルレジンの重合時の温度変化を説明できる。 常温重合アクリルレジンの組成を列挙できる。 常温重合アクリルレジンの重合反応を説明できる。 加熱重合アクリルレジンの組成を列挙できる。 加熱重合アクリルレジンの重合反応を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 情意（模擬対人対応） 精神運動（支援部分） 精神運動（支援部分） 認知（解釈） 認知（問題解決） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈）		
11	6/23	全員	実習試験	実習内容およびそれらに関連する歯科生体材料の組成、硬化反応、物性、技工用器械の構造、性能に関する知識を身につける。	実習に参加できる。 実習の基礎的な知識を列記できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21	情意（模擬対人対応） 認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	2.4

衛生学 【講義】

科目番号 0D021107

前期：15コマ

評価責任者：埴岡 隆

担当教員：島津 篤、谷口奈央、埴岡 隆

（一般目標）

自然および社会的環境がヒトの健康に与える各種の要因を理解し、環境と健康の関わりを考察する。衛生学・公衆衛生学的立場から、健康の保持、増進をはかる為の方策を学習する。そのことによって環境の保全、持続可能な地球未来の構築、ヒトの健康を増進することの意義を考察する。

（教育方法）

教科書、配布資料、小規模実施（学生参加型授業、グループディスカッション、PBL、協調・協同学習、体験学習、調査学習、ディベート、反転授業）
（その他AL）

（学習方法）

授業の前後に下記教科書や配布されたプリントで予習および復習を行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

各授業ごとの受講態度・レポート（20%）の返却によりフィードバックを行い中間試験（40%）、定期試験（40%）で総合評価を行う。

（教科書）

1. 宮武光吉、渡邊達夫、栗石 聡、川口陽子、「衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2013.

（参考書）

1. 岸 令子、古野純典、大前和幸、小泉昭夫、「NEW 予防医学・公衆衛生学」、南江堂、2013
2. 全国歯科衛生士教育協議会 編集、「衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2013

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/6	埴岡 隆	ユニット1 保健統計（衛生学・公衆衛生学の意義と目的）	衛生学・公衆衛生学の意義と目的を理解する。	衛生学・公衆衛生学の意義と目的を、喫煙と無煙タバコを例に、説明することができる。	Ⅲ-22	認知（想起）	衛生学・公衆衛生学の意義と目的および喫煙と無煙タバコ	1.0
2	4/8	島津 篤	ユニット1 保健統計（集団の特徴）	集団の特徴について理解する。	国民の健康状態の変化について説明できる。	Ⅲ-23	認知（想起）	人口動態統計・動態統計・生命表および国民の健康状態の変化	1.0
					人口動態統計・動態統計・生命表について説明できる。	Ⅲ-23	認知（想起）		
3	4/13	島津 篤	ユニット1 保健統計（集団の変化）	集団の変化について理解する。	社会環境の変化について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	社会環境の変化および歯科保健医療情報	1.0
					歯科保健医療情報について述べる。	Ⅲ-23	認知（想起）		
4	4/15	島津 篤	ユニット2 環境保健（環境と健康との関わりと対策）	環境と健康との関わりと対策について理解する。	地球環境の変化と健康への影響について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	社会環境の変化	1.0
5	4/20	島津 篤	ユニット2 環境保健（地球環境と対策）	地球環境と対策について理解する。	地球環境の保全について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	地球環境の変化への対策	1.0
6	4/22	島津 篤	ユニット2 環境保健（環境汚染と対策）	環境汚染と対策について理解する。	環境汚染について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	環境汚染および水と健康影響	1.0
					水と健康影響について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	4/27	島津 篤	ユニット2 環境保健（健康に影響を及ぼす要因と対策）	健康に影響を及ぼす要因と対策について理解する。	空気、温熱環境、騒音・振動と健康影響について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	空気、温熱環境、騒音・振動、住居および衣服と健康	1.0
					住居および衣服と健康について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）		
8	5/8	島津 篤	ユニット2 環境保健（感染症）	感染症について理解する	感染症の基礎と流行について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	感染症	1.0
					感染症の対策と人権について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）		
9	5/11	島津 篤	中間試験	ユニット1、2を再度理解する。	保健医療統計と応用、環境保健を説明できる。	Ⅲ-22		ユニット1と2	1.0
10	5/11	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（食生活と健康）	食生活と健康について理解する。	食生活の現状と対策について説明できる。	Ⅲ-23	認知（想起）	食生活の現状と対策	1.0
11	5/13	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（食品保健）	食品保健について理解する。	食品保健について説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	食品保健	1.0
12	5/18	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（生活習慣病）	生活習慣病を理解する。	生活習慣病の予防と健康増進について説明する。	Ⅲ-22	認知（想起）	生活習慣病の予防と健康増進	1.0
13	5/20	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（生活習慣病対策）	生活習慣病対策を理解する。	特定健診および特定保健指導について説明する。	Ⅲ-22	認知（想起）	生活習慣病の予防と健康増進	1.0
14	5/25	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（疫学の概要）	疫学の概要について理解する。	疫学の意義と目的、方法の概要を説明できる。	Ⅲ-22	認知（想起）	特定健診および特定保健指導、予防医学	1.0
15	6/1	谷口奈央	ユニット3 口腔と衛生（口腔保健学の基本）	口腔保健学の基本を理解する。	予防医学を説明する。	Ⅲ-22	認知（想起）	予防医学と健康増進・ヘルスプロモーション	1.0
					健康増進・ヘルスプロモーションを説明する。	Ⅲ-22	認知（問題解決）		

外科学 【講義】

科目番号 OD021304

前期：15コマ

評価責任者：池田哲夫

担当教員：池田哲夫、外科・内視鏡センター教員

（一般目標）

全身的視野に立って口腔・顎顔面領域の診療を行うために、医学（外科）の歴史、医の倫理、インフォームドコンセント、医科診断法、滅菌・消毒、ショック、輸血、体液・栄養管理、腫瘍を中心とした血液疾患や消化器疾患などの臨床医学の基本知識と考え方を習得し、歯科学の学習と診療に適用する。

（教育方法）

プリント、参考書による講義
スライドを用いた説明

（学習方法）

参考書「標準外科学」を読む。
【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験（記述および多肢選択、95%）、授業態度（質疑応答を含む）（5%）
フィードバックについて：評価責任者の最終講義時間にプレテストを行い、問題解説を行う。

（教科書）

小林正伸 やさしい 腫瘍学 南江堂
渡邊純一 みんなの 血液内化学 中外医学社

（参考書）

松野正紀 監修「標準外科学」第14版 医学書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	4/2	池田哲夫、 内視鏡センター教員	外科学の概念（1）	外科学の歴史を知り、外科医の倫理を身につける。インフォームド・コンセントの重要性を認識し、その具体的方法を理解する。医療事故が発生する要因を認識し、その予防について理解する。	外科学史において重要な事項を述べる 史実から先人の教えを感ずる インフォームド・コンセントの定義と方法を説明する 癌患者への説明、安楽死や尊厳死について討論する 医療事故と医療過誤を識別する 医療事故報告のシステムについて説明する 医療事故防止対策を述べる	I-4 I-4 IV-15 I-4 IV-15 IV-15 IV-15	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	参考書「標準外科学」のp3-p9とp238-259を読む。 参考書「新臨床外科学」のp153～p155を読む。	1.0
2	4/9	池田哲夫、 内視鏡センター教員	外科学の概念（2）	外科基本手技とその重要性を理解する	1) 一時的および永久的止血法について述べる 皮膚切開法、縫合法を述べる ドレナージの方法と意義を述べる 縫合糸の種類と、それぞれの長所・欠点を列挙する	III-17 III-5 III-17 III-5	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	参考書「標準外科学」のp58～p84を読む。参考書「新臨床外科学」のp144～152を読む。	1.0
3	4/16	池田哲夫、 内視鏡センター教員	消毒と滅菌	滅菌と消毒の意義と重要性を認識し、その具体的方法を理解する	滅菌と消毒の定義を述べる 代表的滅菌法と消毒法を説明する 至適滅菌法、あるいは消毒法を選択する	IV-15 IV-15 IV-15	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	1) 参考書「標準外科学」のp283～p284を読む。 2) 参考書「新臨床外科学」のp101～p106を読む。 3) 「NST活動」についてインターネットで調べる。 4) 消化器病学の教科書「消化器疾患ビジュアルブック」p370～p376を読む。 5) 「胃瘻増設術」についてインターネットで調べる。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	4/23	池田哲夫、内視鏡センター教員	外科診断法（1）	病歴の聴取法、身体所見のとり方、必要な臨床検査の選択を理解する	1) 病歴の聴取法を説明する	II-2	認知（解釈）	参考書「標準外科学」のp51-p57を読む。	1.0
					2) 身体所見と病態を関係付ける	II-2	認知（解釈）		
					3) 適切な検査法を選択する	III-17	認知（解釈）		
			外科診断法（2）	水・電解質異常及び酸塩基平衡異常に関する知識を身につけ、体液管理の実践を理解する	体液の分布とその調節機構を説明する	III-1	認知（解釈）		
					水・ナトリウム代謝異常の病態生理・診断・治療について述べる	III-5	認知（解釈）		
					カリウム代謝異常の診断と治療について述べる	III-17	認知（解釈）		
					酸塩基平衡の調節機構を理解し、その異常を述べる	III-17	認知（解釈）		
					輸液の基礎と臨床応用を説明する	III-17	認知（解釈）		
5	4/30	池田哲夫、内視鏡センター教員	外科と栄養	栄養評価法・NSTの活動内容・各種栄養法を理解する	1) 栄養評価法を列挙する。	III-14	認知（解釈）	参考書「標準外科学」のp28-p49を読む。	1.0
					2) 必要カロリー計算法と栄養素のバランスを述べる。	III-14	認知（解釈）		
					3) NSTの意義を述べる。IVHと経腸栄養の利点、欠点を列挙する。	III-14	認知（解釈）		
					4) PEGの方法を述べる。	III-14	認知（解釈）		
					5) PEGの適応を述べ、合併症を列挙する。	III-14	認知（解釈）		
6	5/7	池田哲夫、内視鏡センター教員	出血と止血	止血のメカニズムおよび止血機構の異常を理解する	止血の三要素を列挙する	III-2	認知（解釈）	参考書「新臨床外科学」のp80-p92を読む。	1.0
					止血機能異常の診断法、代表疾患を列挙する。	III-2	認知（解釈）		
					抗凝固剤を列挙する。	III-19	認知（解釈）		
					抗凝固剤内服者に対する対応を述べる。	III-17	認知（解釈）		
7	5/14	池田哲夫、内視鏡センター教員	輸血	輸血の適応・輸血の種類・を理解する。輸血の副作用を理解し、事故を予防する。	輸血の適応を述べる。	III-5	認知（解釈）	教科書「わかりやすい内科学」のp909-p970を読む。	1.0
					輸血の種類を述べる。	III-5	認知（解釈）		
					輸血の副作用を列挙する。	III-5	認知（解釈）		
					不適合輸血の原因、症状、対処法を列挙する。	III-5	認知（解釈）		
8	5/21	池田哲夫、内視鏡センター教員	貧血など血液疾患	貧血および出血性疾患の病態と成因を理解する	発生機序からみた貧血および出血性疾患の分類を述べる	III-17	認知（解釈）	教科書「わかりやすい内科学」のp909-p970を読む。	1.0
					貧血の鑑別診断を説明する	III-17	認知（解釈）		
					止血機構と凝固反応を説明する	III-17	認知（解釈）		
					凝固障害による出血性疾患の鑑別診断を説明する	III-17	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	5/28	池田哲夫、内視鏡センター教員	血小板減少症と血小板機能不全	血小板機能と血小板異常の病態を理解する	血小板の機能を述べる	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書「わかりやすい内科学」のp909～p970を読む。	1.0
					血小板機能異常の病態を説明する	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					血小板減少症の分類を述べる	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					血小板異常の症状と徴候を説明する	Ⅲ-17	認知（解釈）		
10	6/4	池田哲夫、内視鏡センター教員	白血病と悪性リンパ腫	白血病と悪性リンパ腫の病態と治療を理解する	白血球の種類と機能を述べる	Ⅲ-17	認知（解釈）	教科書「わかりやすい内科学」のp909～p970を読む。	1.0
					白血病と悪性リンパ腫の代表的分類を述べる	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					代表的白血病の遺伝子異常と分子標的治療について説明する	Ⅲ-17	認知（解釈）		
11	6/11	池田哲夫、内視鏡センター教員	腫瘍の定義と分類（1）	腫瘍の定義と分類を理解する	腫瘍の定義を述べる	Ⅳ-4	認知（解釈）	参考書「新臨床外科学」のp87～p94を読む。2）参考書「標準外科学」のp105～p112を読む。	1.0
					上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍を識別する	Ⅳ-4	認知（解釈）		
					良性腫瘍と悪性腫瘍を識別する	Ⅳ-4	認知（解釈）		
12	6/18	池田哲夫、内視鏡センター教員	腫瘍の定義と分類（2）	腫瘍の基本的病態、特に悪性腫瘍の病態を理解する	腫瘍の形態と発育形式から良性と悪性を識別する	Ⅲ-5	認知（解釈）	1）参考書「標準外科学」のp94～p100を読む。2）参考書「新臨床外科学」のp60～p70を読む。	1.0
					転移の種類と発生臓器について説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
13	6/25	池田哲夫、内視鏡センター教員	腫瘍の定義と分類（3）	細胞のがん化と増殖のメカニズムを理解する	細胞のがん化メカニズムについて説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）	インフォームドコンセント、プラセボ効果について予習しておく。	1.0
					がん遺伝子とがん抑制遺伝子の働きを述べる	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					発癌因子を列挙する	Ⅲ-5	認知（解釈）		
14	6/30	池田哲夫、内視鏡センター教員	腫瘍免疫	腫瘍発生の免疫液メカニズムを理解する	がん化メカニズムと腫瘍免疫について説明する	Ⅲ-5	認知（解釈）	前回までの講義資料を再度目を通す。	1.0
					腫瘍関連抗原の働きを述べる	Ⅲ-5	認知（解釈）		
					免疫療法を説明できる	Ⅲ-5	認知（解釈）		
15	7/2	池田哲夫、内視鏡センター教員	腫瘍の診断治療	腫瘍診断のための検査の必要性を認識し、各種検査法を理解する	各種画像診断法を列記する	Ⅲ-17	認知（解釈）	1）参考書「標準外科学」のp16～p27を読む。2）参考書「新臨床外科学」のp219～p224とp241～p262を読む。3）インターネットで「一次救命処置」について調べる。4）地域や学内でのAED講習会に参加	1.0
					適切な画像診断法を選択する	Ⅲ-17	認知（解釈）		
					腫瘍マーカーの適応と限界を述べる	Ⅲ-17	認知（解釈）		

後 期

令和2年度 授業時間割表 【第2学年】

(後期)

2年生		20	25	25	15	25	20	25	25	25	20	25
月曜日	時間	8月31日	9月7日	9月14日	9月21日	9月28日	10月5日	10月12日	10月19日	10月26日	11月2日	11月9日
1限目	(9:00-10:20)				敬老の日							
2限目	(10:35-11:55)		基礎免疫学-1 601	基礎免疫学-2 601		基礎免疫学-3 601	基礎免疫学-4 601	基礎免疫学-5 601	基礎免疫学-6 601	基礎免疫学-7 601	基礎免疫学-8 601	基礎免疫学-9 601
3限目	(13:00-14:20)		生化学Ⅱ-1 601	生化学Ⅱ-2 601		生化学Ⅱ-3 601	生化学Ⅱ-4 601	生化学Ⅱ-5 601	生化学Ⅱ-6 601	生化学Ⅱ-7 601	生化学Ⅱ-8 601	生化学Ⅱ-9 601
4限目	(14:35-15:55)		医療・臨床心理学 -1 601	医療・臨床心理学 -2 601		医療・臨床心理学 -3 601	医療・臨床心理学 -4 601	医療・臨床心理学 -5 601	医療・臨床心理学 -6 601	医療・臨床心理学 -7 601	口腔保健学Ⅰ-8 601	口腔保健学Ⅰ-10 601
5限目	(16:10-17:30)		口腔保健学Ⅰ-1 601	口腔保健学Ⅰ-2 601		口腔保健学Ⅰ-3 601	口腔保健学Ⅰ-4 601	口腔保健学Ⅰ-5 601	口腔保健学Ⅰ-6 601	口腔保健学Ⅰ-7 601	口腔保健学Ⅰ-9 601	口腔保健学Ⅰ-11 601

2年生												
火曜日	時間	9月1日	9月8日	9月15日	9月22日	9月29日	10月6日	10月13日	10月20日	10月27日	11月3日	11月10日
1限目	(9:00-10:20)	生理学Ⅲ-1 601	生理学Ⅲ-2 601	生理学Ⅲ-3 601	秋分の日	生理学Ⅲ-4 601	生理学Ⅲ-5 601	生理学Ⅲ-6 601	生理学Ⅲ-7 601	生理学Ⅲ-8 601	文化の日	生理学Ⅲ-9 601
2限目	(10:35-11:55)	歯科理工学Ⅲ-1 601	歯科理工学Ⅲ-2 601	歯科理工学Ⅲ-3 601		歯科理工学Ⅲ-4 601	歯科理工学Ⅲ-5 601	歯科理工学Ⅲ-6 601	歯科理工学Ⅲ-7 601	歯科理工学Ⅲ-8 601		歯科理工学Ⅲ-9 601
3限目	(13:00-14:20)	系統解剖学Ⅲ-1 601	系統解剖学Ⅲ-5 601	系統解剖学Ⅲ-9 601		系統解剖学Ⅲ-15 601	系統解剖実習-4 解剖実習室	系統解剖実習-10 解剖実習室	系統解剖実習-16 解剖実習室	系統解剖実習-22 解剖実習室		系統解剖実習-31 解剖実習室
4限目	(14:35-15:55)	系統解剖学Ⅲ-2 601	系統解剖学Ⅲ-6 601	系統解剖学Ⅲ-10 601		口腔薬理学-8 601	系統解剖実習-5 解剖実習室	系統解剖実習-11 解剖実習室	系統解剖実習-17 解剖実習室	系統解剖実習-23 解剖実習室		系統解剖実習-32 解剖実習室
5限目	(16:10-17:30)	口腔薬理学-1 601	口腔薬理学-3 601	口腔薬理学-5 601		口腔薬理学-9 601	系統解剖実習-6 解剖実習室	系統解剖実習-12 解剖実習室	系統解剖実習-18 解剖実習室	系統解剖実習-24 解剖実習室		系統解剖実習-33 解剖実習室

2年生												
水曜日	時間	9月2日	9月9日	9月16日	9月23日	9月30日	10月7日	10月14日	10月21日	10月28日	11月4日	11月11日
1限目	(9:00-10:20)	asserivenestraining-1 502	asserivenestraining-2 502	asserivenestraining-3 502	asserivenestraining-4 502	asserivenestraining-5 502	asserivenestraining-6 502	asserivenestraining-7 502	asserivenestraining-8 502	asserivenestraining-9 502	asserivenestraining-10 502	asserivenestraining-11 502
2限目	(10:35-11:55)	SciEnglishⅡ-1 A803/B601	SciEnglishⅡ-2 A803/B601	SciEnglishⅡ-3 A803/B601	SciEnglishⅡ-4 A803/B601	SciEnglishⅡ-5 A803/B601	SciEnglishⅡ-6 A803/B601	SciEnglishⅡ-7 A803/B601	SciEnglishⅡ-8 A803/B601	SciEnglishⅡ-9 A803/B601	SciEnglishⅡ-10 A803/B601	SciEnglishⅡ-11 A803/B601
3限目	(13:00-14:20)	【選択】 美学-1 601	【選択】 美学-2 601	【選択】 美学-3 601	【選択】 美学-4 601	【選択】 美学-5 601	【選択】 美学-6 601	【選択】 美学-7 601	【選択】 美学-8 601	【選択】 美学-9 601	【選択】 美学-10 601	【選択】 美学-11 601
4限目	(14:35-15:55)	口腔薬理学-2 601	口腔薬理学-4 601	口腔薬理学-6 601	口腔薬理学-7 601	口腔薬理学-10 601	口腔薬理学-11 601	口腔薬理学-12 601	口腔薬理学-13 601	口腔薬理学-14 601	口腔薬理学-15 601	口腔薬理学-16 601
5限目	(16:10-17:30)	生命倫理学-1 601	生命倫理学-2 601	生命倫理学-3 601	生命倫理学-4 601	生命倫理学-5 601	生命倫理学-6 601	生命倫理学-7 601	生命倫理学-8 601	生命倫理学-9 601	生命倫理学-10 601	生命倫理学-11 601

2年生												
木曜日	時間	9月3日	9月10日	9月17日	9月24日	10月1日	10月8日	10月15日	10月22日	10月29日	11月5日	11月12日
1限目	(9:00-10:20)	口腔細菌学-1 601	口腔細菌学-3 601	口腔細菌学-4 601	口腔細菌学-6 601	口腔細菌学-8 601	献体者 慰霊祭	口腔細菌学-9 601	口腔細菌学-10 601	口腔細菌学-11 601	口腔細菌学-13 601	口腔細菌学-15 601
2限目	(10:35-11:55)	口腔細菌学-2 601	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-4 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-8 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-12 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-16 702		機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-20 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-24 702	口腔細菌学-12 601	口腔細菌学-14 601	口腔細菌学-16 601
3限目	(13:00-14:20)	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-1 601	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-5 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-9 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-13 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-17 702		機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-21 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-25 702	病理学-15 601	病理学-17 601	病理学-19 601
4限目	(14:35-15:55)	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-2 601	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-6 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-10 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-14 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-18 702		機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-22 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-26 702	病理学-16 601	病理学-18 601	病理学-20 601
5限目	(16:10-17:30)	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-3 601	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-7 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-11 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-15 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-19 702		機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-23 702	機能生物化学実習Ⅰ (化学・生化学系)-27 702	医療・臨床心理学 -8 601	医療・臨床心理学 -9 601	医療・臨床心理学 -10 601

2年生												
金曜日	時間	9月4日	9月11日	9月18日	9月25日	10月2日	10月9日	10月16日	10月23日	10月30日	11月6日	11月13日
1限目	(9:00-10:20)	病理学-1 601	病理学-3 601	病理学-5 601	病理学-7 601	病理学-9 601	病理学-11 601	病理学-13 601	発生学・ 組織学演習Ⅱ-1 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-3 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-5 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-7 情報処理実習室
2限目	(10:35-11:55)	病理学-2 601	病理学-4 601	病理学-6 601	病理学-8 601	病理学-10 601	病理学-12 601	病理学-14 601	発生学・ 組織学演習Ⅱ-2 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-4 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-6 情報処理実習室	発生学・ 組織学演習Ⅱ-8 情報処理実習室
3限目	(13:00-14:20)	系統解剖学Ⅲ-3 601	系統解剖学Ⅲ-7 601	系統解剖学Ⅲ-11 601	系統解剖学Ⅲ-13 601	系統解剖実習-1 解剖実習室	系統解剖実習-7 解剖実習室	系統解剖実習-13 解剖実習室	系統解剖実習-19 解剖実習室	系統解剖実習-25 解剖実習室	系統解剖実習-28 解剖実習室	系統解剖実習-34 解剖実習室
4限目	(14:35-15:55)	系統解剖学Ⅲ-4 601	系統解剖学Ⅲ-8 601	系統解剖学Ⅲ-12 601	系統解剖学Ⅲ-14 601	系統解剖実習-2 解剖実習室	系統解剖実習-8 解剖実習室	系統解剖実習-14 解剖実習室	系統解剖実習-20 解剖実習室	系統解剖実習-26 解剖実習室	系統解剖実習-29 解剖実習室	系統解剖実習-35 解剖実習室
5限目	(16:10-17:30)			口腔細菌学-5 601	口腔細菌学-7 601	系統解剖実習-3 解剖実習室	系統解剖実習-9 解剖実習室	系統解剖実習-15 解剖実習室	系統解剖実習-21 解剖実習室	系統解剖実習-27 解剖実習室	系統解剖実習-30 解剖実習室	系統解剖実習-36 解剖実習室

25	20	25	25	25	5					
11月16日	11月23日	11月30日	12月7日	12月14日	12月21日	12月28日	1月4日	1月11日	1月18日	1月25日
	勤労感謝の日				基礎免疫学-14 601			成人の日		
基礎免疫学-10 601		基礎免疫学-11 601	口腔細菌学-23 601	口腔細菌学-24 601	基礎免疫学-15 601					
生化学Ⅱ-10 601		生化学Ⅱ-11 601	生化学Ⅱ-12 601	生化学Ⅱ-13 601	生化学Ⅱ-15 601					
口腔保健学Ⅰ-12 601		口腔保健学Ⅰ-14 601	口腔保健学Ⅰ-16 601	生化学Ⅱ-14 601	生化学Ⅱ-16 601	定期試験(予定)				
口腔保健学Ⅰ-13 601		口腔保健学Ⅰ-15 601	口腔保健学Ⅰ-17 601	口腔保健学Ⅰ-18 601	口腔保健学Ⅰ-20 601					

11月17日	11月24日	12月1日	12月8日	12月15日	12月22日	12月29日	1月5日	1月12日	1月19日	1月26日
生理学Ⅲ-10 601	生理学Ⅲ-11 601	生理学Ⅲ-12 601	生理学Ⅲ-13 601	生理学Ⅲ-14 601			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
歯科理工学Ⅲ-10 601	歯科理工学Ⅲ-11 601	歯科理工学Ⅲ-12 601	歯科理工学Ⅲ-13 601	歯科理工学Ⅲ-14 601						
系統解剖実習-37 解剖実習室	系統解剖実習-43 解剖実習室	系統解剖実習-49 解剖実習室	系統解剖実習-55 解剖実習室	系統解剖実習-61 解剖実習室						
系統解剖実習-38 解剖実習室	系統解剖実習-44 解剖実習室	系統解剖実習-50 解剖実習室	系統解剖実習-56 解剖実習室	系統解剖実習-62 解剖実習室						
系統解剖実習-39 解剖実習室	系統解剖実習-45 解剖実習室	系統解剖実習-51 解剖実習室	系統解剖実習-57 解剖実習室	系統解剖実習-63 解剖実習室						

11月18日	11月25日	12月2日	12月9日	12月16日	12月23日	12月30日	1月6日	1月13日	1月20日	1月27日
asserivenesstraini ng-12 502	asserivenesstraini ng-13 502	asserivenesstraini ng-14 502	asserivenesstraini ng-15 502	生理学Ⅲ-15 601			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
SciEnglishⅡ-12 A803/B601	SciEnglishⅡ-13 A803/B601	SciEnglishⅡ-14 A803/B601	SciEnglishⅡ-15 A803/B601	歯科理工学Ⅲ-15 601						
【選択】 美学-12 601	【選択】 美学-13 601	【選択】 美学-14 601	【選択】 美学-15 601	口腔保健学Ⅰ-19 601						
口腔薬理学-17 601	口腔薬理学-18 601	口腔薬理学-19 601	口腔薬理学-20 601							
生命倫理学-12 601	生命倫理学-13 601	生命倫理学-14 601	生命倫理学-15 601	生命倫理学-16 601						

11月19日	11月26日	12月3日	12月10日	12月17日	12月24日	12月31日	1月7日	1月14日	1月21日	1月28日
口腔細菌学-17 601	口腔細菌学-19 601	口腔細菌学-21 601	基礎免疫学-12 601	口腔細菌学-25 601			定期試験(予定)	定期試験(予定)		
口腔細菌学-18 601	口腔細菌学-20 601	口腔細菌学-22 601	基礎免疫学-13 601	口腔細菌学-26 601						
病理学-21 601	病理学-23 601	病理学-25 601	病理学-27 601	病理学-29 601						
病理学-22 601	病理学-24 601	病理学-26 601	病理学-28 601	病理学-30 601						
医療・臨床心理学 -11 601	医療・臨床心理学 -12 601	医療・臨床心理学 -13 601	医療・臨床心理学 -14 601	医療・臨床心理学 -15 601						

11月20日	11月27日	12月4日	12月11日	12月18日	12月25日	1月1日	1月8日	1月15日	1月22日	1月29日
発生物学・ 組織学演習Ⅱ-9 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-11 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-13 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-15 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-17 802			定期試験(予定)			
発生物学・ 組織学演習Ⅱ-10 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-12 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-14 802	発生物学・ 組織学演習Ⅱ-16 802							
系統解剖実習-40 解剖実習室	系統解剖実習-46 解剖実習室	系統解剖実習-52 解剖実習室	系統解剖実習-58 解剖実習室	系統解剖実習-64 解剖実習室						
系統解剖実習-41 解剖実習室	系統解剖実習-47 解剖実習室	系統解剖実習-53 解剖実習室	系統解剖実習-59 解剖実習室	系統解剖実習-65 解剖実習室						
系統解剖実習-42 解剖実習室	系統解剖実習-48 解剖実習室	系統解剖実習-54 解剖実習室	系統解剖実習-60 解剖実習室	系統解剖実習-66 解剖実習室						

美学 【講義】

科目番号 OD022003

後期：15コマ

評価責任者： 学生部長 永嶋哲也

担当教員： 米良ゆき

（一般目標）

本講義では、音楽を中心とする「芸術作品」「アート」及び「感性」を扱う。近年、VR技術のように人間の感性を基軸とした技術が目覚ましい発展を遂げている。これは人間の感覚を数値化・データ化することによって可能になる技術と言えるだろう。美学という学問が扱うのも、同様に人間の「感性」や「創造」をめぐる事象である。しかし、例えば歯科医の技術は紛れもない「技術」だが、一方で「つくる」とは技術でありながら、なぜ一部は「芸術」と呼ばれるのか—このような問いに対し、美学は現象を数や方程式に変換するといった数学的な方法とはらない。数的原理を用いた手法は明快であり正確である。しかし我々が暮らす社会が“ $1+1=2$ が必ずしも成立しない世界”であるということは、誰しも経験によって実感できるものだろう。世界は常に答えのない問いや、自分なりに考えることでしか解決できない問題に満ちている。人間が営む彩り豊かな世界には、どうしても数に抽象化するとはみ出してしまう現象が確かに存在しているのだ。美学は、このような現象の端的なモデルとして芸術を設定し、人間の感性や創造にまつわる問題を「言葉」によって論理的に考える、という営みである。求めうる一つの「正解」はなくとも、思考力を駆使して「論理的な妥当性」を追い求めていく—この営みによって世界の多彩なあり様をありのまま受けとめること、そしてさらには現象の背後に潜む世界の新たな意味を発見すること、これが美学の重要な目的である。よって本講義の目標は、知識を暗記することではなく、多様な表現のあり方に触れながら、講義で提示される幾つかの概念を理解し、自分で論理的に考える思考力を身につけること、適切な根拠を持って自らの答えを導く力を養うこととする。

（教育方法）

※授業の進め方や構成、取り上げる作品等は、参加者の皆さんの要望や意見にできるだけ柔軟に対応したい。

○授業で取り上げる各々のトピックに関しては、実際に作品を鑑賞する時間を取り、身近な話題を取り入れながら、教員がなるべくわかりやすいように丁寧な解説を心がける。そのため、特に芸術等に関する専門的な知識は必要としない。しかし毎回の授業の中では、教員があるテーマに関するレクチャーを行ったあとで問題提起を行い、学生の皆さんに発言を求めることがある。もし上手く発言できなくてもサポートを行うが、対話の中で問いを深めていくことが目的であるので、参加しようとする姿勢が肝要である。レクチャーの中ではいわゆるクラシック音楽に限らず、他の芸術を含む対象を幅広く扱う予定である。是非興味のある方に受講していただきたい。

○講義は教員のパワーポイント及び配布資料をもとに進める。尚、パワーポイントに関しては基本的に配布しない。講義中は、自分でノートを作成すること。

○講義の中ではグループを作り、ディスカッションの中で理解を深めるワークショップを適宜行う。注意事項については、授業の際に詳しく説明する。

○毎回授業の終わりにリアクションペーパーを提出する。最終レポートと併せて評価を行う。

○本講義では最終レポートの完成に向けて、3回にわたり最終レポートの作成指導を行う。自らの疑問に対し適切な問いを設定すること、論理的な文章を書くための基礎的な技術力を身につけることが目的である。

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）

（学習方法）

教育方法に記載した内容を参照 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

授業中の参加姿勢、及びリアクションペーパーの提出(50%)、最終レポート(50%)

尚、詳細な評価基準に関しては初回の講義で明示する。評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

特に指定しない。

（参考書）

美学の入門書としては以下の文献を挙げる。

○今道友信『美について』講談社、1973年

○佐々木健一『美学への招待』中央公論新社、2004年

その他参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/2	米良	【ユニット1】イントロダクション	本講義の全体像と理念を理解する。	なぜ私たちは大学という場所ですべて「学ぶ」必要があるのか。あるいは「教養」の意味とは何か。初回の講義ではオリエンテーションとして、このような素朴な疑問について考える。また、美学という学問の成り立ちを理解し、講義で扱う主要なトピックを概観する。	VI-1	認知（解釈）	美学の入門書として上記に挙げた参考書を読んでおく。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
2	9/9	米良	【ユニット2】芸術の存在理由と可能性を問う	芸術に何が求められるかを、批判的に問う。	一般に「芸術」とは、自分の思いや考えを表現して、他の人に伝えるものとして理解されている。であるとすれば、誰かの意図を第三者に伝える媒体としての「広告」とは何が違うのだろうか。ここでは芸術を「道具」や「広告」と比較しながら、芸術の独自性を明らかにしてゆく。講義では芸術の媒体としての側面に着目しながら受講者同士でディスカッションを行い、「芸術とは何か」を考えるために、芸術の特質についての問いや理解を深める。	VI-1	認知（解釈）		1.0
3	9/16	米良	【ユニット2】芸術の存在理由と可能性を問う	芸術に何が求められるかを、批判的に問う。	前週のディスカッションの成果をもとにコンセプチュアル・アート、ポップ・アート等の現代アートによって提示される問題意識の一例に触れる。これを通じて「芸術」という概念を素朴な疑問から批判的に問い直す。	VI-1	認知（解釈）	ポップ・アート、コンセプチュアル・アートという概念、およびアンディ・ウォーホル、マルセル・デュシャンという作家についてインターネット上で可能な範囲で情報を得ておき、それらの作品の幾つかを鑑賞する。	1.0
4	9/23	米良	【ユニット2】芸術の存在理由と可能性を問う	「表現と快」の問題について考えることで、芸術の存在意義について思考する。	あいちトリエンナーレ2019『表現の不自由展・その後』をめぐることは、現代のクリエイターにとっても、鑑賞者にとってもクリティカルな問題が提起された。講義では「表現と快」にテーマを設定し、ディスカッションを行い、「自由な表現」と「不快な表現」について考える。	I-8	認知（解釈）		1.0
5	9/30	米良	【ユニット2】芸術の存在理由と可能性を問う	「表現と快」の問題について考えることで、芸術の存在意義について思考する。	「自由な表現」の問題は、実は近現代の美術界においては長らく様々な問題を提起してきた。それはたとえば芸術は人を「不快」にすることはいけないものなのか、という基本的な問いに留まらない。クリエイターの創造性はどこまで守られるべきなのか。望ましい鑑賞のあり方とは何か。社会は芸術との関係性をどのように構築すべきなのか。芸術の存在意義とは一体何か。前回の講義を踏まえ、表現の「自由」についての歴史的な背景を学びながら、これらの問題について考える。	VI-1	認知（解釈）		1.0
6	10/7	米良	【ユニット2】芸術の存在理由と可能性を問う	芸術に何が求められるかを、批判的に問う。				プラトン「詩人追放論」 / アウグスティヌス「告白」	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	10/14	米良	【ユニット3】作者性、及び作品の価値とは何か	「作者」とは如何なる存在であるかを問い、自分なりの答えを論理的に説明する。何が芸術を「芸術」にしているのかを批判的に問う。	「独創性（オリジナリティ）」とは、芸術にとって最も重要な概念のひとつだが、実はそれが注目されたのは「芸術」の誕生とほぼ同じ時期、すなわち近代以降である。ここでは「独創性」と同じく重要であった「天才」概念とともに、「作者」がもともと芸術にとって如何なる存在であったかを理解する。また、古代ギリシャの「ミメシス（模倣、再現）」という概念について学び、人間の「表現」について思索する。	I-8	認知（解釈）		1.0
8	10/21	米良	【ユニット3】作者性、及び作品の価値とは何か	「作者」とは如何なる存在であるかを問い、自分なりの答えを論理的に説明する。何が芸術を「芸術」にしているのかを批判的に問う。	現在、芸術における「作者」とは、決して単純な存在ではない。ポップ・アート、コンセプチュアル・アート、レディ・メイド、抽象表現主義などの現代アートの事例のほか、「著作権」の問題、マッシュアップやDJ、初音ミクに代表されるヴォーカロイド、N次創作といった多様な事例に触れながら、拡大してゆく「作者」像について思考する。	I-8	認知（解釈）	「レディ・メイド」「コンセプチュアル・アート」について調べ、その概念を理解する。その作品をインターネットを使って鑑賞する。ヴォーカロイドの動画作品をニコニコ動画等で鑑賞する。	1.0
9	10/28	米良	【ユニット4】美や芸術に関する判断の根拠について問う	「美しさ」や「芸術」についての価値判断について批判的に思考する。	現代に生きる私たちにとって、「美の基準」とは個人の感性によって異なるもの」という考えは一般的である。しかし歴史を紐解けば、美の基準は時間の経過とともに様々に変化してきた。講義の中では18世紀頃までの美術史の流れを理解し、現代のアートの何が新しいかを考える。	VI-1	認知（解釈）		1.0
10	11/4	米良	【ユニット4】美や芸術に関する判断の根拠について問う	「美しさ」や「芸術」についての価値判断について批判的に思考する。	「装飾」とは人間にとって最も身近な「美」を連想させる存在とも言える。しかし実は美の基準によって幾つかの重要な問題を提起する。聖書の記述や世界の装飾を題材に、「装飾」とは何かを批判的に問う。	I-8	認知（解釈）		1.0
11	11/11	米良	【ユニット4】美や芸術に関する判断の根拠について問う	「美しさ」や「芸術」についての価値判断について批判的に思考する。	「装飾」の問題は、古代ギリシャの修辞学者たちにとって重要なテーマであった。それは作者に道徳的な人物であることを求める思想に結びつく。装飾を通して、「ふさわしい」判断ができる作者とは、如何なる存在であるのか思考する。	VI-1	認知（解釈）		1.0
12	11/18	米良	【ユニット4】美や芸術に関する判断の根拠について問う	「美しさ」や「芸術」についての価値判断について批判的に思考する。	「趣味」は人それぞれ一果たして本当にそう言えるのだろうか。18世紀イギリスの哲学者ヒュームの思想を紹介しながら、ディズニー映画、歴史的贋作事件、「悪趣味」な作品だけを展示する展覧会などの事例をもとに、社会の中で慣習とともに育まれる「趣味」の存在について思考する。	I-8	精神運動（自律部分・支援全体）		1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
13	11/25	米良	【ユニット4】実践編①	レポートの提出に向けて適切なテーマ設定を行い、論理的な文章を構成する。	レポート提出に際してのルールや方法論について理解する。自らの疑問に対して適切なテーマ設定を行い、言語化して他者に伝え、お互いに批判することでブラッシュアップを図る。尚、講義の終わりに設定したテーマを教員に提出する。	Ⅱ-3	精神運動（自律部分・支援全体）		1.0
14	12/2	米良	【ユニット4】実践編②	レポートの提出に向けて適切なテーマ設定を行い、論理的な文章を構成する。	実際にレポートの構成に関する案を作成し、他者と批判し合うことでブラッシュアップを図る。尚、講義の終わりに構成案は教員に提出する。	Ⅱ-3	精神運動（自律部分・支援全体）		1.0
15	12/9	米良	【ユニット4】実践編③	レポートの提出に向けて適切なテーマ設定を行い、論理的な文章を構成する。	レポートの構成案を完成させて発表を行い、教員が講評を行う。受講者はその構成案をもとにレポートの作成を行い、講義で提示される期日までに提出する。	Ⅱ-3	精神運動（自律部分・支援全体）		1.0

assertiveness training 【演習】

科目番号 OD021013

後期：15コマ

評価責任者：学生部長・永嶋哲也

担当教員：富永明子

（一般目標）

自己尊重的な対人関係を構築するためのアサーティブネスの基礎を学び、医療人としても個人の生活にとっても有用なコミュニケーションのあり方とスキルを習得する。

（教育方法）

講義（プリントによる講義）

体験学習（小グループディスカッション、ロールプレイ）

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

授業における講義・実習内容を、自身の日常生活において実践できるよう理解し、意見や質問などを授業の場で積極的に表現するよう意識して臨む。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

記述試験（50%）

授業への取り組みおよびミニレポート（50%）

評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

オリジナルのプリント教材

（参考書）

アルベルティ・R & エモンズ・M.L.『自己主張トレーニング』、東京図書

平木典子『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』、金子書房

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O S）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/2	富永	ユニット1・授業の受け方について 対人関係におけるコミュニケーションのあり方	授業の意義を理解し、活用できるよう留意点を把握する。自分の対人行動・感情をふりかえり、コミュニケーションのパターンについて知る。	1) ワークシートを通して、自分自身の対人関係について知る。 2) グループでの話し合いで、伝えること・聴くことを実践する。 3) 3つのコミュニケーションパターンにおけるアサーティブネスの基本的な意味を知る。	II-4 II-3 I-7	情意（自己対応） 情意（模擬対人対応） 情意（自己対応）	これまでに経験した自分の対人行動・感情について整理する	1.0
2	9/9	富永	ユニット2・なぜアサーティブネスが必要なのか	アサーティブネスの意味を理解し、自己表現がしにくい背景について考える。	1) アサーティブネスの意味を理解する。 2) 自己表現がうまくできない理由について考える。 3) ワークシートを用いて、自分の中にある「非合理的な思い込み」をチェックし、適切な書き換えを行うことで、自由な表現ができる土台づくりを行う。	I-7 I-8 II-2	認知（想起） 認知（解釈） 情意（自己対応）	アサーティブネスについて調べる	1.0
3	9/16	富永	ユニット3・アサーティブに表現するために	必要な場合に自己表現できるための知識を習得する。	1) ワークシートを用いて、自己表現しないことのメリットとデメリットを考える。 2) ワークシートを通して、3つのコミュニケーションパターンの違いを理解する。 3) アサーティブに表現するためのヒントを知る。	I-8 II-3 II-1	情意（自己対応） 情意（自己対応） 情意（自己対応）	日頃、自分自身が適切に自己表現できていない場面を抽出し、記録しておく。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	9/23	富永	ユニット4・アサーティブネス・トレーニングを行うために	アサーティブネス・トレーニングの方法として「4つのSTEP」ワークシートの活用法を理解する。	1) 「自己表現のための4つのSTEPワークシート」の意味を理解する。	I-7	認知（解釈）	アサーティブネス・トレーニングの方法について調べる	1.0
					2) 課題について、ワークシートでセリフを作る。	II-3	情意（自己対応）		
					3) シェアリング	II-2	情意（模擬対人対応）		
5	9/30	富永	ユニット5・アサーティブな表現について考える	葛藤場面におけるアサーティブな表現を考え、実習する。（ロールプレイの導入）	1) 課題①についてワークシートでセリフを作る。	II-3	情意（自己対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
					2) ロールプレイの方法を学び、実習する。	II-3	情意（模擬対人対応）		
					3) シェアリング	II-2	情意（模擬対人対応）		
6	10/7	富永	ユニット6・セリフづくりとロールプレイ実習（導入レベル）	課題の場面におけるアサーティブな表現を考え、ロールプレイを行う。	1) 課題②についてワークシートでセリフを作る。	II-3	情意（自己対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
					2) グループでロールプレイ	II-2	情意（模擬対人対応）		
					3) シェアリング	II-2	情意（模擬対人対応）		
7	10/14	富永	ユニット6・セリフづくりとロールプレイ実習（導入レベル）	課題の場面におけるアサーティブな表現を考え、ロールプレイを行う。	1) 課題③についてワークシートでセリフを作る。	II-3	情意（自己対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
					2) グループでロールプレイ2	II-2	情意（模擬対人対応）		
					3) シェアリング2	II-2	情意（模擬対人対応）		
8	10/21	富永	ユニット7・アサーティブに生きるために	「心の基本的人権」を通して、人間として、医療人としてのアサーティブな生き方について理解する。	1) グループチェンジ（新たな関係づくり）	II-2	情意（模擬対人対応）	心の基本的人権について調べる	1.0
					2) 「心の基本的人権10ヶ条」を読み合わせ、理解する。	II-1	情意（自己対応）		
					3) 前半授業のふり返り	II-1	情意（自己対応）		
9	10/28	富永	ユニット8・ロールプレイ実習（入門レベル）	課題の場面でのアサーティブな表現を考え、グループ発表する。各グループの発表から、自己表現の多様性と表現方法の学習をする。	1) 課題④についてセリフづくり	II-3	情意（自己対応）	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する	1.0
					2) ロールプレイによる実践的トレーニング	II-2	情意（模擬対人対応）		
					3) グループ発表（5 Grp）	I-8	情意（模擬対人対応）		
10	11/4	富永	ユニット8・ロールプレイ実習（入門レベル）	課題の場面でのアサーティブな表現を考え、グループ発表する。各グループの発表から、自己表現の多様性と表現方法の学習をする。	1) 課題⑤についてセリフづくり	II-3	情意（自己対応）	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する	1.0
					2) ロールプレイ	II-2	情意（模擬対人対応）		
					3) グループ発表2（5 Grp）	II-2	情意（模擬対人対応）		
11	11/11	富永	ユニット8・ロールプレイ実習（入門レベル）	課題の場面でのアサーティブな表現を考え、グループ発表する。各グループの発表から、自己表現の多様性と表現方法の学習をする。	1) 課題⑥についてセリフづくり	II-3	情意（自己対応）	自分のグループおよび他のグループの発表内容を整理する	1.0
					2) ロールプレイ2	II-2	情意（模擬対人対応）		
					3) グループ発表（5 Grp）3	I-8	情意（模擬対人対応）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	11/18	富永	ユニット9・ロールプレイトレーニング（実践レベル）	自分自身が苦手とする対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 日常の苦手な対人葛藤場面（レベル1）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ 3) シェアリング	I-8 II-2 II-2	情意（自己対応） 情意（模擬対人対応） 情意（模擬対人対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
13	11/25	富永	ユニット9・ロールプレイトレーニング（実践レベル）	自分自身が苦手とする対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 日常の苦手な対人葛藤場面（レベル2）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ2 3) シェアリング2	I-8 II-2 II-2	情意（自己対応） 情意（模擬対人対応） 情意（模擬対人対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
14	12/2	富永	ユニット9・ロールプレイトレーニング（実践レベル）	自分自身が苦手とする対人場面について、アサーティブな自己表現によって対応する練習を行い、アサーティブネスを深く理解し体得する。	1) 想定される対人葛藤場面（レベル3）についてのワークシートの作成 2) ロールプレイ3 3) シェアリング3	I-8 II-2 II-2	情意（自己対応） 情意（模擬対人対応） 情意（模擬対人対応）	シェアリングした内容を整理する	1.0
15	12/9	富永	ユニット10・自分らしい自己表現と自己尊重の生き方 医療人としての構え	生活のいかなる場面においても自己尊重であり、自己選択と自己責任のもと、自由でのびのびとした生き方をベースにもつことの意義を理解する。	1) 授業のふり返り。 2) 個人としての生き方から、対人職における接遇と職業人としての質へと発展させてアサーティブネスを理解する。 3) シェアリングを通して、自分にとってのアサーティブネスを確認する。	II-1 I-9 I-9	情意（自己対応） 情意（自己対応） 情意（自己対応）	自分にとっての自他を尊重した自己表現・自己主張についてまとめる	1.0

Scientific English II 【講義】

科目番号 OD021012

後期：15コマ

評価責任者： 壬生 正博

担当教員： 壬生 正博
井上 和子

（一般目標）

本講義の目標は、コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができるよう英語力を向上させることにある。英語は既に国際語として定着しており、医学、歯学を志す者にとって、最新の情報を得るためには英語の学習は必要不可欠である。本授業では、将来的にEBM（Evidence-Based Medicine）に繋がる英語力を向上させるために、科学、健康、医療等に関する最新のトピックを取り上げてみる。

（教育方法）

基本的あるいは応用的な生命科学英文を教材としての読解練習
既習事項の理解度を確認する中間テストなど
（グループワーク）

（学習方法）

テキストの情報を辞書等を利用して十分に理解し、その上で、comprehension, exercises等を解くこと。また、興味のある内容はインターネット等で事前に調べておくこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

出席、授業態度、中間テスト、定期試験等により総合評価する：試験後に成績揭示

（教科書）

The Hospital Team (Nan'un-do)
英語の基本事項を復習しつつ、基礎的な科学英語や医療英語を論理的に理解し、医療人としての国際力涵養に有益である

（参考書）

Japanese-English dictionary、
English-Japanese dictionary
英語力の向上のため、各自に合った辞書を選定し使用すること（選定は学習者に一任）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/2	壬生 井上	Unit 1 The Homan Body	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit1)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	認知（想起）	1)使用テキストの本文を音読し理解しておく 2)練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
2	9/9	壬生 井上	Unit 2 Nutrition and Fitness	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit2)	使用テキストの各課の確認問題等について各自で調べて、授業中に発表することで授業に積極的に参加する。	VI-4	認知（想起）	1)使用テキストの本文を音読し理解しておく 2)練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
3	9/16	壬生 井上	Unit 3 Communicable Diseases	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit3)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	認知（想起）	1)使用テキストの本文を音読し理解しておく 2)練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
4	9/23	壬生 井上	Unit 4 Hygiene and Public Health	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit4)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	認知（想起）	1)使用テキストの本文を音読し理解しておく 2)練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
5	9/30	壬生 井上	Unit 5 Reforming Japanese Healthcare	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit5)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	認知（想起）	1)使用テキストの本文を音読し理解しておく 2)練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	10/7	壬生 井上	Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit6)	使用テキストの各課の確認問題等について各自で調べて、授業中に発表することで授業に積極的に参加する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
7	10/14	壬生 井上	Unit 7 Dr. Kitasato	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit7)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
8	10/21	壬生 井上	Unit 8 The Medical Laboratory Technology	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit8)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
9	10/28	壬生 井上	Unit 9 Clinical Engineering	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit9)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
10	11/4	壬生 井上	Unit 10 Radiological Technology	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit10)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
11	11/11	壬生 井上	Unit 11 Physical Therapy	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit11)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
12	11/18	壬生 井上	Unit 12 Working in Occupational Therapy	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit12)	本ユニットに関連する事項をインターネット等で調べる。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
13	11/25	壬生 井上	Unit 13 Speech-Language Therapy	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit13)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
14	12/2	壬生 井上	Unit 14 Orthoptics and Visual Science	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit14)	新たに出てきた語彙を辞書等で調べ整理する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0
15	12/9	壬生 井上	Unit 15 Why Is Team Medical Treatment Necessary?	1) 生命科学英語等の基本的な表現を理解する。2) 種々の練習問題を通じて、本ユニットの内容をより深く認識する。3) 読解に役立つ基本的な語彙を身につける。(Unit15)	使用テキストの科学英語や医学英語の語彙や構造について辞書等を用いて精確に理解し、意味内容を解釈する。	VI-4	認知（想起）	1) 使用テキストの本文を音読し理解しておく 2) 練習問題を辞書等を参考にして解いておく	1.0

系統解剖学Ⅲ 【講義】

科目番号 OD021120

後期：15コマ

評価責任者： 畠山 雄次

担当教員： 畠山 雄次、児玉 淳、林 慶和、鈴木 敏彦

（一般目標）

人体の構造と機能を理解し、臨床歯学を学習するための解剖学の基本的知識を身につける。

（教育方法）

板書、スライド、および配布されたプリントを中心に講義をおこなう。

（学習方法）

教科書と配布パワーポイントファイルにより、まとめのプリントを理解し、課題を解く。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 30.0 時間】

（評価）

定期試験および平常点により成績評価をおこなう。平常点は講義中に随時行われる小テストおよびレポートなどにより評価する。行われた小テストの模範解答は小テスト後に提示する。定期試験後、模範解答および講評を掲示する。理解不足が認められた場合には補講を行うことがある。

（教科書）

グレイ解剖学 原著第4版（電子書籍付） 塩田浩平、他、訳 エルゼビアジャパン
口腔解剖学 第2版 医歯薬出版： 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめてあるため。

（参考書）

- 1：ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版
- 2：森 於菟 他著「分担解剖学 1・2・3 第11版」金原出版 1992
- 3：人体解剖学 改訂42版 藤田恒太郎 南江堂
- 4：解剖学講義 改訂3版 伊藤隆、高野廣子、南山堂

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	畠山	10. 頭蓋骨	脳頭蓋、顔面頭蓋、顎関節を知る。	頭蓋でみられる骨（上顎骨、下顎骨など）および構造（翼状突起、歯槽突起、筋突起、オトガイ孔など）を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第2章「骨学総論」5-17ページ 第10章「頭頸部の骨」94-120ページ	2.0
2	9/1	畠山	11. 表情筋	表情筋を知る。	表情筋（眼輪筋、口輪筋、頬筋など）の起始停止および作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第3章「筋学総論」18-30ページ 第11章「頭頸部の筋」121-132ページ	2.0
3	9/4	畠山	12. 咀嚼筋	咀嚼筋を知る。	咀嚼筋（側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋）の起始停止および作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第3章「筋学総論」18-30ページ 第11章「頭頸部の筋」121-132ページ	2.0
4	9/4	畠山	13. 頸部の筋	頸部の筋を知る。	舌骨上筋群（オトガイ舌骨筋など）および下筋群（胸骨甲状筋など）と側頭筋（胸鎖乳突筋）を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第3章「筋学総論」18-30ページ 第11章「頭頸部の筋」121-132ページ	2.0
5	9/8	畠山	14. 頭頸部と脳の循環	頭頸部と脳の循環	頭頸部の脈管の分布（腕頭動脈、大動脈弓から顎顔面の各部、顎顔面の各部から上大静脈）、大脳動脈輪、硬膜静脈洞を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第13章「頭頸部の血管・リンパ系」133-144ページ	2.0
6	9/8	畠山	15. 特殊感覚	特殊感覚を知る。	嗅神経、視神経、内耳神経、味覚線維の分布を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	9/11	畠山	16. 一般体性感覚	一般体性感覚を知る。	三叉神経の感覚線維の分布と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
8	9/11	畠山	17. 一般内臓感覚	一般内臓感覚を知る。	舌咽神経、迷走神経の感覚線維の分布と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
9	9/15	畠山	18. 一般体性運動	一般体性運動を知る。	動眼神経、滑車神経、外転神経、副神経脊髄部の分布と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
10	9/15	畠山	19. 特殊内臓運動	特殊内臓運動を知る。	三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経延髄部の骨格筋運動線維分布を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	2.0
11	9/18	[11回] 畠山	20. 一般内臓運動	一般内臓運動を知る。	動眼神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経の副交感神経線維分布と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	[11回] 教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	[11] 2.0
12	9/18	[12回] 畠山						[12回] 教科書第6章「神経学総論」57-69ページ 第14章「頭頸部の神経系」145-169ページ	[12] 2.0
13	9/25	畠山	21. 口腔と唾液腺	口腔と唾液腺を知る。	口腔・舌粘膜の形態と機能、唾液腺（大唾液腺、小唾液腺）、構音器官としての口腔の形態と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ	2.0
14	9/25	児玉	22. 咽頭と喉頭	咽頭と喉頭を知る。	咽頭（咽頭収縮筋など）と喉頭の構造（喉頭軟骨、喉頭筋など）、嚥下と発音の仕組みを説明する。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	教科書第8章「内臓学総論」79-88ページ 教科書第15章「頭頸部の内臓」170-201ページ	2.0
15	9/29	鈴木、林	23. 頭頸部の構造	応用解剖学の概要を知る。	頭頸部の骨、筋、脈管、神経、および内臓の三次元構造の知識を応用した解剖学の展開を知る。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	講義プリント	2.0

系統解剖学実習 【実習】

科目番号 OD021116

後期：66コマ

評価責任者：畠山 雄次

担当教員：畠山雄次、児玉淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子、林 慶和

（一般目標）

人体の三次元構造と機能を理解し、臨床歯学を学習するための解剖学の基本的知識を身につける。

（教育方法）

御遺体による解剖実習をおこなう。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

解剖マニュアルプリントを予習し理解した後、実習に臨むこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 44.0 時間】

（評価）

実習中に随時行われる実習試験、筆記試験、および口頭試験により評価する。出席日数(4/5以上)が基準をみたない学生は受験できない。また実習態度が不良の学生は出席を認めないことがある。

（教科書）

口腔解剖学 第2版 医歯薬出版 臨床歯科学を踏まえた解剖学の知識をまとめてあるため。

（参考書）

ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第2版 医歯薬出版

分担 解剖学 1, 2, 3 第11版 金原出版

グレイ解剖学 原著第3版（電子書籍付） エルゼビアジャパン

日本人体解剖学 上・下巻 南山堂

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2 3	10/2 10/2 10/2	畠山・児玉・北河・大谷	体表解剖、皮切および皮剥ぎ	体表観察、皮膚の構造を理解し、皮切、皮剥ぎにこの知識を適用する。	人体の区分を説明し触知と同定出来る。 皮膚の構造を説明し同定できる。 皮静脈、皮神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（問題解決） 認知（問題解決） 認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section1-2）	2.0
4 5 6	10/6 10/6 10/6	畠山・児玉・北河・大谷	体幹、上・下肢の浅層1	体幹、上・下肢の浅層第1層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の浅層第1層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。 体幹、上・下肢の筋膜を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（問題解決） 認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section1-3）	2.0
7 8 9	10/9 10/9 10/9	畠山・児玉・北河・大谷	体幹、上・下肢の浅層2	体幹、上・下肢の浅層第2層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の浅層第2層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section4）	2.0
10 11 12	10/13 10/13 10/13	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭の浅層1	頭、頭の浅層第1層の構造を説明できる。	頭と頭の皮下の構造を説明出来る。 頭と頭の表情筋と皮静脈、皮神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（問題解決） 認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section4-5）	2.0
13 14 15	10/16 10/16 10/16	畠山・児玉・北河・大谷	体幹、上・下肢の深層1	体幹、上・下肢の深層第1層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の深層第1層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section5）	2.0
16 17 18	10/20 10/20 10/20	畠山・児玉・北河・大谷	体幹、上・下肢の深層2	体幹、上・下肢の深層第2層の構造を説明できる。	体幹、上・下肢の深層第2層目の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section5-6）	2.0
19 20 21	10/23 10/23 10/23	畠山・児玉・北河・大谷	胸、腹の内臓1	胸部内臓を説明できる。	肺、心臓、心膜、胸膜、胸腺、縦隔を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6）	2.0
22 23 24	10/27 10/27 10/27	畠山・児玉・北河・大谷	胸、腹の内臓2	腹部内臓を説明できる。	腹膜、間膜、腸間膜、消化器系内臓、泌尿器系内臓の構造を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-7）	2.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
25 26 27	10/30 10/30 10/30	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層1	頭筋膜と周囲構造を説明できる。	頭筋膜と構造を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-8）	2.0
28 29 30	11/6 11/6 11/6	畠山・児玉・北河・大谷	頭、体幹、上・下肢まとめ（実習試験1）	第1回 実習試験（第1～第10回の剖出項目を説明できる）	第1～10回までの剖出項目を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-9）	2.0
31 32 33	11/10 11/10 11/10	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭、体幹の深層	頭、頭、体幹の深層第1層を説明できる。	頭、頭、体幹の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-9）	2.0
34 35 36	11/13 11/13 11/13	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層2	頭の深層を説明できる。	頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-9）	2.0
37 38 39	11/17 11/17 11/17	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層1	頭の深層を説明できる。1	頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-10）	2.0
40 41 42	11/20 11/20 11/20	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層2	頭の深層を説明できる。2	頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-11）	2.0
43 44 45	11/24 11/24 11/24	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層3	頭の深層を説明できる。3	頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section6-11）	2.0
46 47 48	11/27 11/27 11/27	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層4	頭の深層を説明できる。4	頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section7-12）	2.0
49 50 51	12/1 12/1 12/1	畠山・児玉・北河・大谷	頭の深層5	頭の深層を説明できる。5	頭、頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section7-12）	2.0
52 53 54	12/4 12/4 12/4	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭の深層1	頭、頭の深層を説明できる。1	頭、頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section7-12）	2.0
55 56 57	12/8 12/8 12/8	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭の深層2	頭、頭の深層を説明できる。2	頭、頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section7-12）	2.0
58 59 60	12/11 12/11 12/11	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭の深層3	頭、頭の深層を説明できる。3	頭、頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section7-12）	2.0
61 62 63	12/15 12/15 12/15	畠山・児玉・北河・大谷	頭、頭の深層4	頭、頭の深層を説明できる。4	頭、頭の深層の筋・脈管・神経を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section1-12）	2.0
64 65 66	12/18 12/18 12/18	畠山・児玉・北河・大谷	人体解剖学まとめ（実習試験2）	第2回 実習試験（第1～第22回の剖出項目を説明できる）	第1～22回までの剖出項目を説明し剖出・同定できる。	Ⅲ-2	認知（問題解決）	配布する解剖実習帳参照（Section1-12）	2.0

発生学・組織学演習Ⅱ 【演習】

科目番号 0D021121

後期：17コマ

評価責任者： 稲井哲一朗

担当教員： 稲井哲一朗、児玉 淳、北河憲雄、大谷崇仁、緒方佳代子、林 慶和

（一般目標）

人体の発生過程を学び、人体の構造、機能、発生異常との関連を理解する。また、全身の器官・器官系について、器官特有の組織構造と機能発現との関連を理解する。

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム（Moodle）などを用いて行い、適宜Moodleでの小テストをPC受験させ正答率が低い問題について解説を行う。実習はPC、iPadまたはスマートフォンを使用して行う。実習が始まるまでに「各自のIDとパスワード」を確認してe-learningにアクセスできるように設定し、「実習のPDFファイル」をダウンロードしておくこと。専用のスケッチブック、色鉛筆、白衣を用意すること。「実習のPDFファイル」に従って各自実習を進めること。光学顕微鏡で組織切片を観察して、器官特有の細胞・組織構築を理解してスケッチするとともに、実習課題について解答する。スケッチブックは、後期の実習終了後に実習室で提出すること。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

実習については、スケッチ、レポート課題を含めて実習テーブルごとのグループで理解を深めるためにお互いに討論してもよい（グループ学習）。ただし、自分の席を離れたり、実習と関係のない私語は態度点から減点する。実習時間を有効に活用し、教員への質問やグループ討論を通して組織構築を理解すること。講義ノート、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書、参考書などを参考にし、試験に活用できるレベルにスケッチを完成すること。実習に欠かさず出席し、予習と特に復習に力を入れて学習すること。*実習中にe-learningの画像問題に必ずアクセスして、問題を解くこと。実習問題はこの問題を改変して出題する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 11.0 時間】

（評 価）

定期試験および実習評価（実習試験、実習態度、スケッチ）を合わせて100%で判定し、総合判定を掲示する。14回以上の出席が受験資格として必要である。

（教 科 書）

- ①安田峯生訳、「ラングマン 人体発生学 第10版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル
- ②牛木辰男、「入門組織学」、南江堂（3年生でも使用する）

（参 考 書）

山田英智ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O S）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	10/23	稲井	泌尿器系	泌尿器系の組織構造を知る。	腎臓の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第12章 泌尿器系」（163～175ページ）教科書③「第2編・第5章 泌尿・生殖器系」（185～196ページ）	1.0
					尿路（尿管、膀胱、尿道）の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
2	10/23	稲井	内分泌系	内分泌系の発生について知る。	内分泌系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎）の発生を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書①「第16章 頭・頸部」（277～303ページ）、「第17章 中枢神経系」（320～323、334～338ページ）教科書②「第15章 内分泌系」（211～232ページ）教科書③「第2編・第6章 内分泌系」（197～208ページ）	1.0
					内分泌器（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎）の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
3	10/30	稲井	感覚器（視覚、嗅覚）	感覚器の組織構造を知る。（視覚、嗅覚）	視覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第17章 感覚器系」（253～279ページ）	0.5
					嗅覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
4	10/30	稲井	感覚器（聴覚、平衡感覚）	感覚器の組織構造を知る。（聴覚、平衡感覚）	聴覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第17章 感覚器系」（253～279ページ）	0.5
					平衡感覚器の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
5	11/6	稲井	軟骨、骨	軟骨の組織構造を知る。骨の組織構造を知る。	軟骨の種類と組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書②「第4章 支持組織」（46～52ページ）教科書③「第1編・第6章 軟骨」（83～90ページ）、「第1編・第7章 骨組織」（91～110ページ）	1.0
					骨の組織構造を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					膜内骨化と軟骨内骨化を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6	11/6	稲井	骨、神経系、筋系の発生	骨の発生について知る。筋の発生について知る。中枢・末梢神経系の発生について知る。	頭蓋骨、椎骨の発生を説明する。 筋の発生を説明する。 脳胞を説明する。 脊髄の発生を説明する。 神経膠細胞の発生を説明する。	Ⅲ-7 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書①「第9章 骨格系」（137～156ページ）、「第10章 筋系」（157～164ページ）、「第17章 中枢神経系」（305～338ページ）	1.0
7	11/13	稲井	鰓弓、鰓溝、咽頭嚢	鰓弓、鰓溝、咽頭嚢に由来する組織・器官の発生を知る。	鰓弓とそれに由来する構造を説明する。 鰓溝とそれに由来する構造を説明する。 咽頭嚢とそれに由来する構造を説明する。	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書①「第16章 頭・頸部」（277～303ページ）	1.0
8	11/13	稲井	顔面、口腔、舌、鼻腔の発生	顔面、口腔、舌、鼻腔の発生を知る。奇形と破格について知る。	顔面の発生を説明する。 口蓋の発生を説明する。 舌の発生を説明する。 鼻腔の発生を説明する。 顔面・口腔の発生と奇形を説明する。	Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-7	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書①「第16章 頭・頸部」（277～303ページ）、「第2章 生殖形成」（17～25ページ）、「第8章 先天異常と出生前診断」（121～134ページ）、「第16章 頭・頸部」（287～299ページ）	1.0
9	11/20	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	組織学各論実習（軟骨、骨）	軟骨の形態学的分類による組織構造の違いを知る。骨の組織構築を知る。	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨を描き説明する。 緻密骨（皮質骨）を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第4章 支持組織」（46～52ページ）教科書③「第1編・第6章 軟骨」（83～90ページ）、「第1編・第7章 骨組織」（91～110ページ）	9] 0.5 10] 0.5
11	11/27	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	組織学各論実習（骨、内分泌系）	骨の発生様式を知る。内分泌系の組織構築を知る。	膜内骨化、軟骨内骨化を描き説明する。 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起）	教科書①「第9章 骨格系」（137～156ページ）教科書②「第15章 内分泌系」（211～232ページ）教科書③「第2編・第6章 内分泌系」（197～208ページ）	11] 0.5 12] 0.5
13	12/4	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	組織学各論実習（泌尿器系、感覚器）	泌尿器系、感覚器の組織構築を知る。	腎臓、膀胱を描き説明する。 眼球を描き説明する。 蝸牛、コルチ器を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第12章 泌尿器系」（163～175ページ）教科書②「第17章 感覚器系」（253～279ページ）教科書③「第2編・第5章 泌尿・生殖系」（185～196ページ）	13] 0.5 14] 0.5
15	12/11	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	組織学各論実習（生殖系）	男性および女性生殖系の組織構築を知る。	精巣を描き説明する。 卵巣を描き説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起）	教科書②「第13章 男の生殖系」（177～190ページ）、「第14章 女の生殖系」（193～209ページ）教科書③「第2編・第5章 泌尿・生殖系」（185～196ページ）	15] 0.5 16] 0.5
17	12/18	稲井 児玉 北河 大谷 緒方 林	【実習試験②】1～6回の授業 【点検・清掃②】	学習の理解度の評価 器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	実習で学習した内容（スケッチ、レポート課題）について実習試験を行う。 顕微鏡、標本を点検する。 実習で学習したことを復習し、スケッチ、レポートを完成する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）		0.5

生理学Ⅲ 【講義】

科目番号 0D021122

後期：15コマ

評価責任者：岡部幸司

担当教員：岡部幸司、岡本富士雄、鍛冶屋 浩、進 正史

（一般目標）

人体は細胞から構成され、組織、器官、器官系、個体レベルで構造的に統合されている。生理学では、細胞から個体レベルにおける正常な機能や行動及びその機構を対象とし、それらの基本的事項について学習する。また、講義は、3年生で履修する口腔領域の機能を対象とした口腔生理学に関連づけて行い、医学・口腔医学の基礎を理解する。

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通し、専門用語や語句にマーカーや付箋で印を付ける。授業後は配布資料、作成した講義ノート、教科書をもとに講義の概要を要約し、グループ学習等を通じて重要事項を共有する。中間試験及び定期試験により理解度を確認し、理解が不十分な項目は教科書や参考書で自習する。また、チューデントアシスタントや教員への質疑を通じて補う。総合学力試験に向けての対策としては、Moodleに掲載したe-learning教材の活用を推奨する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 16.0時間】

（評価）

中間試験（記述及び選択式）20～30%、定期試験（記述及び選択式）70～80%、ノート作成及び課題レポート等の提出物についても成績評価の対象にする。詳細は講義の初日に説明する。中間試験は試験終了後、内容を解説し、成績は概ね2週間以内に通知する。定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に総評と共に通知する。理解が不十分な項目は、補講受講及び課題レポート提出により補う。

（教科書）

森本俊文、二ノ宮裕三、山田好秋、岩田幸一 編 「基礎歯科生理学 第6版」 医歯薬出版 2014
（全身から口腔領域にわたって生理学の基本的事項が簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。3学年で履修する口腔生理学も本書を教科書として使用するため、2学年から3学年で学んだ知識の統合に有用である。）

（参考書）

岡田泰伸 監修 「ギャノン生理学 原書25版」 丸善出版 2017
（最新の臨床医学の視点にも関連付けた人体生理学の基本的事項が簡潔に解説されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。教科書の副読本に適する。）

大地陸男 著 「生理学テキスト 第8版」 文光堂 2017
（生理学の基本的事項が豊富な図表によって簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。）

小澤濤司、福田康一郎 総集編 「標準生理学 第8版」 医学書院 2014
（生理学全般を広く網羅し、生命現象のメカニズムが詳しく解説されている。実習や演習の参考書に適している。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピューター	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	岡本	ユニット6 脳と行動	大脳、間脳及び脳幹の機能を理解する。	間脳の構成と機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp240～p243	1.0
					中脳の機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					橋・延髄の機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
2	9/8	岡本	ユニット6 脳と行動	大脳、間脳及び脳幹の機能を理解する。	大脳の機能局在及び大脳辺縁系の機能を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp189～p197	1.0
					運動路（下行路）と感覚路（上行路）を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					大脳基底核の働きを説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					小脳の機能を理解する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
3	9/15	岡本	ユニット6 脳と行動	大脳、間脳及び脳幹の機能を理解する。	上行性網様体賦活系の働きを説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp144, 164～p173, p217～p223	1.0
					記憶と学習について説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					脳波のパターンを示し、脳の活動状態を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	9/29	岡部	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	排尿機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp59～p71	1.0
					腎臓の構成単位と尿の生成機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
5	10/6	岡部	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	腎クリアランスの意味を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp57, p59～p71	1.0
					水分代謝における腎の役割と体液量の調節機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
6	10/13	岡部	ユニット7 腎臓の機能	腎臓の構造と機能及び尿の生成機序について理解する。	電解質代謝における腎の役割を述べ、体液の量、pH調節機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp57～p58	1.0
					アシドーシスとアルカローシス及びそれらの原因を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
7	10/20	岡本、岡部、進、鍛冶屋	中間試験及び解説	－	－	Ⅲ-2		1回～6回までの講義で配付した資料とノート及び教科書	2.0
8	10/27	進	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	内分泌と外分泌の違いを説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	教科書のp117～p122	1.0
					内分泌器官を列挙し、分泌されるホルモンを述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					ホルモンを分類し、作用機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）		
9	11/10	進	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	ホルモン分泌の階層的支配とフィードバック調節を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp117～p122	1.0
					視床下部ホルモンによる下垂体前葉ホルモンの分泌調節を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
10	11/17	鍛冶屋	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	下垂体前葉と後葉ホルモンの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp123～p126	1.0
					松果体、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン及び消化管ホルモンの分泌調節と作用を概説する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
11	11/24	鍛冶屋	ユニット8 内分泌	各種ホルモンの性質と作用及び分泌調節機序を理解する。	性周期と女性ホルモンの分泌との関係を説明し、性ホルモンの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp130～p134	1.0
					男性ホルモンの分泌調節と作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
12	12/1	鍛冶屋	ユニット9 ホメオスタシス	自律神経系と内分泌系によるホメオスタシスについて理解する。	電解質代謝に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp130～p134	1.0
					血糖調節及び摂食調節に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
13	12/8	鍛冶屋	ユニット9 ホメオスタシス	自律神経系と内分泌系によるホメオスタシスについて理解する。	血清カルシウム濃度調節に係わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp135～p138	1.0
					循環調節に関わるホルモンを挙げ、それらの作用を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
14	12/15	鍛冶屋	ユニット9 ホメオスタシス	自律神経系と内分泌系によるホメオスタシスについて理解する。	ストレスとホルモン分泌について説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp135～p138	1.0
					ホルモンの分泌過剰と不足による病態を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
15	12/16	鍛冶屋	ユニット10 体温の調節	産熱と放熱及び体温の調節機序を理解する。	体温調節中枢を挙げ、産熱と放熱の機序を述べる。	Ⅲ-2	認知（解釈）	教科書のp109～p116	1.0
					体温変動と変動要因を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		
					発熱と解熱の機序を説明する。	Ⅲ-2	認知（解釈）		

口腔薬理学 【講義】

科目番号 OD021117

後期：20コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、長岡良礼、大久保つや子

（一般目標）

医科および歯科疾患の治療に繁用される薬物の薬理作用・副作用、薬物動態、薬物相互作用を理解し、歯科臨床における薬物使用の際の基盤となる知識を修得する。

（教育方法）

教科書と参考書「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学」を中心に、配布資料、板書、パワーポイントを用いて講義する。
（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。
【復習方法】授業後に教科書・参考書、配布資料、板書ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 22.0 時間】

（評価）

【評価方法】
中間試験（50%）：ユニット1-3を範囲とする。
定期試験（50%）：ユニット4-6を範囲とする。
各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。
【学生へのフィードバックの時期と方法】
各試験後に成績を掲示し、模範解答・答案を開示する。必要に応じて個別に指導する。

（教科書）

大谷 啓一監修 「現代歯科薬理学」第6版 医歯薬出版 2018年

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第2版」 永末書店 2019年
（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）
田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年
（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）
安達 一典ら編 「解る！歯科薬理学 第3版」 学建書院 2019年
（必要なことがわかりやすく書かれた本、理解度を図るためのセルフチェックが設けられている。）
大浦 清、戸苅 彰史編「歯科衛生士テキスト 最新薬理学」学建書院 2017年
（講義や教科書で理解できない項目について概略を把握したいときに参考にすると役に立つ。）
浦部 晶夫ら編「今日の治療薬2020」 南江堂 2020年
（薬物の性状、副作用などが表にまとめて書かれており、臨床医のマニュアルとなっている。）

「日本薬局方」ホームページ（厚生労働省のWebサイト）「第十七改正日本薬局方」のPDFファイルをダウンロードできる。
（「日本薬局方」とは通則、生薬総則、製剤総則、一般試験法、医薬品各条からなり、国が定めた医薬品の規格基準書である。）

「医療用医薬品情報検索」ホームページ（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のWebサイト）
添付文書のPDFファイルをダウンロードできる。<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>
（医師及び歯科医師が処方する医薬品に添付されている情報である。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	長岡	ユニット1 麻酔に用いる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	今後の口腔薬理学講義の進行について説明する。	Ⅲ-20	情意（自己対応）	[1回] 教科書 p. 127-132 を読む	1] 1.0
2	9/2				全身麻酔法および全身麻酔薬（吸入麻酔薬、静脈麻酔薬）について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）	[2回] 教科書 p. 132, 133 を読む	2] 1.0
3	9/8				吸入麻酔薬の種類、体内動態、副作用（悪性高熱症）などを説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[3回] 教科書 p. 123-126, 130 を読む	3] 1.0
4	9/9				吸入麻酔薬の特性（MAC、血液/ガス分配係数）について説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）	[4回] 教科書 p. 232-235 を読む	4] 1.0
5	9/15				静脈麻酔薬の種類、作用機序、薬理作用、副作用などを説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[5回] 教科書 p. 235-240 を読む	5] 1.0
					精神鎮静法（吸入鎮静法、静脈内鎮静法）について説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2 3 4 5	9/1 9/2 9/8 9/9 9/15	長岡	ユニット1 麻酔に用いる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	神経筋接合部の構造と興奮伝達（アセチルコリン、ニコチン受容体）について説明する。	Ⅲ-2	認知（想起）	[1回] 教科書 p. 127-132 を読む	1] 1.0
					筋弛緩薬（神経筋接合部遮断薬）の分類（競合性・脱分極性）、作用機序、薬理作用、副作用などを説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[2回] 教科書 p. 132, 133 を読む	2] 1.0
					麻酔前投薬に用いる薬物について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[3回] 教科書 p. 123-126, 130 を読む	3] 1.0
					局所麻酔法について述べる。	Ⅲ-20	認知（想起）	[4回] 教科書 p. 232-235 を読む	4] 1.0
					局所麻酔薬の分類（アミド型・エステル型）と特徴を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[5回] 教科書 p. 235-240 を読む	5] 1.0
					局所麻酔薬の作用機序、薬理作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）		
					血管収縮薬の併用、歯科臨床における使用法および適用上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					局所麻酔薬の副作用および中毒について説明する。	Ⅲ-20	認知（想起）		
6 7	9/16 9/23	大久保	ユニット2 呼吸器・消化器に作用する薬物	呼吸器・消化器疾患の治療に用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	呼吸機能を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）	[6回] 教科書 p. 194-198 を読む	6] 1.0
					呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息治療薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[7回] 教科書 p. 199-206 を読む	7] 1.0
					消化管機能を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					制酸薬、胃炎治療薬、潰瘍治療薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
8 9 10	9/29 9/29 9/30	八田	ユニット3 循環器・腎臓に作用する薬物	循環器疾患の治療に用いられる薬物および利尿薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	循環機能を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）	[8回] 教科書 p. 164-167 を読む	8] 1.0
					高血圧治療薬について分類、作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[9回] 教科書 p. 168-174 を読む	9] 1.0
					心拍を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）	[10回] 教科書 p. 189-193 を読む	10] 1.0
					抗不整脈薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					心拍出機能を維持する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					強心薬、狭心症治療薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					腎臓機能を調節する機構とその病態を述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）		
					利尿薬について作用機序、薬理作用、副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
11	10/7	八田	ユニット4 抗炎症薬・解熱鎮痛薬	抗炎症薬と解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	炎症とケミカルメディエーターについて説明する。	Ⅲ-5	認知（想起）	教科書 p. 20-24, 246-249 を読む	1.0
					オータコイドの分類と生理機能について説明する。	Ⅲ-1	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	10/14	八田	中間試験	—	ユニット1-3の中間試験を実施する。	Ⅲ-20		中間試験のための学習をする	3.0
					試験終了後、試験解説を行い、後日の答案用紙開示と共に、今後の学習にフィードバックさせる。	Ⅲ-20	精神運動（自律部分・支援全体）		
13 14 15	10/21 10/28 11/4	八田	ユニット4 抗炎症薬・解熱鎮痛薬	抗炎症薬と解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	副腎皮質ホルモンの生理機能について説明する。	Ⅲ-1	認知（想起）	[13回] 教科書 p. 250-253 を読む	13] 1.0
					ステロイド性抗炎症薬の種類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[14回] 教科書 p. 253-260 を読む	14] 1.0
					ステロイド性抗炎症薬の臨床応用、投与上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[15回] 教科書 p. 260-262 を読む	15] 1.0
					酸性非ステロイド性抗炎症薬の種類、作用機序、薬理作用・副作用について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					酸性非ステロイド性抗炎症薬の臨床応用、投与上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					塩基性非ステロイド性抗炎症薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					解熱鎮痛薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					抗炎症薬と解熱鎮痛薬の適切な使用に必要な知識について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	認知（問題解決）		
16 17	11/11 11/18	八田	ユニット5 止血薬・抗血栓薬	止血薬と抗血栓薬の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	止血の機序と出血傾向について述べる。	Ⅲ-2	認知（想起）	[16回] 教科書 p. 175-182 を読む	16] 1.0
					止血薬の分類、作用機序および適用上の注意について説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[17回] 教科書 p. 182-187 を読む	17] 1.0
					血栓形成の機序と血栓性疾患について説明する。	Ⅲ-17	認知（想起）		
					抗血小板薬、抗凝固薬、血栓溶解薬のそれぞれを作用機序で分類し、薬理作用・副作用を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
18 19 20	11/25 12/2 12/9	八田	ユニット6 う蝕予防薬・歯内療法薬	歯科臨床で用いられる薬物の作用機序、薬理作用、副作用および投与上の注意について理解する。	齲蝕予防に用いられる薬物（フッ化物）を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[18回] 教科書 p. 370-372, 390-393 を読む	18] 1.0
					象牙質知覚過敏症の治療に用いられる薬物を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[19回] 教科書 p. 368-370, 372-374 を読む	19] 1.0
					齲窩消毒、歯髄鎮静・鎮痛療法に用いられる薬物を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）	[20回] 教科書 p. 374-380 を読む	20] 1.0
					間接覆髄法、直接覆髄法に用いられる薬物を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					抜髄法、根管治療に用いられる薬物を説明する。	Ⅲ-20	認知（解釈）		
					歯科臨床におけるう蝕予防薬・歯内療法薬の適切な使用に必要な知識について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	認知（問題解決）		

生化学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD021123

後期：16コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

生体を構成する代表的な成分の構造や機能とともに、その代謝の仕組みや調節について理解する。細胞や器官の生化学的成り立ちを理解し、その異常と疾患の関係について認識する。

各ユニットで扱う生体構成分子の構造については、第1学年「細胞化学」の講義内容についても参照すること。ユニット8については、第1学年後期「細胞生物学II」の講義内容についても参照すること。

（教育方法）

教科書の内容にそって講義を行う。講義方法はユニットによって若干異なるが、板書・プリント・スライドを中心に用いて進める。講義には必ず教科書を持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 13.0 時間】

（評 価）

中間試験（試験範囲：ユニット8）および定期試験（試験範囲：ユニット9、10）を実施し、それぞれの評価については実施後すみやかに掲示する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。

（教 科 書）

ユニット8：中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第4版 南江堂

ユニット9、10：林典夫・廣野治子 監修 『シンプル生化学』改訂第7版 南江堂

（参 考 書）

入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳 『ストライヤー生化学』 第8版 東京化学同人

川崎敏祐 監修 『レーニンジャーの新生化学』第6版 廣川書店

我孫子宜光、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』 第3版 学建書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（1）	〔DNAと染色体1〕ヒトのDNAを中心にDNAの機能と染色体構造との関係や細胞周期との関連を理解する	分子生物学と医療を関連づける ヒト細胞に存在するDNAの種類とその形状を述べる DNAの凝縮の意義を説明し、細胞周期や染色体領域の機能と関連づける	Ⅲ-2 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『Essential細胞生物学』5章「DNAと染色体」	0.8
2	9/14	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（2）	〔DNAと染色体2〕ヒトの染色体構造と発生との関係や性染色体性遺伝病との関連を理解する	X染色体の不活化を説明し、赤緑色覚異常などの伴性形質との関係を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』5章「DNAと染色体」 / 『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p197 - 209	0.8
			ユニット8・核酸と遺伝情報（3）	〔DNAの複製1〕ヒト染色体DNAを正確に複製する仕組みを理解する	ヒト染色体複製について細菌と比較した上で特徴を挙げる 末端複製問題を説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起）		
3	9/28	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（4）	〔DNAの複製2〕テロメアの複製について理解し、細胞寿命や疾患と関連づける	テロメラーゼの活性と役割について説明する 細胞の種類によるテロメラーゼ活性の違いとその意義を説明する	Ⅲ-1 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起）	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製、修復、組換え」p209 - 211	0.8

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	10/5	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（5）	〔DNAの修復・組換え1〕DNA複製の誤りやDNA損傷の発生を理解するとともに、それらを修復する仕組みを認識する	DNA損傷や複製エラーを説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製，修復，組換え」p211 - 219	0.8
					抗がん剤や放射線をDNA損傷と関連づける	Ⅲ-2	認知（想起）		
5	10/12	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（6）	〔DNAの修復・組換え2〕DNAの修復・組換えと疾患との関連を認識する	ヒト細胞における主なDNA修復の機構を列挙し、それぞれ対応する損傷の種類や修復の仕組みの特徴を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』6章「DNAの複製，修復，組換え」p212 - 220	0.9
					各種DNA修復の欠損による疾患を列挙する	Ⅲ-2	認知（想起）		
					がんとDNA損傷や変異との関係を説明する	Ⅲ-2	認知（想起）		
6	10/19	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（7）	〔細胞周期チェックポイント〕細胞周期を制御して遺伝情報を正確に保存・伝達する仕組みを理解する	DNA損傷と細胞周期チェックポイントとを関係づけて説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』18章「細胞周期」p615 - 618, p629/ 20章「細胞のつくる社会」：がん	0.9
					細胞周期チェックポイントによるアポトーシスを説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					がんと細胞周期チェックポイント欠損との関係を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					p53遺伝子について説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
7	10/26	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（8）	〔遺伝子発現の調節1〕多細胞真核生物における遺伝子発現の調節の役割を理解する	転写調節因子の作用を概説する	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』8章「遺伝子発現の調節」	0.9
					細胞の種類や分化と転写の組合せ調節を関連づけて説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					間葉系細胞の分化を説明し、由来する組織や細胞を列挙する	Ⅲ-1	認知（想起）		
8	11/2	梅津	ユニット8・核酸と遺伝情報（9）	〔遺伝子発現の調節2〕転写調節因子の制御や選択的スプライシングの意義を理解する	転写調節因子に対するコントロールの意義を概説する	Ⅲ-1	認知（想起）	『Essential細胞生物学』8章「遺伝子発現の調節」	0.9
					脂溶性ホルモンによる転写調節の具体例を挙げる	Ⅲ-1	認知（想起）		
					p53による転写調節を具体的に説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
					選択的スプライシングについて、ヒトの場合を中心に説明する	Ⅲ-1	認知（想起）		
9	11/9	梅津 林 橋口	中間試験						
10	11/16	林	ユニット9・脂質代謝（1）	〔脂質の基本構造とエネルギー代謝〕生体エネルギー獲得の全体像を理解し、その中に脂質代謝を位置付ける	脂質の種類と基本構造を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンブル生化学』3「脂質」p31-40	0.8
					脂質の役割を挙げ、生体におけるそれぞれの重要性を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		
11	11/30	林	ユニット9・脂質代謝（2）	〔脂質の消化、吸収、輸送〕脂質の消化と吸収機構、血中リポタンパク質の動態を理解し、血中リポタンパク質の臨床的意義を考察する	脂質の消化と吸収機構を説明する	Ⅲ-1	認知（想起）	『シンブル生化学』11「脂質の代謝」p155-159, 175 / 3「脂質」p40, 43-45 / 9「消化と吸収」p124-128	0.9
					血中リポタンパク質を分類し、その動態を述べる	Ⅲ-1	認知（想起）		
					血中リポタンパク質の臨床的意義を述べる	Ⅲ-2	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	12/7	林	ユニット9・脂質代謝（3）	〔中性脂肪の代謝1〕 中性脂肪の分解とそれに続くケトン体の生成について理解し、それらの臨床的意義を考察する	中性脂肪の分解およびその調節を説明する 脂肪酸の分解とATP産生を説明する ケトン体生成の過程を述べる ケトン体生成の臨床的意義を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-2	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンブル生化学』11「脂質の代謝」p159-165, 169	0.9
13	12/14	林	ユニット9・脂質代謝（4）	〔中性脂肪の代謝2〕 中性脂肪の合成を理解し、その臨床的意義を考察する	脂肪酸の合成とその調節を説明する 中性脂肪の代謝系の全体像を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起）	『シンブル生化学』11「脂質の代謝」p165-169, 171-174	0.9
14	12/14	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（1）	〔ステロイドホルモン〕 ステロイドホルモンの種類、化学構造、機能を理解し、栄養学的意義を考察する	ステロイドホルモンの種類と構造を述べる ホルモンと受容体による細胞内情報伝達機構を類別する ペプチドホルモン、アミノホルモンとの違いを構造・作用の面から述べる ステロイドホルモン合成の原料となるコレステロールの代謝を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-2 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンブル生化学』11「脂質の代謝」p175-179 / 3「脂質」p39-42	0.9
15	12/21	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（2）	〔脂溶性ビタミン〕 脂溶性ビタミンの種類、化学構造、機能を理解し、栄養学的意義を考察する	脂溶性ビタミンの栄養学的意義を述べる ビタミンAとその代謝産物の化学構造、作用を述べる ビタミンDの化学構造、活性化、作用を述べる ビタミンEおよびKの化学構造と作用を述べる	Ⅲ-2 Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンブル生化学』7「ビタミン」p87-93, 104	0.9
16	12/21	林	ユニット10・脂溶性生理活性物質（3）	〔エイコサノイド〕 エイコサノイドの種類、化学構造、生合成を理解する	エイコサノイドを列挙する プロスタグランジンの種類と構造の関係を述べる アラキドン酸カスケードによるエイコサノイドの生合成を述べる	Ⅲ-1 Ⅲ-1 Ⅲ-1	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	『シンブル生化学』3「脂質」p34-35 / 11「脂質の代謝」p170-171	0.9

機能生物化学実習 I (化学・生化系) 【実習】

科目番号 OD021110

後期：27コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、藤田亜美、林 道夫、橋口一成、石井健士、真木智子

(一般目標)

生体の構成成分の性質や機能について実験を通じて実際に確認し、結果の考察や試問を通して理解を深める。

(教育方法)

3つのグループに分け、グループ毎に順次ローテーションしながら、ユニット2-4の計3つの課題実習を行う。下記のシラバスにはA班の日程を例示しているが、それぞれのグループの日程の詳細については実習第1回時に配布する実習書を参照すること。
(ディスカッション・ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) (実習・演習)

(学習方法)

実習に参加する前に、実習書の該当箇所を読んで実習内容ならびに実験操作について理解しておくこと。また、実習内容に関する課題については、下記に指定した参考書の該当項目等を参考に、各自で調査してまとめること。【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間：7.0時間】

(評価)

レポート内容、実習に対する準備の状況、実習の取り組み方を評価対象とする。レポートの内容が不十分と判定された場合は書き直して再提出しなければならない。実習には個人で行なう内容が含まれており、単位の認定には原則として全ての実習に参加することが求められる。

(教科書)

福岡歯科大学機能生物化学講座 実習書『機能生物化学実習 I (化学・生化学系)』

(参考書)

早川太郎 他著『口腔生化学』第6版 医歯薬出版
林典夫・廣野治子 監修 『シンブル生化学』改訂第7版 南江堂
中村桂子・松原謙一監訳『Essential 細胞生物学』原書第4版 南江堂
入村達郎・岡山博人・清水孝雄 監訳『ストライヤー生化学』第8版 東京化学同人
川崎敏祐 監修 『レーニンジャーの新生化学』第6版 廣川書店
我孫子宜光、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』 第3版 学建書院

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1 2 3	9/3	梅津 藤田 林 橋口 石井	ユニット1・実習の内容説明	ユニット2-4の各実習について、目的や操作原理を理解する	(具体的にはユニット2-4の項参照)	I-2	認知(想起)	(具体的にはユニット2-4の項参照)	1.0
4 5 6 7	9/10	石井 梅津	ユニット2・酵素反応速度の測定と反応速度論的取り扱い	酵素トリプシンを例にして、酵素反応速度を測定し、反応速度論的取り扱いを体験する	基質にL-BAPAを用い、酵素トリプシンの酵素活性を測定し、比活性を算出する	Ⅲ-1	認知(問題解決)	『実習書』1章 / 『シンブル生化学』6「酵素」	1.0
					一定量の酵素に対して基質濃度を種々変化させて酵素活性を測定して、反応速度論的考察を行う	Ⅲ-1	認知(問題解決)		
8 9 10 11	9/17	石井 梅津	ユニット2・酵素反応速度の測定と反応速度論的取り扱い	酵素トリプシンを例にして、酵素反応速度を測定し、反応速度論的取り扱いを体験する	Lineweaver-Burk plotを作成し、Km, Vmaxを求める	Ⅲ-1	認知(問題解決)	『実習書』1章 / 『シンブル生化学』6「酵素」	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12 13 14 15	9/24	橋口 藤田	ユニット3・ 歯の無機質と コラーゲンの 分析（1）	歯のカルシウムおよびリン含量を知り、歯のアパタイト構造を考察する	歯の脱灰液中のカルシウム量をキレート滴定法にて、リン量を比色法にて測定し、数値化する	Ⅲ-2	認知（問題解決）	『実習書』2章 / 『シンブル生化学』24「器官の生化学」 / 『口腔生化学』6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」	1.0
					カルシウムおよびリン含量から、歯のアパタイト構造を推論する	Ⅲ-6	認知（問題解決）		
16 17 18 19	10/1	橋口 藤田	ユニット3・ 歯の無機質と コラーゲンの 分析（2）	コラーゲンのアミノ酸組成を知り、その特徴を考察する	薄層クロマトグラフィーにてアミノ酸を分離、分析する	Ⅲ-2	認知（問題解決）	『実習書』2章 / 『シンブル生化学』24「器官の生化学」 / 『口腔生化学』4章「結合組織と上皮組織の生化学」	1.0
					コラーゲンのアミノ酸組成の特徴を他のタンパク質と比較し、指摘する	Ⅲ-6	認知（問題解決）		
20 21 22 23	10/15	林 真木	ユニット4・ 遺伝子診断	生体の核酸の構造と機能を理解し、その分析方法を体験する：各自のDNA標品を用い、日本人に多いアルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型を調べる。各自の皮膚でアルコールパッチテストを行い、アルコール代謝の表現型を調べる。	PCRの原理を説明する	Ⅲ-1	認知（問題解決）	『実習書』3章 / 『Essential細胞生物学』10章「現在の組換えDNA技術」： p335 - 340 19章「有性生殖と遺伝学の力」	1.0
					アルデヒド脱水素酵素2の多型解析を例に、PCRを利用した遺伝子解析について具体的に述べる	Ⅲ-1	認知（問題解決）		
24 25 26 27	10/22	林 真木	ユニット4・ 遺伝子診断	生体の核酸の構造と機能を理解し、その分析方法を体験する：各自のDNA標品を用い、日本人に多いアルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型を調べる。各自の皮膚でアルコールパッチテストを行い、アルコール代謝の表現型を調べる。	二倍体生物における遺伝型と表現型の関係を説明する	Ⅲ-1	認知（問題解決）	『実習書』3章 / 『Essential細胞生物学』10章「現在の組換えDNA技術」： p335 - 340 19章「有性生殖と遺伝学の力」	1.0
					遺伝子多型について説明し、臨床的な応用や進化的な意味について検討する	Ⅲ-1	認知（問題解決）		

口腔細菌学【講義】

科目番号 0D021118

後期：26コマ

評価責任者：田中芳彦

担当教員：田中芳彦、永尾潤一、有田健一

（一般目標）

2年生前期に学習した細菌学【講義】（微生物学総論）の理解に立脚して微生物学各論を身につける。また、口腔常在菌の一般性状を理解し、二大口腔感染症であるう蝕および歯周疾患が口腔常在菌によって起こることを理解する。さらに口腔および全身における主な感染症について、その病原微生物の病原性を理解し、感染症の成立や予防に関する知識を身につける。

（教育方法）

講義は、教科書を中心に、板書、プリント、スライド、動画などを用いて行う。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：38.0時間】

（評価）

中間試験および定期試験90%、授業態度（出席、質疑応答を含む）10%。中間試験：得点揭示。定期試験：総合判定提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学―感染と免疫―』 第6版 学建書院、2018。

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第4版 医歯薬出版、2011。

選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に用いやすい。

吉田真一ほか 編集 『戸田新細菌学』改訂34版 南山堂、2013。

選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/3	田中	ユニット1 微生物学各論	微生物学各論、免疫学、口腔微生物学、口腔感染症の位置付けを身につける。	口腔微生物学、口腔感染症の位置付けを解釈する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p11. p288. p328. p372	1.5
2	9/3	田中	ユニット2 口腔の感染防御機構	口腔の感染防御機構を理解する。	口腔感染症を述べる。 口腔の感染防御機構を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p328. p372-p376.	1.5
3	9/10	有田	ユニット3 口腔エコロジー	口腔の生態系を理解する。	口腔環境の特殊性を述べる。 口腔環境の生理的因子を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起）	教科書p290-p295.	1.5
4	9/17	有田	ユニット4 ブラーク形成細菌と口腔感染症との関連を理解する。	ブラーク形成細菌と口腔感染症との関連を理解する。	ブラーク形成過程における細菌の種類の変化を説明する。 主なブラーク形成細菌を列挙する。 口腔感染症の原因菌となるブラーク中の細菌の特徴を説明する。	Ⅲ-4 Ⅲ-4 Ⅲ-4	認知（想起） 認知（想起） 認知（想起）	教科書p295-p299.	1.5
5	9/18	永尾	ユニット5 歯周病原細菌	主な歯周病原細菌の種類と病原性、ならびに歯周病の発症メカニズムと宿主応答の関係を理解する。	特徴的な歯肉炎を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p340-p358.	5] 1.5
6	9/24				慢性および侵襲性歯周炎メカニズムを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		6] 1.5
7	9/25				主な歯周病原細菌を列挙し、その歯周病原細菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		7] 1.5
					歯周病における宿主応答のメカニズムを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	10/1	有田	ユニット6 う蝕病原細菌	主なう蝕病原細菌の種類と病原性、ならびにう蝕発症と環境因子の関係を理解する。	う蝕発症における環境因子を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p329-p339.	8] 1.5
9	10/15				主なう蝕病原細菌を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）		9] 1.5
10	10/22				う蝕病原細菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		10] 1.5
11	10/29	永尾	ユニット7 う蝕、歯周病以外の口腔感染症	2大口腔感染症以外の主な口腔感染症を理解する。	顔面に症状が現れる感染症とその原因微生物の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p359-p368.	11] 1.5
12	10/29				舌に白斑、白苔が現れる感染症とその原因微生物の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		12] 1.5
13	11/5	田中	中間試験	1～12回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。	I-7	認知（問題解決）	1回～12回までの講義内容	1.5
					中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7	情意（自己対応）		
14	11/5	永尾	ユニット8 口腔感染症と全身疾患	口腔感染症と全身疾患の関係を理解する。	口腔常在菌と全身疾患の関係を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p368-p371.	1.5
15	11/12	永尾	ユニット9 マイコプラズマおよび気道・肺での細菌感染症	気道・肺での細菌感染症を理解する。	気道・肺における細菌性感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p113-p116. p121-p122. p88-p89. p155-p157. p133-p134.	1.5
16	11/12	永尾	ユニット10 腸内細菌および胃・腸での細菌感染症	胃・腸での細菌感染症を理解する。	胃・腸における細菌性感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p139-p141. p131-p132. p122-p130.	1.5
17	11/19	永尾	ユニット11 微生物による食中毒	微生物による食中毒を理解する。	細菌性およびウイルス性食中毒の原因病原体を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p69-p70.	1.5
					毒素型食中毒の特徴を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					感染型食中毒の特徴を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
18	11/19	永尾	ユニット12 梅毒トレポネーマおよび性器、泌尿器における細菌感染症	性器、泌尿器での細菌感染症を理解する。	性感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p91-p92. p147-p149. p161-162. p134. p82-p89.	1.5
			ユニット13 黄色ブドウ球菌および皮膚における細菌感染症	皮膚での細菌感染症を理解する。	皮膚感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
19	11/26	永尾	ユニット14 クロストリジウム属、バチルス属（有芽細胞菌）による感染症	有芽細胞菌による感染症を理解する。	有芽細胞菌による感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p94-p101. p158-p160.	1.5
			ユニット15 節足動物媒介の細菌感染症	節足動物媒介の細菌感染症を理解する。	節足動物媒介感染症の原因菌を列挙し、原因菌の病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
20	11/26	田中	ユニット16 DNAウイルス感染症	DNAウイルス感染症を理解する。	ヘルペスウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p176-p179.	1.5
					ヘルペスウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					ヘルペスウイルス感染症の治療を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
21	12/3	田中	ユニット16 DNAウイルス感染症	DNAウイルス感染症を理解する。	アデノウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p179-p180. p183-185.	1.5
					ヒトパピローマウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
			ユニット17 RNAウイルス感染症	RNAウイルス感染症を理解する。	バラミクソウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					ピコルナウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					コロナウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
22	12/3	田中	ユニット17 RNAウイルス感染症	RNAウイルス感染症を理解する。	インフルエンザウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p180-p183.	1.5
					インフルエンザの治療と予防を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
23	12/7	田中	ユニット18 レトロウイルス感染症	レトロウイルスによる感染症を理解する。	レトロウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p191-p195.	23] 1.5
24	12/14				ヒトTリンパ球指向性ウイルス1と成人T細胞白血病の特徴を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		24] 1.5
					ヒト免疫不全ウイルスとエイズの特徴を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					エイズの治療と予防を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
25	12/17	田中	ユニット19 肝炎ウイルスと肝炎	肝炎ウイルスとウイルス性肝炎を理解する。	肝炎ウイルスの種類を列挙する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p186-p191.	25] 1.5
26	12/17				肝炎ウイルスの特徴と病原性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		26] 1.5
					ウイルス性肝炎の治療と予防を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		

基礎免疫学 【講義】

科目番号 OD021119

後期：15コマ
 評価責任者：田中芳彦
 担当教員：田中芳彦、池邊哲郎、米田雅裕

（一般目標）

免疫系を理解し、生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、アレルギー、主な免疫不全・自己免疫疾患を理解する。

（教育方法）

プリント、板書、パワーポイント、ビデオ、インターネットなどを使用して講義を進める。講義には教科書を持参すること。

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、講義の前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。講義中には使用するパワーポイント、ビデオ、インターネットなどの内容を理解することに努める。プリントを配布することがあるので、その内容を講義中に理解し、講義の後に復習すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

中間試験および定期試験 90%、授業態度（出席、質疑応答を含む）10%。中間試験：得点揭示。定期試験：総合判定提示。

（教科書）

石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学 ―感染と免疫―』第6版 学建書院、2018。

（参考書）

川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第4版 医歯薬出版、2016。

笹月健彦 監訳 『エッセンシャル免疫学』第3版 南江堂、2016。
 （カラーの分かりやすいイラストで解説しており、免疫学の基礎がやさしく理解できる）

笹月健彦 監訳 『Janeway's 免疫生物学』原書第9版 南江堂、2019。
 （カラーの分かりやすいイラストで解説しており、上級者向けの免疫学を確実に理解できる）

河本 宏 著 『もっとよくわかる！免疫学』 羊土社、2011。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	田中	ユニット1 免疫学の概要	免疫系の構成要素と生体防御における役割を理解する。	病原体の侵入からの防御を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p75-p79. p216-p224.	1.0
					自然免疫と獲得免疫の原理を類別する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					免疫担当細胞の種類を列挙し、機能を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
2	9/14	田中	ユニット2 自然免疫	感染に対する生体防御における自然免疫を理解する。	自然免疫を解釈する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p75-p79. p216-p232.	2]
3	9/28				非特異的体液性感染防御を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		1.0
					非特異的細胞性感染防御を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		3]
					Toll様レセプターを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		1.0
					補体を説明し、活性化経路を比較・分類する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					NK細胞の働きを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
4	10/5	田中	ユニット3 獲得免疫	感染に対する獲得免疫応答を理解する。	獲得免疫を解釈する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p75-p79. p233-p237. p252-257.	1.0
					特異的感染防御機構を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					獲得免疫に関与するサイトカインを述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					抗体の基本構造を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
5	10/12	田中	ユニット4 抗体の構造と多様性	抗体の構造と多様性を理解する。	抗体のクラスを列記し、性状を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p75-p79. p238-p244. p247-250.	1.0
					抗体の多様性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					T細胞レセプターの多様性を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
6	10/19	田中	ユニット5 T細胞の分化と抗原認識	自己と非自己の識別機構と免疫寛容を理解する。	胸腺内でのT細胞分化を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p75-p79. p233-p237. p251-p255.	1.0
					抗原の処理と提示を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					主要組織適合遺伝子複合体を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
7	10/26	田中	中間試験	1～6回までの講義内容を復習し、学習理解度を試験により評価する。	学習内容を整理して系統立てる。	I-7	認知（問題解決）	1回から6回までの講義内容	1.0
					中間試験により理解の達成度を評価する。	I-7	情意（自己対応）		
8	11/2	田中	ユニット6 T細胞を介する免疫系（細胞性免疫）	細胞性免疫を理解する。	プロフェッショナル抗原提示細胞を列記し、T細胞を活性化する機序を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p236-p237. p255-p257. p258-p261.	1.0
					細胞傷害性T細胞を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					Th1細胞を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					B細胞の分化・成熟を解釈する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
9	11/9	田中	ユニット7 B細胞と抗体による免疫応答（体液性免疫）	体液性免疫を理解する。	B細胞による抗体産生とクラススイッチを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p244-p246.	1.0
					Th2細胞を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					T細胞依存症と非依存症の抗体産生を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
10 11	11/16 11/30	米田	ユニット8 免疫系における過剰反応	アレルギーを理解する。	アレルギー分類を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p271-p277. p280-p281.	10] 1.0 11] 1.0
					アレルギーに関わる細胞と化学物質を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					I～Ⅳ型アレルギーおよび関連疾患を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					歯科疾患とアレルギーとの関連を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
12	12/10	池邊	ユニット9 移植免疫	移植免疫を理解する。	臓器移植の条件を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p261-p262. p233-p237.	1.0
					主要組織適合抗原を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					拒絶反応を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					GVHDを説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
13	12/10	池邊	ユニット10 腫瘍免疫	腫瘍免疫を理解する。	免疫監視機構を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p262-p263.	1.0
					腫瘍の免疫療法の種類を列挙し、機序を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					腫瘍免疫におけるワクチンを述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
14	12/21	田中	ユニット11 ワクチン	ワクチン接種による感染症の予防を理解する。	ワクチンの意義を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書p264-p267. p282-p284.	1.0
					ワクチンの種類を列挙し、特徴を述べる。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					ワクチンの問題点を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
			ユニット12 粘膜免疫	粘膜免疫を理解する。	粘膜免疫を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
15	12/21	田中	ユニット13 生体防御機構の破綻	免疫不全および自己免疫疾患を理解する。	免疫不全による疾患を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）	教科書 p268-p271. p277-p279.	1.0
					自己免疫疾患の発症を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		
					代表的な口腔自己免疫疾患を説明する。	Ⅲ-4	認知（想起）		

病理学 【講義】

科目番号 0D021106

後期：30コマ

評価責任者：橋本修一

担当教員：吉本尚平、大野 純、
岡村和彦、岡野慎士、橋本修一

（一般目標）

全身的疾患および口腔疾患に共通する基本的病態、すなわち疾病の原因、発生機序、経過、転帰および病変の病理組織学的特徴などを理論的に理解し、臨床歯科医学における診断、治療、予防との関わりを知る。

（教育方法）

口授、スライド、サブノート、板書、PCによる講義

（学習方法）

授業前後に、指定教科書、配布サブノート、e-learning等による予習、復習、中間試験の復習を行なう。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：30.0時間】

（評価）

中間試験20%、定期試験80%

「学生へのフィードバックの時期と方法」

中間試験については、試験後、模範解答を掲示するとともに、成績を概ね2週間後に通知する。
定期試験の成績は試験終了後、概ね1週間後に通知する。

（教科書）

坂本穆彦、北川昌伸、仁木利郎 編集『標準病理学』第5版 医学書院 2015

（参考書）

1. 井上 孝、田中昭男、長谷川博雅 編集主幹 病理学総論にもとづく『口腔病理学』第2版 永末書店 2018
2. 淵端 猛・祖父江鎮雄 他監著『イラストでわかる歯科医学の基礎』2版 永末書店 2010
（カラーのわかりやすいイラストで解説しており、病理学の基礎がやさしく理解できる）
3. 大西俊造、梶原博毅、神山隆一 監修『スタンダード病理学』第3版 文光堂 2009
4. 二階宏昌、岡邊治男 編集『第2版 歯学生のための病理学 一般病理編』医歯薬出版 2010
（病理学総論について、歯学生に必要な要点が分かりやすくまとめられている）
5. Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Jon Aster 著『Robbins Basic Pathology』第9版 Elsevier 2012
6. 賀来亨、田中昭男 編集『簡明 口腔病理アトラス』永末書店 2015 第2刷
7. 高木 寛 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018
（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/4	岡村	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	1) 口腔病理学の歯科医学における位置づけや病理診断の重要性について述べ、病理検査の基本事項を説明する。 2) 病因と疾患の関連を説明する。 3) 病因を分類し、全身および口腔病変の原因を述べる。	Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5	認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈）	教科書 p4～p10	1.0
2	9/4	吉本	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	4) 内因（遺伝子・染色体異常、発生異常を含む）を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p4～p10、p210～p247	1.0
3	9/11	吉本	病理学序論、病因論	歯科医学における口腔病理学および口腔病理学の位置づけ、意義および病気の原因を理解する。	5) 外因を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p4～p10、p210～p247	1.0
4	9/11	岡村	細胞、組織の障害	細胞、組織障害の病因と形態学的変化を理解する。	1) 代謝障害（退行性病変）を分類する。 2) 変性の定義を説明し、分類する。	Ⅲ-5 Ⅲ-5	認知（解釈） 認知（解釈）	教科書 p12～p19、p138～p171	1.5

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
5	9/18	岡村	細胞、組織の障害	細胞、組織障害の病因と形態学的変化を理解する。	3) 壊死および壊疽の定義を述べ分類し、形態学的変化を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p19～p23	1.5
					4) アポトーシスの特徴を述べる。	Ⅲ-5	認知（解釈）		
6	9/18	大野	組織の再生・細胞成長の異常（1）	1) 組織の再生、萎縮、肥大、化生および細胞の増殖・分化の異常を理解する。	再生、萎縮、肥大、過形成、化生の定義、分類を述べ、病態を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p23～p34	1.0
7	9/25	大野	組織の再生・細胞成長の異常（2）	2) 創傷の治癒について理解する。	1) 肉芽組織の特徴を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p23～p34	1.0
8	9/25	大野	組織の再生・細胞成長の異常（2）	2) 創傷の治癒について理解する。	2) 異物処理、器質化を述べる。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p23～p34	1.0
					3) さまざまな創傷治癒過程を述べる。	Ⅲ-5	認知（解釈）		
9	10/2	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	1) 循環系の機能と構造ならびに充血とうっ血について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
10	10/2	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	2) 水腫（浮腫）ならびに出血について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
11	10/9	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	3) 止血機構と血栓症ならびに塞栓症について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
12	10/9	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	4) 血栓症および塞栓症について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
13	10/16	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	5) 虚血と梗塞ならびに側副循環について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
14	10/16	岡野	循環障害	循環障害の概念および分類を知り、循環障害の定義、原因および病態を理解する。	6) 心不全ならびに高血圧と低血圧について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p174～p207	1.0
					7) ショックについて説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）		
15	10/29	吉本、岡村、大野、橋本	中間試験						
16	10/29	吉本、岡村、大野、橋本	中間試験						
17	11/5	岡村	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	1) 炎症の概念および炎症にかかわる細胞、ケミカルメディエータ、宿主要因について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p36～p69	1.0
18	11/5	岡村	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	2) 急性炎症と慢性炎症について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p36～p69	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
19	11/12	岡村	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	3) 炎症に関与する細胞を挙げ、その働きを述べる。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p36～p69	1.5
20	11/12	岡村	炎症	炎症の概念および分類を知り、炎症の定義、病因、および病態を理解する。	4) 各種炎症の形態像（炎症の分類）および炎症の終焉や全身への影響について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p36～p69	1.0
21	11/19	岡野	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	1) 臓器移植に関連した免疫反応を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p96～p135	1.0
22	11/19	岡野	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	2) アレルギーを説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p96～p135	1.0
23	11/26	岡野	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	3) 自己免疫疾患を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p96～p135	1.0
24	11/26	岡野	免疫の病理	免疫異常のメカニズムと疾患の発症との関連を理解する。	4) 免疫不全症を説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p96～p135	1.0
25	12/3	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	1) 腫瘍の定義と分類、ならびに癌の拡がり方と進行度について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.5
26	12/3	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	2) 前癌と境界病変ならびに癌の診断と治療・予後について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.0
27	12/10	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	3) 腫瘍の生物学について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.0
28	12/10	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	4) 腫瘍の発生について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.0
29	12/17	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	5) 癌遺伝子と癌抑制遺伝子について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.0
30	12/17	橋本	腫瘍	腫瘍の概念および分類を知り、病態を理解する。	6) 腫瘍と宿主ならびに疫学について説明する。	Ⅲ-5	認知（解釈）	教科書 p250～p297	1.0

歯科理工学Ⅲ 【講義】

科目番号 OD021124

後期：15コマ

評価責任者：都留寛治

担当教員：都留寛治、丸田道人、梶本 昇、佐藤 平

（一般目標）

歯科治療で使用する材料や器械の正しい選択と取扱いができるために、歯科材料の基本性質（物理的性質、化学的性質、生物学的性質）とその使用法に基づいて分類し、その組成、硬化反応、基本的な性質を理解し必要な特性を発現させるための基盤的知識を身につける。

（教育方法）

指定教科書の解説を中心に、補助学習のプリントの配布とe-Learningを行う。

【資源】

講義には教科書「スタンダード歯科理工学」を持参すること。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】

授業前にスタンダード歯科理工学の該当箇所を通読し、理解できない語句を調べてノートにまとめておくこと。

【復習方法】

授業実施時に配布するプリントを用いて、スタンダード歯科理工学の該当箇所を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

【評価の割合】

定期試験による評価（100%）

【フィードバックの時期と方法】

フィードバックの時期：試験終了後

フィードバックの方法：試験結果に基づき、追加学習すべき項目を掲示する。

*試験に関する案内は、8F歯科医療工学講座生体工学分野の掲示板を用いて行うので試験前には必ず確認すること。

*授業を欠席した場合は配布プリントを各自で受け取りに来ること。

（教 科 書）

中 嶋 裕 他 監修『スタンダード歯科理工学第7版』：学建書院：2019

（参 考 書）

歯科理工学会編：歯科理工学教育用語集 第3版、医歯薬出版、2018.

（歯科理工学の専門用語を解説したもので、歯科理工学を学ぶ時の辞書として有用である。）

宮崎隆他編：臨床歯科理工学、医歯薬出版、2006.

（歯科における疾患別に利用される歯科材料が豊富なカラー写真や図とともに解説されており、臨床治療と歯科材料とも関わりが理解しやすい。）

日比野靖著：「歯科理工学サイドリーダー第6版、学建書院2008.

（歯科材料の特徴および物性を簡潔にまとめているので歯科材料全体の把握に便利である。後半部には演習形式の設問や歯科医師国家試験の過去問の解説があり知識の整理に役立つ。）

小倉英夫他編：コア歯科理工学、医歯薬出版、2008.

（臨床実習に必要な歯科理工学関連の知識について初学者を対象として多くの図表を用い平易に解説している。）

中村正明他編：目で見える歯科理工学、医歯薬出版、1992

（イラストを豊富に使用し、歯科臨床的視点からの記述が多いため、歯科臨床との関係を理解する一助となる。）

細井紀雄他編「コンプリーテンチャーテクニック第6版」、医歯薬出版、2011.

（本学の有床義歯補綴学の講義で使用されている。）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/1	梶本	義歯用材料	義歯用材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	義歯用材料の所要性質を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1]
2	9/8				義歯用材料の分類を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		1.0
3	9/15				義歯用材料の成分・組成を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）		2]
					義歯用材料の成形法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		1.0
					義歯用材料の特性を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		
4	9/29	丸田	予防歯科材料	予防歯科で使用する材料を分類し、それぞれの組成・特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	予防歯科の分類を列挙できる。	Ⅲ-21	認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	4]
5	10/6				歯質強化剤の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		1.0
					予防填塞材の種類、特性、操作方法を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）		5]
									1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
6 7	10/13 10/20	丸田	切削・研削・研磨材	歯牙切削ならびに修復物の研磨に使用される材料の種類と特徴を理解する。	切削・研磨に使用される器具の構造を説明できる。 刃先（砥粒）に必要な性質を説明できる。 切削、研削、研磨を説明できる。 歯牙切削の特殊性について説明できる。 切削工具の組成や研磨材の種類・用途を列挙できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈） 認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	6] 1.0 7] 1.0
8 9	10/27 11/10	[8回] 服部 [9回] 佐藤	歯科用器械	歯科治療に使用する器具の種類と特徴を理解する。	診療用器械について説明できる。 レーザーの種類と特性を説明できる。 画像診断装置の種類と用途を列挙できる。 齲蝕、歯周疾患、歯内疾患の診断・治療機器の種類と用途を列挙できる。 光照射装置の種類と波長を列挙できる。 CAD/CAMシステムを説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（想起） 認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	8] 1.0 9] 1.0
10	11/17	梶本	矯正用材料	矯正治療で使用する材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	矯正用材料の分類と種類を列挙できる。 矯正用材料の所要性質を説明できる。 矯正用金属ワイヤーの種類と特性を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（想起） 認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
11	11/24	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	インプラント用材料の所要性質を説明できる。 歯科用インプラントの構造を説明できる。 インプラント材料の生体反応による分類ができる。 オッセオインテグレーションとチタンインプラントの表面処理を説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（想起） 認知（想起） 認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
12	12/1	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	骨移植（ボーングラフト）を説明できる。 自家骨、同種骨、他家骨、人工骨の違いを説明できる。 人工骨補填材の生体反応による分類ができる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
13	12/8	今里	コンポジットレジン の応用と展開	コンポジットレジンに抗菌性を発現させるための材料設計と応用展開を修得する。	抗菌性コンポジットレジン	Ⅲ-21	認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
14	12/15	都留	インプラント適用人工骨の設計	インプラント治療に適用可能な人工骨補填材を理解する。	インプラント治療に適用可能な人工骨補填材の組成と性質を説明できる。	Ⅲ-21	認知（解釈）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0
15	12/16	都留	インプラント用材料	インプラント療法で使用される材料を分類し、それぞれの用途、成分・組成、特性、操作方法を理解することにより必要な所要性質を発現させるための基盤的知識を修得する。	組織誘導再生法（GTR）と骨誘導再生法（GBR）が説明できる。 細胞遮断膜の分類ができる。 細胞遮断膜の所要性質を説明できる。 縫合糸の構造、吸収性の有無、材料の由来に基づく分類ができる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	認知（解釈） 認知（想起） 認知（解釈） 認知（想起）	スタンダード歯科理工学の該当するページ（ユニット名に準じる）を事前に読んでくること。	1.0

口腔保健学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D021201

後期：20コマ

評価責任者： 埴岡 隆

担当教員： 埴岡 隆、渡辺 猛、谷口 奈央、島津 篤、内藤麻利江

（一般目標）

疾病の自然史の概念を理解し、健康増進と疾病予防の科学的根拠となる疫学、スクリーニング手法および歯科指標の知識を習得する。個人、臨床および社会の各部面において、全身の一部としての口腔の健康増進および口腔疾患の予防とその重要性の理解の基本となることを意識して、健康と病気との関係について理解し、さらに、公衆衛生の寄与についての知識を深める。個人および集団に対して予防および健康増進技術を適用し、全身の健康およびQOLの向上を通じて、医療従事者の一員として健康面で口腔医学の実践に参加するための基本的知識を獲得する。

（教育方法）

教科書、配布資料、学生参加型授業、グループディスカッション、PBL、協調・協同学習、体験学習、調査学習、ディベート、反転授業

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（その他AL）

（学習方法）

授業前後に下記予習の項目にある教科書や参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：20.0 時間】

（評価）

中間試験（40%）、定期試験（40%）、受講態度・レポート（20%）

中間試験、定期試験後、必要に応じて解説を掲示する。

（教科書）

1. 米満正美、小林清吾、宮崎秀夫、川口陽子編、「口腔保健・予防歯科学」、医歯薬出版、2018
2. 宮武光吉、渡邊達夫、栗石 聡、川口陽子編、「衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2018

（参考書）

1. 筒井昭仁 他編、「新 フッ化物ではじめるむし歯予防」、医歯薬出版、2012（フッ化物の応用に必要な知識と一般大衆の疑問に即した解説をしている）

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	埴岡 隆	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	疫学の意義指標を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	疫学の意義指標	1.0
2	9/14	埴岡 隆	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	記述疫学を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	記述疫学	1.0
3	9/28	埴岡 隆	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	分析疫学を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	分析疫学	1.0
4	10/5	埴岡 隆	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	介入研究を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	介入研究	1.0
5	10/12	埴岡 隆	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	疫学・検診における診査・指数を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	疫学・検診における診査・指数、歯科疾患の現状	1.0
					歯科疾患の現状を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）		
6	10/19	埴岡 隆	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	う蝕の指数を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	口腔清掃、その他の歯科疾患の指数う蝕、歯周疾患の指数	1.0
					歯周疾患の指数を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）		
7	10/26	埴岡 隆	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	口腔清掃の指数を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	口腔清掃、その他の歯科疾患の指数	1.0
					その他の歯科疾患の指数を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）		

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
8	11/2	島津 篤	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	口腔診査法を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	口腔診査法、スクリーニング検査の意義、役割	1.0
					スクリーニング検査の意義、役割を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）		
9	11/2	島津 篤	ユニット1 疫学	疫学の意義・方法、歯科検査、スクリーニング検査を理解する。	スクリーニング検査の誤差、指標を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	スクリーニング検査の誤差、指標	1.0
10	11/9	埴岡 隆	ユニット2 疫学指標	疫学歯科指標を理解する。	臨床疫学とEBMならびに臨床研究倫理を説明できる。	Ⅲ-23	認知（解釈）	臨床疫学とEBMならびに臨床研究倫理	1.0
11	11/9	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	健康および疾病予防の概念を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	健康および疾病予防の概念、地域保健活動、歯科保健活動	1.0
					地域保健活動、歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）		
12	11/16	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	母子保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	母子保健活動	1.0
13	11/16	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	母子歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	母子歯科保健活動	0.0
14	11/30	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	学校保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	学校保健活動	0.0
15	11/30	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	学校歯科保健活動を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	学校歯科保健活動	1.0
16	12/7	谷口奈央	ユニット3 保健活動	ライフステージ別保健活動を理解する。	成人・産業保健活動、産業歯科保健活動、精神保健を説明できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	成人・産業保健活動、産業歯科保健活動、精神保健	1.0
17	12/7	谷口奈央	ユニット4 歯科疾患の予防	疫学から予防への経路を理解する。	地域予防歯科活動を口臭予防を例にあげて説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	口臭予防	1.0
18	12/14	埴岡 隆	ユニット4 歯科疾患の予防	疫学から予防への経路を理解する。	地域予防歯科活動を禁煙指導・支援を例にあげて説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	禁煙指導・支援	1.0
19	12/16	内藤麻利江、渡辺 猛	ユニット4 歯科疾患の予防	疫学から予防への経路を理解する。	地域予防歯科活動を食育を例にあげて説明できる。	Ⅳ-6	認知（解釈）	食育	1.0
20	12/21	内藤麻利江、渡辺 猛	ユニット4 歯科疾患の予防	疫学から予防への経路を理解する。	地域予防歯科活動を支える法律・制度の概説できる。	Ⅲ-22	認知（解釈）	地域予防歯科活動を支える法律・制度並びに国際歯科保健活動	1.0
					国際歯科保健活動を説明できる。	Ⅵ-6	認知（解釈）		

生命倫理学 【講義】

科目番号 OD021302

後期：16コマ

評価責任者：永嶋哲也

担当教員：永嶋哲也

（一般目標）

教養ある歯科医師となるために、生命倫理学において問われているさまざまな倫理問題を学ぶことによって、医療者としての責任を自覚し、現代の医療が抱える倫理的問題について洞察を深める。

（教育方法）

板書中心の講義形式。

（学習方法）

授業を集中して聴く。

教科書は指定しないので、予習は指定のキーワードについて内容をネット等で調べ参照しておく。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 13.0 時間】

（評価）

定期試験（80%）

平常評価（20%）授業出席状況、受講態度、および確認テストによる。

確認テストは、各ユニットごとに1～2回（学期中に合計4～5回）授業時間内にミニテストとして行う予定。次の回の講義時に答案を返却し模範解答を示す。

（教科書）

使用せず。講義の中で、適宜プリントが詳細資料として配布される。

（参考書）

香川 知晶『生命倫理の成立—人体実験・臓器移植・治療停止』勁草書房、2000（米国における生命倫理の形成史を扱うことで生命倫理とは何かについて説明されている）

ピーター・シンガー『実践の倫理』山内友三郎、塚崎智・訳、昭和堂、1999

ピーター・シンガー『生と死の倫理 伝説的倫理の崩壊』榎則章・訳、昭和堂、1998（パーソン論に立つ倫理学者による基本的テスト）

そのほか講義の中で適宜紹介される。

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/2	永嶋哲也	1-1 医療倫理学と生命倫理学	医療倫理学について理解する	医療倫理学と生命倫理学との関係を説明する	I-2	認知（想起）	キーワード「生命倫理学」	0.8
2	9/9	永嶋哲也	1-1 医療倫理学と生命倫理学	医療倫理学について理解する	生命倫理学の成り立ちと特徴を説明する	I-2	認知（想起）	キーワード「生命科学の時代、Bioethicsの誕生」	0.8
3	9/16	永嶋哲也	2 生命の始まりに関わる倫理問題	生命の始まりに関わる医療倫理問題について理解する	避妊と人口妊娠中絶に関わる倫理問題を説明する	II-2	認知（想起）	キーワード「避妊、墮胎」	0.8
4	9/23	永嶋哲也	2 生命の始まりに関わる倫理問題	生命の始まりに関わる医療倫理問題について理解する	人口妊娠中絶と母体保護に関わる倫理問題を説明する	I-4	認知（解釈）	キーワード「人工妊娠中絶、Pro-life」	0.8
5	9/30	永嶋哲也	2 生命の始まりに関わる倫理問題	生命の始まりに関わる医療倫理問題について理解する	出生前診断と選択的中絶に関わる倫理問題を説明する	II-2	認知（解釈）	キーワード「出生前診断、選択的中絶」	0.8
6	10/7	永嶋哲也	2 生命の始まりに関わる倫理問題	生命の始まりに関わる医療倫理問題について理解する	重度障害児の治療停止に関わる倫理問題を説明する	II-1	認知（解釈）	キーワード「トリソミー、仁志田のガイドライン」	0.8

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
7	10/14	永嶋哲也	2 生命の始まりに関わる倫理問題	生命の始まりに関わる医療倫理問題について理解する	生殖補助医療に関わる倫理問題を説明する	II-1	認知（解釈）	キーワード「生殖補助医療、代理出産」	0.8
8	10/21	永嶋哲也	3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	正義原則について医療資源の公正配分から説明する	II-1	認知（解釈）	キーワード「医療倫理の四原則、正義原則、自律尊重原則」	0.8
9	10/28	永嶋哲也	3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	正義原則についてトリアージを例に説明する	I-6	認知（解釈）	キーワード「医療資源の公正配分、トリアージ」	0.8
10	11/4	永嶋哲也	3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	自律尊重原則についてプライバシーを例に説明する	I-3	認知（想起）	キーワード「私事権、自己情報コントロール権」	0.8
11	11/11	永嶋哲也	3-1 倫理原則 正義・公正の原則	正義・公正の原理について理解する	自律尊重原則についてインフォームドコンセントを例に説明する	I-5	認知（想起）	キーワード「自己決定の権利、説明を受ける権利」	0.8
12	11/18	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	パーソン論における受苦能力について説明する	I-6	認知（解釈）	キーワード「パーソン論、種差別」	0.8
13	11/25	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	パーソン論と人間の尊厳との関係について説明する	I-5	認知（解釈）	キーワード「受苦能力、パーソン」	0.8
14	12/2	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	動物の権利についてパーソン論との関連から説明する	I-2	認知（想起）	キーワード「動物の権利、動物解放」	0.8
15	12/9	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	動物解放／動物の権利について説明する	I-2	認知（解釈）	キーワード「ヴィーガン、動物愛護」	0.8
16	12/16	永嶋哲也	4-1 動物解放・動物の権利 パーソン論	パーソン論について理解する	動物の愛護と3R原則について説明する	I-3	認知（想起）	キーワード「動物実験、3R」	0.8

医療・臨床心理学【講義】

科目番号 0D021305

後期：15コマ

評価責任者：金光芳郎

担当教員：金光芳郎

（一般目標）

全人的医療の実践に向けて、人間（患者）の心理について学び、医療現場における患者の理解と支援に役立てる。

（教育方法）

講義および演習

（学習方法）

講義前後に関連書籍の該当箇所を読み、講義内容を理解する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験、小テスト：試験後、模範解答を提示

（教科書）

指定なし

（参考書）

プラクティカル医療心理学 飯田紀彦編著 金芳堂
健康行動理論の基礎 松本千秋著 医歯薬出版
歯科医療人間科学へのいざない Kent G他著 新庄文明他訳 医歯薬出版
自律訓練法 松岡洋一他著 日本評論社

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
1	9/7	金光芳郎	ユニット1 コミュニケーション論概説	ヘルス・コミュニケーションについて理解する。	ヘルス・コミュニケーションにおける医師患者関係の重要性について述べる。	II-4	認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
2	9/14	金光芳郎	ユニット2 面接技法	医療面接技法の理論と方法を理解する。	言語的・非言語的コミュニケーションについて説明する。	II-3	認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
3	9/28	金光芳郎	ユニット2 面接技法	医療面接技法の理論と方法を理解する。	面接技法の理論と方法を説明する。	II-3	認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
4	10/5	金光芳郎	ユニット3 インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの重要性とその方法を理解する。	インフォームドコンセントの要件について述べる。 インフォームドコンセントを阻害する要因について述べる。	III-16 III-16	認知（解釈） 認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
5	10/12	金光芳郎	ユニット4 交流分析	交流分析の理論と自己理解・他者理解の重要性を理解する。	自我状態の構造について理解し、エゴグラムに基く解析をする。 交流分析により、他者との交流パターンを理解する。	III-16 III-16	認知（解釈） 認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
6	10/19	金光芳郎	ユニット5 カウンセリング	カウンセリングの理論と方法を理解する。	医療におけるカウンセリングの意義と、心理療法の治療モデルについて述べる。	III-16	認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
7	10/26	金光芳郎	ユニット6 臨床心理学概説	臨床心理学の概念と理論について理解する。	理論心理学、臨床心理学の意味について述べる。	III-16	認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
8	10/29	金光芳郎	ユニット7 心と脳	感情や行動をコントロールする脳の機能を理解する。	行動や性格、感情などの働きと、脳神経との関連を説明する。 大脳皮質、辺縁系、視床下部、下垂体、副腎の機能を説明する。 心身相関における自律神経系、内分泌系、免疫系の関与を説明する。	III-16 III-16 III-16	認知（解釈） 認知（解釈） 認知（解釈）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0

回	授業日	授業担当者	ユニット番号・項目名	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	コンピテンシー	教育目標領域	予習の項目	必要時間
9	11/5	金光芳郎	ユニット8 心理アセスメント	心理面の評価方法や心理テストについて理解する。	心理テスト、心理面接による心理面の評価法について述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					性格、うつ、不安、ストレス反応を評価する心理テストを説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					面接法による心理アセスメントの技法と手順を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
10	11/12	金光芳郎	ユニット9 ストレスモデルと危機介入	ストレス理論と、問題解決のための危機介入の方法を理解する。	ライフステージをもとに成長段階と成長過程に伴うストレスと代表的な障害、病態を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					ストレスモデル、適応、対処機制（行動・コーピング）、防衛機制、自己効力感、社会的支援について説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					危機、悲哀、喪失のプロセスについて述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					危機介入の問題解決の条件と過程を説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
11	11/19	金光芳郎	ユニット10 不安の心理	不安の心理、不安の生理と行動への影響を理解する。	不安の脳生理学的機序を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					不安の評価法と対処法を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					歯科治療恐怖（デンタルショック）、過換気症候群を説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
12	11/26	金光芳郎	ユニット11 痛みの心理	痛みの心理、慢性疼痛、心因性疼痛について理解する。	痛みのもつ心理的意義を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					痛みの評価法と心理的治療法を述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					歯科領域の痛みを主訴とする疾患について説明する。舌痛症、顎関節症、非定型口腔顔面痛について述べる。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
13	12/3	金光芳郎	ユニット12 心理療法	心理（精神）療法の理論と方法を理解する。	各心理療法（非指示的療法、精神分析、催眠療法、家族療法、作業療法、森田療法、内観療法、絶食療法）について、その方法論と効果について説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
14	12/10	金光芳郎	ユニット13 行動理論と認知行動療法	行動（学習）理論、行動療法について理解する。認知行動療法について学ぶ。	学習理論、行動療法、行動医学について説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					刺激統制法、系統的脱感作法、バイオフィードバック法を説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
					認知行動療法の理論と方法について説明する。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		
15	12/17	金光芳郎	ユニット14 リラクゼーション法とストレス管理	リラクゼーションの技法について理解し、ストレスマネジメントの方法について学ぶ。	リラクゼーション法の意義、目的、方法について知る。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）	参考図書、関連資料の該当箇所を調べておく。	1.0
					自己のストレスを評価し、ストレス管理を考える。	Ⅲ-16	情意（実践状況対応）		

成績評価方法、GPA（Grade Point Average）の活用について

GPA（Grade Point Average）

各授業科目の評点を5段階評価し（A・B・C・C-・D）、それを4から0の点数（GP: Grade Point）に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和（GPT: Grade Point Total）を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
再試60点	C-	1
59点～0点	D	0

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \text{GPT} \div \text{履修単位数の合計}$$

(GPT = [GP × 単位数] の総和)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
〇〇学講義	1	86	A	4	4
〇〇学講義	2	再試60	C-	1	2
〇〇学演習	2	60	C	2	4
〇〇学実習	3	72	B	3	9
計	8 ^{*1}				19 ^{*2}

$$\text{GPA} = 19(\text{GPT}^{*2}) \div 8 (\text{単位数の合計}^{*1}) = 2.38 \quad (\text{小数第3位四捨五入})$$

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

- 1) 基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目
- 2) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4) その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPAの活用目的

- 1) 学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

- 2) 特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福岡歯科大学

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話 092 (801) 0411番 (代)
Fax 092 (801) 0427番